

「20 代若者の転出超過」の実態と政策の方向性

－最終報告書－

関西学院大学 経済学部 栗田研究会

要旨

本報告書は兵庫県における転出超過、とりわけ若者の転出超過の実態を明らかとし、その要因とそれに対する政策提言をまとめたものである。我々は市役所及び商工会議所でのヒアリング調査、兵庫県民を対象とした路上調査、大学生調査、豊岡市の高校を対象とした高校生調査といった4つの調査を行った上で、定性分析と定量分析を行った。また、独自調査から取得したデータを用いた分析以外にも、地域経済データを用いた分析も行っている。分析結果からは地域との関わりの経験や地域理解度が兵庫県、とりわけ地元での居留意志や労働意志に大きな影響を及ぼしていることがわかった。

そして、それらの結果を踏まえて、我々は ① 高校生の地域理解や地域交流の拡大 ② 大学生フィールドワークの拡大 ③ まちづくりコワーキングスペースを政策として提言する。① はUターンの促進、②・③はIターンの促進を促すための政策であり、これによって転出超過に歯止めをかけることを目的としている。

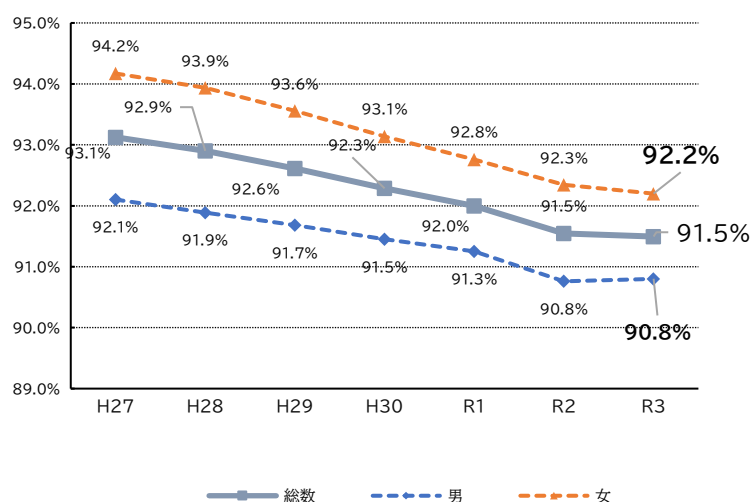
内容

要旨	1
第 1 章 若者転出超過の現状	4
第 2 章 先行研究.....	5
第 3 章 調査と分析結果	7
第 1 節 調査概要	7
第 2 節 分析結果	7
第 1 項 ヒアリング調査	7
第 2 項 マクロ分析	17
第 3 項 路上調査.....	22
第 4 項 大学生調査	31
第 5 項 高校生調査	38
第 4 章 政策提言	44
第 1 節 高校生の地域交流の拡大	44
第 2 節 淡路島大学（仮）とフィールドワーク	46
第 3 節 まちづくりコワーキングスペース with 保育所	52

第5章 まとめ	56
参考文献	58
補論	60

第1章 若者転出超過の現状

兵庫県では定住人口の減少が課題とされている。住民基本台帳人口移動報告（2024）によると、2023 年度における兵庫県の人口転出超過は都道府県別では広島県、愛知県に次ぐワースト 3 位であり、21 大都市別では神戸市がワースト 1 位であった。また、第二期「兵庫県地域創生戦略（2020~2024）」からも 2021 年度は少し改善傾向となっているものの、若者（20~24 歳）の人口定着率は低下基調となっており、兵庫県の転出超過の最大の要因が就職等に伴う若者の転出であることも明らかとなっている。なお、実際に兵庫県内の商工会議所や市役所も若い人材が不足していると強く感じていることが、本研究会が独自に行ったヒアリング調査（詳細は第3章）でも明らかとなった。



（若者の人口定着率 出典：兵庫県地域創生戦略）

若者の人口転出が深刻となっている一方で、U ターンや I ターンによって、子育て世代の 30 代の人々が兵庫県内に移住しており、転出超過が続いていた 30 代の人口が 2021 年に転入超過に転じている（兵庫県,2023）。これは就職等のライフイベントによって、一度は兵庫県外に移住した人が兵庫県内に戻ってきていることや、他の都道府県に住んでいる人々が新たな生活の場として兵庫県を選択する人々がいることが要因となっているのではないかと考えることができる。

また、兵庫県内において市町村別に転入超過の状況を確認すると、洲本市、淡路市、福崎町の 3 つの市町村が 2021 年度に転入超過となっている。特に、洲本市、淡路市、南あわじ市の 3 つの市町村からなる淡路島は地方移住を希望する人々にとって注目の場所となって

いる。淡路島は自然が豊かである上に、自動車を使用することで神戸までは約1時間、大阪までは約1時間半といったように都市部までのアクセスも比較的悪くないことが要因として考えられる。

それに加えて、淡路市が行ったパソナの企業誘致も広く知られている。上山（2023）ではパソナグループをはじめとした企業の本社移転に着目し、企業の本社移転が移転先の地方公共団体に与える影響を分析しており、本社機能の移転が移転先の地方公共団体の経常収支比率の改善に一定程度の影響を与えていることが明らかとなっている。企業の本社が地方に移転することで、その企業の従業員やその家族の移住が見込まれることから、地方公共団体における税収増などが考えられるからであろう。

以上のことから、兵庫県においては、人口流出が深刻であり、とりわけ若者の転出超過が大きな要因として考えられる一方で、子育て世代にとっては移住先の有力な場所の1つとして考えられている可能性があるために、UターンやIターンによって人口の維持に活路を見出すことができるかもしれない。そこで、栗田研究会では複数の調査や定性分析及び定量分析を行い、若者の転出超過の要因とUターンやIターンの決定要因について考察を行っていく。

第2章 先行研究

第1章で、若者の転出超過の要因とUターンやIターンに着目すること検討したので、第2章ではそれらに関する先行研究に着目する。まず、若者と地方労働市場について研究した論文として石井（2020）が挙げられる。石井（2020）では地方高卒及び大卒出身者の女性のライフワーク分析を行い、地方で生活する若者が自営業によって生活を営む事例を紹介している。石井（2020）は地方高卒及び大卒出身者は地域・学歴・性別を起因とした格差構造に埋め込まれている可能性を指摘している。また、地方において正社員として安定して収入を得ることができる環境が乏しいことを指摘しており、やみくもに地元就職率を高めようとする動きは若者を地元雇用の選択肢に縛り付けることになる（石井, 2020）。そこで、正社員として雇用されて生活を送るというライフスタイルではなく、自営業として若者のやりがいを最大限に反映するライフスタイルが地方において、有効ではないかと示唆している（石井, 2020）。そして、石井（2020）は若者が地方で自営業を営むためには地方における社会的ネットワークや公的セクターの支援が重要となってくことを述べている。このことから、若者が地方にとどまるためには、高校生または大学生までの期間に地元の人々

との交流をはじめとした、人と関わる機会がどれほどあったのかということが重要となる可能性がある。

地方における働き方において、石井（2020）と同様に、中澤（2020）も雇われない働き方に着目している。この論文では大分県佐伯市の出身者にインタビュー調査を行い、統計分析で明らかとなっている、雇用から雇われない働き方に移行するタイミングが景気変動ではなく、ライフイベントによって生じるものであるということを裏付けている（中澤 2020）。正社員として雇われるという働き方に固執せず、なりわいとして必要なお金を稼ぎ、自由に使うことができる時間を確保するといったライフスタイルを大都市圏で実現することは難しいため、このような雇われない働き方を支援する事業は U ターンや I ターンを促進する可能性があるのではないだろうか。

次に、上田・高田（2022）はネガティブな要因をきっかけとした若者の他出から帰郷までのプロセスと心理状態の変化について考察している。この論文では 20～40 代の若年帰郷者（男性 2 名・女性 3 名）に対してヒアリング調査を行い、定性分析を行っている。まず、若者たちが地元から離れるタイミングは就職する時であり、その要因として閉鎖的な環境や地元の住民同士の距離感が近いことから生じる地元に対するネガティブな感情や、高校時代に不登校や引きこもりなどを経験した人は地元コミュニティがないことから生じる地元への関心の薄さが挙げられている。また、このような要因で他出した人々は移住した先でコミュニティを形成することができないことで、疎外感を感じ、帰郷するケースがある。この場合、帰郷者は自身が帰郷したことに対して否定的な考えを持っており、帰郷後に公的セクターの支援のアクセスを避ける傾向にある。そのため、そのような帰郷者を支えることができるのは家族や友人をはじめとした人々であると述べている（上田・高田, 2022）。このことから若者の転出に対して社会的ネットワークの構築が重要であることが明らかである。また、転出だけでなく U ターンの受け入れ時にも社会的ネットワークの有無がその後の定住に影響を与える可能性があると考えられる。

ここまでで紹介した先行研究からも学生時代における地元の人々との交流が重要であることは明らかとなったので、それに関する論文をサーベイする。今永（2021）では地域創生型インターンシップの特徴を明らかにし、大学・企業・学生のそれぞれの立場における課題を浮き彫りにし、その 3 者の橋渡しとなる存在としてコーディネーターの重要性を主張している。地域創生型インターンシップは実施段階において、多くの課題が存在するものの、学生が集まって地域企業との関係性が構築されることで、将来的な両者のつながりが期待される（今永 2021）。また、芦塚（2021）では、中小企業における長期型インターンシッ

プは学生に対して学問知と実践知の往還を通して成長することができる機会を提供することになることや、企業側にもひたむきな学生のアイデアを通じて自社の成長につながるとされている。先述の今永（2021）と同様にコーディネーターの重要性を主張しており、受け入れ側のプログラムの充実度や意欲のある学生の選定など、インターンシップを行うにあたって念密な事前準備が重要である（芦塚 2021）。

第3章 調査と分析結果

第1節 調査概要

栗田研究会では若者の転出の要因分析や地方の現場の実態を明らかにするために、大きく分かれて4つの調査（市役所と商工会議所を対象としたヒアリング調査・兵庫県下における市民を対象とした路上調査・大学生オンライン調査・高校生調査）を行った。それぞれの調査の詳細な内容については各節で分析結果の内容と共に述べることとする。今回の調査の狙いとしては、ヒアリング調査によって地方の現場で生じている課題やそれに対する施策を聞き、問題を再認識する。また、路上調査によって兵庫県民が今の生活に対してどのように思っているかであることや、過去の就職活動についてなどライフイベントについても調査を行った。大学生調査や高校生調査では今後の兵庫県を担っていく存在として期待される若者が地元に対してどのような思いを抱いているのか、迫ってくる就職活動や神学についての意識を明らかにすることが狙いである。路上調査・大学生調査・高校生調査においては定量分析を行い、計量経済学の知見に基づいた考察を行う。

第2節 分析結果

第1項 ヒアリング調査

調査概要

ヒアリング調査では2つの市町村で行った。まず11月28日（火曜日）から29日（水曜日）にかけ豊岡市を訪問した。ヒアリング対象としては豊岡市役所と豊岡市商工会議所の2か所である。豊岡市役所ではくらし創造部地域づくり課コミュニティ振興係とDX推進部経営企画課の2部署の職員4名に対応していただき、1時間ほどヒアリングさせていただいた。豊岡市商工会議所では3名の職員の方に対応していただき、1時間30分ほどヒアリン

グさせていただいた。次に12月4日（月曜日）から12月5日（火曜日）にかけ淡路市を訪問した。ヒアリング対象は洲本市役所と洲本市商工会議所、南あわじ市役所、南あわじ市商工会議所、淡路市役所、淡路市商工会議所の6か所である。洲本市商工会議所では職員の方1名に対応していただき、1時間ほどヒアリングさせていただいた。淡路市役所ではまちづくり政策課と総務課の2部署の職員3名に対応していただき、1時間30分ほどヒアリングさせていただいた。淡路市商工会議所では職員1名に対応していただき、1時間ほどヒアリングさせていただいた。

調査内容

ヒアリング調査で質問した内容は主に3点である。1つ目は地域創生・街づくりで取り組んでいることである。2つ目は若者の転出超過についてどのように考えているかだ。3つ目はその市町村の強みと弱みである。以上の3点を中心に、様々なヒアリングをさせていただいた。

ヒアリング結果

以下はヒアリング調査の要点をまとめた表である。

表 ヒアリング調査の要点（市役所）

	淡路市役所	洲本市役所	南あわじ市役所	豊岡市役所
若者転出について	コロナによる増加 20代の転出<転入者	コロナ後から上向き傾向 社会増減+	全体ではマイナス 20代の転出大 40代は+の傾向	
行っていること	特色ある教育（タブレット教育） 企業誘致（市外から30社以上） 観光開発 空き家	移住対策・関係人口→ファン 域学連携 ワーケーション 各方面の誘致	移住・定住政策（U/Iターン） 一つながりを持っておくこと 応援事業 奨学金制度 交通費サポート 企業・空き家サポート	アートインレジデンス ジェンダーギャップの解消 英語あそび保育の推進 豊岡芸術祭 お米の海外戦略
課題	企業誘致の土地減少による見直し 交通の不便さ 人材不足 農業	定住対策が弱い Uターンサポートなし 交通サポートなし 住むところが少ない	情報発信・知ってもらい入り口 若者の仕事がない 人手不足	市民と演劇の距離感を埋める
今後について	観光は島全体で 空き家 新たな形の企業誘致	若者との交流機会創出 各方面の誘致 関係人口創出	人口減でも持続可能な社会を目指す ・入り口の創出 ・つながりの創出と継続 ・移住体験などの実施 ・淡路島全体としてアピール	DX推進 海外戦略 英語教育

（筆者作成）

この表は市役所でのヒアリング調査内容を若者の転出、活動内容、課題、今後についての4点の方向からまとめたものである。

若者の転出（市役所）

まず若者の転出についてまとめる

◎淡路市

まず若者の転出について淡路市では 20 代全体で転出が多いことを話していた。そのうえで転出を防ぐための大学誘致の件については現状、土地がないことが課題であるとしていた。その中で高校生からサポートしていくことの重要性を述べていた。淡路島に住む高校生は明石市や神戸市へと学区が広がる。そこで通学補助を行い、淡路市から明石市や神戸市へと通勤できる感覚を持ってもらうことが狙いだそうだ。また近年では子供の数が年々減少しているため淡路島の高校自体の存続が課題となっている。この課題に対しては兵庫県が兵庫県公立高校の教育水準を上げるために取り組みを行うこと聞いている。そのためそれによって対応していく必要があると考えている。また淡路市のもう 1 つの面として 20 代の転出人数よりも転入者数が多いという現状がある。これは平成 27 年度から令和 2 年の構成調査の結果、30 代から 60 代の人口は増えていることがわかっている。コロナ禍によってその傾向は増加した。それでも人口減少している原因としては若者の大学や就職に伴う人口流失と出生率の低下、高齢者社会による死亡率の増加の 3 つだと考えている。

◎洲本市

洲本市においても淡路市と同様にコロナ下で転入者数は上向きになり、社会増減が欧ラスに転じる傾向を見せたと述べていた。

◎南あわじ市

南あわじ市役所でも淡路市と同様に 20 代の転出が 1 番多いと述べていた。一方で 2020 年頃、つまりコロナ下において 40 代以上の転入者数がプラスに転じている。これも淡路市の同様の傾向であることがわかった。

まとめ

以上のヒアリングから淡路島の 3 つの市町村において 20 代の若者の転出が一番多いことが明らかとなった。その一方で 30 代から 60 代までの転入者数は増加しており、この傾向はコロナ下で顕著になったことが明らかとなった、これは企業誘致やコロナ禍のリモートワークの普及、淡路島での起業など様々な要因が考えられる。

力を入れている取り組み（市役所）

次に力を入れている取り組みについてまとめる。

◎淡路市

淡路市では地方創生・街づくりで取り組んでいることとして3つ挙げている。1つ目が特色ある教育である。コロナ前の平成24年度からタブレット教育を導入している。これは現場から導入してほしいというボトムアップから実現出来たそうだ。この効果としてコロナの際に全国的にタブレット教育に移行した時、スムーズに行うことが出来た。今後としてはこれまでのデータの蓄積を授業に活かそうとしている。2つ目が企業誘致である。平成19年度から取り組み始め、市外からすでに30社以上の企業が誘致されている。これによって雇用創出やそれに伴う経済効果が出てきている。今後も企業誘致の継続は行うが、課題として土地がなくなっている。遊休施設や小学校の土地は概ね利用することが出来ている。今後、新たにこれらの土地が出てくることはないためどこかのタイミングで政策を見直す必要があると考えている。3つ目は観光だ。淡路島の西海岸の西浦の瀬戸内海側は企業の進出に伴い、カフェや喫茶店などの観光施設が出来ている。これに伴い観光客が西に流れるようになっている。市役所が企業を誘致し、波及効果で民間が自分たちの力で開発する流れが出来ている。市が関わらないところで開発が進む効果が生まれているそうだ。コロナがきっかけで転入者が増え、移住者のなかには個人で事業をする人も多い現状がある。今後は民間の開発スピードが速いため民間の動きを見ながら動いていこうと考えている。例えば広告で観光の周知を図るなどしていこうとしている。

◎洲本市

洲本市では、力を入れている活動の一つに「域学連携」をキーワードとしたものがある。「域学連携」とは、大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民やNPO等とともに、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動と定義づけられている。洲本市が域学連携に取り組んでいる背景には、淡路島に総合大学がないということが挙げられる。現在では、大阪経済大学や武庫川女子大学などを含めて30以上の大学、800名以上の方と関わりを持っているそうだ。このように淡路島外から若い大学生などが来て、活動をする中で、実際に地域おこし協力隊になる方もいらっしゃるなど、地域を盛り上げることにつながる。これに加えて、関係人口の増加にも力を入れているそうだ。この大きな目的は、移住者の増加を図ることにあり、関係人口のように淡路

島や洲本市と関わりがある人はファンになりやすく、そのファンを増やすことで、移住者の増加につながるとなる。移住に着目すると、移住や定住のサポートや政策などにも取り組んでいるそう。特に 30 代、40 代のお育て世代が移住者としては多く、コンパクトで済みやすい、子育てしやすい点が大きく評価されているのではないかとおっしゃっていた。

◎南あわじ市

南あわじ市で力を入れている取り組みを挙げる。まずは、定住・移住政策だ。相談会や奨学金などのサポート、さらに若者ふるさと応援便事業、奨学金制度などがある。若者ふるさと応援便事業では、大学進学を機に淡路島外に移住した大学生に、生活応援の意味で淡路島産の食べ物などを送るというものである。これにより、島外に出ても出身者と接点を持っておくことができ、リターンも望めるものである。このつながりの創出と継続は大きな特徴の一つである。実際に令和 4 年度では 1000 件以上の実績がある。その他にも、企業や空き家問題へのサポートなども積極的に取り組まれている。

◎豊岡市

豊岡市では芸術と観光に力を入れている。芸術の面ではアートインレジデンスの取り組みなどがある。これは城崎国際アートセンターの最大施策である。この取り組みは毎年行っており、海外からの応募もある。しかしコロナ禍で渡航が制限され、少し減少した現状があった。それでも現在は回復傾向にあり、2023 年では公募が 51 件、採択が 12 件だった。豊岡市芸術祭はコロナ禍で規模を縮小していたが、今年は制限なしの開催をすることが出来たそう。内容としては演劇の鑑賞だけでなく、地域の業者と連携しナイトマーケットの開催の実施や、地域ごとに観光協会と公共団体と連携しイベント開催の実施、専門職大学の学生たちの実習の場としての活用など年々幅広いお祭りになっている。市民の方の演劇への距離感がまだ近いわけではないため、ナイトマーケットなど小さなイベントから身近に感じてもらうことを目的にしている。観光の面では城崎を中心にインバウンドの戦略を立てている。観光を楽しみながら演劇を絡めていくことを押し出している。また英語あそび保育という教育にも取り組んでいる。小学校でも 1 年生から英語学習を行い、今後、学力テストで成果を見ていこうと考えている。更に海外戦略にも力を入れている。コウノトリを絡めた背景のプロモーションと共にお米を届けていくことで、現在では 10 か国で活動している。そして 3 つ目に力を入れているのがジェンダーギャップの解消である。例えば地域コミュニティの役員の副会長や会計、顧問に女性を選出し、活性化を図っている。その効果として

会議時間が女性にあった時間へと変更された事例や、子供の同伴を許可する事例、協議会の名前がひらがなの接しやすい名前へと変更された事例など数々の好事例が寄せられている。また市役所内でも勤務時間の融通が利くようになった。例えば子供の送迎のために早く帰る男性が増えていたそう。他にも育休取得率の上昇や言葉や表現の意識の変化など多方面に表れていると話していた。

課題（市役所）

次に課題についてまとめる。

◎淡路市

淡路市では公共交通について述べていた。淡路島は電車が走っていないためバスまたはタクシーが交通手段となる。しかし民間のバス事業者が一部撤退をしている現状がある。そこで市としてコミュニティバスの整備をしているが、全域をカバーすることはできておらず、山間部などの対応策が今後の課題であると考えている。

◎洲本市

洲本市における課題の一つとして、定住政策の弱さを挙げられており、今後力を入れていきたいものと述べられていた。具体的には、仕事が少ないこと、住む場所も少ないこと、補助金なども不十分であることなどが挙げられる。特に居住地に関することが深刻な問題で、空き家バンクなどの事業にも今後力を入れていきたいとおっしゃっていた。また、看護学校はあるが大学や専門学校がないことも課題の一つであると考えられていた。大学などの教育機関がないことは、若者の転出につながるため、大学生と交流できる機会の増加も進めていこうと考えられていた。

◎南あわじ市

南あわじ市では、情報発信の弱さや南あわじ市を知ってもらう入り口が少ないことがまず挙げられる。さらに、全体的な人手不足であることや、若者がしたい仕事が少ないことなどもあげられていた。これらは総合して、南あわじ市に住む人の減少を加速、活性化が困難になる要因の一つになり得る。

今後について（市役所）

最後にそれぞれの市役所における今後についての取り組みをまとめる。

◎淡路市

淡路市では観光を淡路市だけでなく淡路の島全体で考えたほうがいいと述べていた。そのため洲本市や南あわじ市とも連携していきたいとしていた。また空き家について空き家バンクはいい物件が売れる循環が生まれているが、危険な空き家などの課題が残っているため取り組みを継続していく。

◎洲本市

洲本市における今後の展望について、2点挙げる。まずは、若者に着目したものだ。先述した通り、大学がないことが大きな背景となり、「域学連携」に力を入れているが、今後もそれらの若者との交流できる機会を増やしていきたいとおっしゃっていた。2点目に若者だけに限らず関係人口の増加である。関係人口の増加は移住者や定住者を増やすことにつながると考えられているため、今後も継続して行っていきたいと述べられていた。

◎南あわじ市

南あわじ市での今後の展望の大きな一つとして、人口減少でも持続可能は社会を目指すということがある。日本全体で少子高齢化というように、どうしても人口減は避けられないことである。そこで淡路島島内で人口の取り合いをするのではなく、淡路島全体となってあぴーるべきだと述べられていた。その上で、課題としてもあげられてた、情報発信や知ってもらい入りの創出や、移住体験などの実施が挙げられる。加えて、つながりの継続と創出も欠かせない。

表 ヒアリング調査の要点（商工会議所）

	淡路市商工会	洲本商工会議所	南あわじ市商工会	豊岡商工会議所
若者転出について	移住者が増加傾向	30, 40代の転入＞転出 移住者も増加傾向	創業者には若い女性も多い 20代が2割	定住人口は減少傾向 若い女性が出て行く
行っていること	補助金 商品券・プレミアム商品券 セミナーの開催 創業のサポート	事業承継 他商工会と連携あり	創業支援 セミナーなど 補助金 情報発信	雇用案件など各種セミナー 地区のお祭り運営
課題	人手不足 やりたいことができない (能力不足orシステム)	人手不足 原材料の高騰 後継者の問題 若者の人口流出 企業誘致	情報発信 人手不足	公共交通機関（但馬空港） 大阪・神戸からのアクセス 環境整備・情報発信
今後について	現状維持	閉鎖的ではない、若者が集まる場に	淡路島全体として行う	事業などの取り組みにおける市 役所との連携 女性に限らず若者が住んでいて 楽しい街づくり

（筆者作成）

この表は商工会議所でのヒアリング調査内容を若者の転出、活動内容、課題、今後についての4点の方向からまとめたものである。

若者の転出（商工会議所）

◎淡路市商工会

淡路商工会では、移住者が増加傾向にあるとおっしゃっていた。その要因としてパソナグループの影響などが考えられるそうだ。また創業のために移住する人もおり、それらの人が商工会に来るルートとして、市の紹介やHP、会員の紹介などが主である。

◎洲本商工会

洲本商工会議所では淡路島に大学がないことを課題だと感じていた。その中で企業の誘致を各市がやっているが、誘致される企業が少ないためもっと来てほしいと考えている。また洲本市は2023年、転出者数よりも転入者数が上回っており、移住者が増えている印象がある。パソナの波及効果で洲本市から通う人もいるそうだ。

◎南あわじ市商工会

南あわじ市では若者の転出について、若干数ではあるが淡路島島外からの移住者が増えているとおっしゃっていた。若い女性も増えているようで、20代が約2割を占めているそうだ。

◎豊岡商工会議所

豊岡商工会議所では定住人口減少と若者の減少を感じていた。都市部へ出て行った若者が戻ってこないため高齢者比率が高くなってしまっている。また特に若い女性の流失が多いと感じている。出生率の低下よりも、女性が戻ってこないことを課題としていた。

力を入れている取り組み（商工会）

次に力を入れている取り組みについてまとめる。

◎淡路市商工会

淡路商工会で取り組んでいることとして、補助金や商品券の発行が挙げられる。市と連携して行われるもので、地域経済を回すことが主な目的である。また、各回者向けの支援やセミナーの実施、創業のサポートにも取り組んでいる。

◎洲本商工会

洲本商工会議所では企業の跡継ぎの問題から事業承継の相談会などを行っている。買収したい企業と後継者が存在せず、困っている企業のマッチングを行う。また淡路市商工会と南あわじ市商工会との連携関係はあるようだ。月 1 回のページで連携会議を行うことや合同セミナーの開催、展示会への共同出店などを行っている。そのためこのような商工会偽書同士の連携や市役所との連携はうまくいっていると感じている。

◎南あわじ市商工会

南あわじ市商工会が力を入れている取り組みとして、創業支援が挙げられる。具体的には、セミナーの開催や補助金、情報発信などがある。創業支援のセミナーでは 3 年間で約 160 名の受講者がおり、実際に創業する人も増加しているようだ。

◎豊岡商工会議所

豊岡市商工会議所ではセミナーを開催し、雇用や採用に関する知識やスキルのサポートを行っている。また柳祭りという伝統的なお祭りを主催している。しかし近年では人手不足が課題となっているようだ。

課題（商工会議所）

次に課題についてまとめる。

◎淡路市商工会

翁課題の一つとして、人手不足を挙げられていた。これは他の多くの商工会や市役所が抱えている課題である。特に淡路商工会では、観光業や介護業、製造業などにこだわらず全般的に人手不足が生じているようだ。また、ある程度の大枠は決定されているため、自由度が低く、取り組みたい政策などを実施することが困難であるなどの課題もあるようだ。

◎洲本商工会

洲本商工会議所は人手不足を課題として挙げた。特に若手の人手不足が課題としてあるようだ。また淡路島の企業を見るなかで感じるのは原材料の高騰による大変さだという。淡路島は建築業が多いため原材料の高騰と人手不足への課題意識を強く感じる。また先ほど述べたような事業承継の課題も存在している。

◎南あわじ市商工会

南あわじ市商工会の課題として挙げられたことには、情報発信不足や人手不足が挙げられた。情報発信不足については、新卒の段階での企業情報発信や新卒に限らず全体での求人などである。この課題について、南あわじ商工会では、淡路島がまず一つとなって動く必要があると考えられていた。しかし情報発信に加えて、企業が少ないことや仕事が少ないことも現状の課題としてあるため、非常に困難な課題である。人手不足については、実際に事業所との相談の中で多く出てくる内容の 1 つであり、人手不足で雇いたい、求人を出してもなかなか応募者が来ないという課題がある。これについても、淡路島全体となって働きかけることや、信頼してもらうことなども大切にしたいとおっしゃっていた。

◎豊岡商工会議所

豊岡市商工会議所では公共交通機関に課題を感じていた。但馬空港は伊丹空港との直結が 1 日に 2 本あるのが現状のため、羽田空港との直行便が必要だと考えていた。この危機感には高速道路の整備だけでは不十分だという思いがあるからだそうだ。またお祭りの人手不足も課題としている。またジェンダーギャップの取り組みはまだまだ不十分であるとしていた。

今後について（商工会議所）

最後にそれぞれの市役所における今後についての取り組みをまとめる。

◎淡路市商工会

今後の展望では、基本的には現状維持だそう。具体的には、商品券や補助金、創業サポートなどの現在取り組んでいることである。

◎洲本商工会

洲本商工会議所では閉鎖的でなく若者の集まる街にするには企業の集まりが必要であると考えている。

◎南あわじ市商工会

今後の展望について、大きくまとめると淡路島全体となって取り組むということがある。課題で挙げられていた、人手不足問題や魅力のある仕事や企業が少ない問題、情報発信などに対して、淡路島の各市や町が対応するのではなく、淡路島全体として動くべきだとおっしゃっていた。また南あわじ商工会では市と連携もあるそうで、これらの連携やつながりを活かしていく必要がある。

◎豊岡商工会議所

豊岡市商工会議所では地域のお祭りや他の事業において豊岡市役所との連携や協力を進めていきたいと考えている。豊岡市商工会議所自体が人手不足のため、具体的な部分での連携を深めていきたい。また女性に限らず若者が住んでいて楽しい街づくりを目指していくそう。

第2項 マクロ分析

分析の方向性

本稿では、東洋経済新報社が出版する地域経済データ 2023 年に収録されている市町村統計データ約 15 年分を基にデータを作成している。地域経済データは 2020 年国勢調査や経済センサス、商業統計をはじめとする 29 分類・約 2,800 項目が収録されている。

定量分析：固定効果推計

本稿ではパネルデータを用いた分析を行うため固定効果推計（fixed effects estimator）を

行った。固定効果とは観測できないが時間を通じて一定な変数のことである。固定効果を用いることで時間を通じて一定で欠落変数バイアスをもたらすような要素を数学的に表現することが出来る。

分析方法

この分析では分析ソフトとして Stata Version13 を用いている。パネルデータを用い、年次固定効果と固体固定効果を含めた固定効果推計によって分析を行っている。

変数の説明

表 変数の説明

変数名	定義
被説明変数	
若者比率	20歳-24歳の若者の人口をその市町村の全体人口で割った変数 (総務省自治行政局：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数)
説明変数	
結婚	婚姻件数をその市町村の全体人口で割った変数 (厚生労働省統計情報部：人口動態保健所・市区町村別統計)
離婚	離婚件数をその市町村の全体人口で割った変数 (厚生労働省統計情報部：人口動態保健所・市区町村別統計)
年少人口	年少人口(0歳-14歳)をその市町村の全体人口で割った変数 (総務省自治行政局：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数)
高齢人口	高齢人口(65歳以上)をその市町村の全体人口で割った変数 (総務省自治行政局：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数)
転入者数	転入者数をその市町村の全体人口で割った変数 (総務省自治行政局：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数)
転出者数	転出者数をその市町村の全体人口で割った変数 (総務省自治行政局：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数)
地方税	地方税を歳入額で割った変数 (総務省自治財政局：市町村別決算状況調)
教育費	目的別歳出額の教育費を歳出額で割った変数 (総務省自治財政局：市町村別決算状況調)
都市公園面積	都市公園面積の変数 (国土交通省都市・地域整備局：都市公園整備水準調書)
現金給与総額	現金給与総額(工業統計)の総額を 事業所数(工業統計)の総数で割った変数 (経済産業省調査統計グループ：工業統計地域別統計表)
人口密度	市町村の人体人口をその市町村の面積で割った変数 (総務省自治行政局：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数) (国土交通省国土地理院：全国都道府県市区町村別面積調)
事業所数	事業所数(工場統計)の総数をその市町村の全体人口で割った変数 (経済産業省調査統計グループ：工業統計地域別統計表)

(筆者作成)

表 基本統計量

変数	統計量	平均	標準誤差	最小値	最大値
若者比率	23558	0.043	0.009	0.000	0.100
結婚	25490	0.004	0.002	0.000	0.024
離婚	25490	0.002	0.001	0.000	0.013
年少人口	23558	0.119	0.024	0.020	0.249
高齢人口	23558	0.310	0.075	0.115	0.667
転出者数	29329	0.035	0.017	0.003	0.223
転入者数	29329	0.039	0.015	0.007	0.289
地方税	26820	0.256	0.150	0.007	0.836
教育費	25842	0.112	0.044	0.000	0.535
都市公園面積	26844	134.090	552.694	0.000	13930.430
現金給与総額	22765	29.501	33.921	0.000	467.360
人口密度	27454	1499.675	3041.233	1.334	20322.190
事業所数	23505	0.002	0.001	0.000	0.025

(筆者作成)

計量モデル

推計式では若者比率を被説明変数にした。説明変数には市町村の人口の流れを見るために結婚や離婚、転入者数、転出者数を置いている。また子供の人口と高齢化率を見るために年少人口と高齢人口を置いている。市町村の財政による違いを見るために地方税や教育費、を置いている。また市町村の経済的な指標として現金給与総額と事業所数を置いた。他には市町村の衣食住などの観点を含めるため都市公園面積を置いている。更に市町村の都市化を見る指標として人口密度を置いた。

$$\begin{aligned} \text{若者比率} = & \beta_0 + \beta_1(\text{結婚}) + \beta_2(\text{離婚}) + \beta_3(\text{年少人口}) + \beta_4(\text{高齢人口}) + \beta_5(\text{転入者数}) \\ & + \beta_6(\text{転出者数}) + \beta_7(\text{地方税}) + \beta_8(\text{教育費}) + \beta_9(\text{都市公園面積}) \\ & + \beta_{10}(\text{現金給与総額}) + \beta_{11}(\text{人口密度}) + \beta_{12}(\text{事業所数}) + \varepsilon \end{aligned}$$

分析結果

分析結果は以下の表の通りである。

表 分析結果

変数	被説明変数
	若者比率
結婚	0.0587 (0.0555)
離婚	-0.0637 (0.0783)
年少人口	-0.291*** (0.0168)
高齢人口	-0.144*** (0.00837)
転入者数	0.0468*** (0.0167)
転出者数	-0.0242 (0.0150)
地方税	-0.00313** (0.00133)
教育費	-0.000647 (0.000830)
都市公園面積	1.45e-06 (1.01e-06)
現金給与総額	-2.51e-05*** (7.48e-06)
人口密度	3.64e-08 (5.48e-07)
事業所数	0.297* (0.163)
定数	0.121*** (0.00375)
観測数	15,478
市町村数	1,768
決定係数	0.439
有意水準	***1%有意, ** 5%有意, * 10%有意

(年次ダミーは省略) (カッコ内は標準誤差)

(筆者作成)

結果の考察

年少人口が1%水準で負に有意となっている。つまり年少人口比率が高い市町村ほど若者比率が低いことが明らかになった。これは若者の人口流失によって年少人口比率が高くて若者比率が低くなっているなどの要因が推測される。また高齢人口が1%水準で負に有意となっている。つまり高齢化率の高い市町村ほど若者比率が低いことがわかった。これは高齢化率の上昇による出生率の低下や若者の人口流失が要因として考えられる。一方で転入者数が1%水準で正に有意となっている。つまり転入者数比率が高い市町村ほど若者比率が高いことがわかった。これは転入者数が多い市町村において雇用機会が豊富で経済的に発展している傾向がある可能性があることを示している。また大学や専門学校が多いなどの教育機会の豊富さが転入者数の増加、そして若者人口比率上昇へと関係していることが考えられる。他には住環境や生活環境が整っている市町村が転入者数、そして若者の人口比率を高めていると推測される。

市町村の財政を表す指標として置いた地方税が5%水準で負に有意となっている。つまり地方税収の高い市町村ほど若者比率が僅かに低いことがわかった。また経済指標として置いた現金給与総額(工場統計)が1%水準で負に有意となっている。つまり現金給与総額(工場統計)の高い市町村ほど若者比率が低いことがわかった。これは高齢者層が主体となった結果、若者比率が減少しているのではないかと考えられる。高い給与が高齢者層に支払われていることで高齢者層が高まったことが要因の一つとして考えられる。一方、事業所数が10%水準で正に有意となった。つまり事業所数の比率が高い市町村ほど若者比率が高いことがわかった。事業所数は市町村の経済規模を見る指標として置いている。これは事業所が多い市町村は雇用機会が高まり、就業機会を求める若者の比率が高まったと考えられる。また事業所数の多さは産業の多様性を生み出し、若者の選択肢を増やすことも要因の一つだと考えられる。さらには事業所数の増加は創業や起業など新しい事業を生み出す可能性を高めるため若者比率が高まったと考察される。他には事業所数の増加が地域の魅力や住やすさを高めたことも要因ではないだろうか。以上のようなことが推計からわかったことである。

結論

このような分析結果から若者の人口比率を高めていくためには市町村は魅力や居住環境を整える必要があると考えられる。分析では若者比率に対して転入者数と事業所数が正に有意の結果となった。このことは転入人口を高めることと事業所数が増加する、つまり経済

を活性化させることが若者比率を高めることを表している。このことについて転入人口、事業所数 2 つの観点から考察することが出来る。まず転入人口が多い市町村は雇用機会が豊富である可能性が考えられる。また大学や専門学校などが多く、教育機会が豊富であると考察される。更に住環境や生活環境が整っており、住みやすい環境となっているのではないだろうか。次に事業所数が増加することは、雇用機会が高まり、就業機会が増えることが考えられる。また産業の多様性を高めることも考えられる。さらには起業や創業などのイノベーションが起こる環境になることも考察される。そして転入人口と同様に住環境が整い、住みやすい街づくりが行われるのではないだろうか。

以上のようなことから地域としての魅力を高めることが若者の人口を高めることが明らかとなった。

第3項 路上調査

分析の方向性

本稿では、7月から適宜行ってきた路上での街頭調査の結果をもとに分析を行う。現在の居住地の要因分析と就職活動当時の勤務地の希望の要因分析の2つを行う。

調査方法

本稿の路上調査では、7月から12月にかけて対象とした5市（神戸市、西宮市、明石市、姫路市、尼崎市）の駅前や公園などにて、街頭調査を行った。調査方法は、我々が作成した独自のアンケート用紙を用いたアンケート調査で、合計666名の方にご協力いただいた。なお有効回答は649である。アンケートの内容は、就職活動や現居住地のまちに対する評価、学生時代の地域との繋がり、個人特性などを含むもので、回答には平均で15分ほど要する。各対象市の調査場所と調査数については、以下の表を参照されたい。

	神戸市	西宮市	明石市	姫路市	豊岡市	尼崎市	合計
調査場所	三宮センター街入口 メリケンパーク	阪急西宮北口駅から アクタまでの道	明石城公園	姫路城広場付近	豊岡駅から 商店街の道	阪神尼崎駅 中央公園	
合計調査数	127	125	92	71	226	25	666
合計調査日数	3日	3日	2日	3日	2日	2日	15日

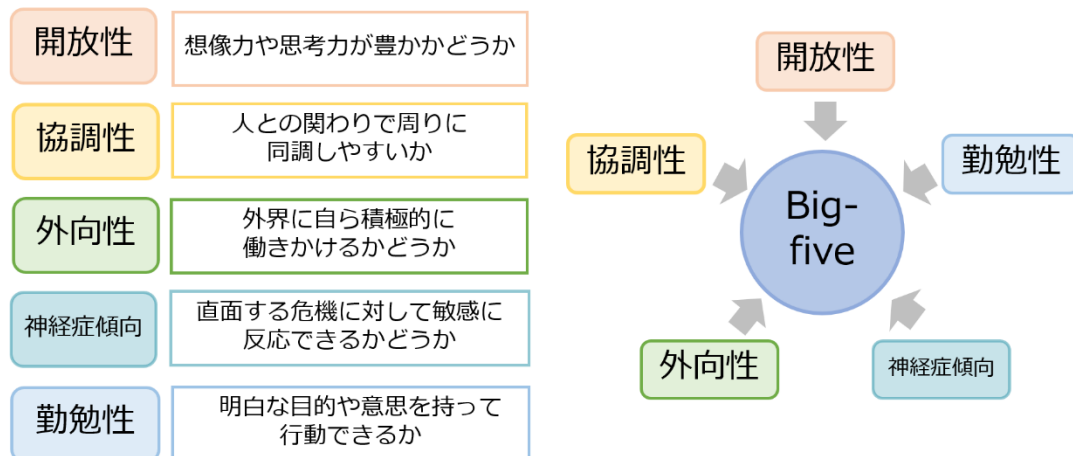
定量分析：プロビット分析

本分析では、被説明変数にダミー変数を置いたため、プロビット分析にて推計する。なお、限界効果を考慮したプロビット分析によって推計するため、分析結果の係数の解釈も1単位当たりの変化量としての解釈が可能である。

また、説明変数で用いた性格特性と居住地に対する評価は、因子分析にて共通因子を抽出したものを使用している。

性格特性について

性格特性



分析方法

この分析では分析ソフトとして Stata Version15 を用いて、定量分析を行う。分析に先立ち、使用変数について使用変数の定義と基本統計量にて説明する。

	変数	定義
現 居 住 地	神戸市	現在の居住地が西宮市なら1のダミー変数
	西宮市	現在の居住地が神戸市なら1のダミー変数
	尼崎市	現在の居住地が尼崎市なら1のダミー変数
	姫路市	現在の居住地が姫路市なら1のダミー変数
	明石市	現在の居住地が明石市なら1のダミー変数
	豊岡市	現在の居住地が豊岡市なら1のダミー変数
希 望 就 職 地	兵庫県内	就活時の希望勤務地が兵庫県内なら1のダミー変数
	関西圏	就活時の希望勤務地が関西圏なら1のダミー変数
	都市部	就活時の希望勤務地が東京都・大阪府なら1のダミー変数
性 格 特 性	協調性	因子分析にて抽出
	外向性	
	神経症傾向	
	開放性	
	勤勉性	
個 人 特 性	年齢	年齢を10代ごとの区切りを平均値にて算出
	性別	男性が1のダミー変数
	最終学歴	中卒、高卒、専門学校卒、短期大学卒、大学卒、大学院卒
	年収	100万円ごとのカテゴリーの年収
	未婚ダミー	未婚なら1のダミー変数
出 身 地	神戸市	出身地が神戸市なら1のダミー変数
	西宮市	出身地が西宮市なら1のダミー変数
	明石市	出身地が明石市なら1のダミー変数
	姫路市	出身地が姫路市なら1のダミー変数
	豊岡市	出身地が尼崎市なら1のダミー変数
	尼崎市	出身地が兵庫県外なら1のダミー変数
	兵庫県外	出身地が神戸市なら1のダミー変数
居 住 地	町の住みやすさ	因子分析にて抽出
	町の利便性	
	町の人	
そ の 他	幼少期の自然経験	5段階評価にて計測
	都会へのあこがれ	5段階評価にて計測
	リスク選好	1が短期間での小リターン、3が長期間での大リターンを好む
就 活 時 の 志 望	家族の影響が大きい	5段階評価にて計測
	公務員志望	
	独立・起業志望	
	国際志望	
地 域 と の 関 係	小学生	地域や文化の授業、地域の人との関わりを5段階評価にて計測
	中学生	
	高校生	

	変数	観察数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
現 居 住 地	神戸市	649	0.245	0.430	0.000	1.000
	西宮市	649	0.200	0.401	0.000	1.000
	尼崎市	649	0.025	0.155	0.000	1.000
	姫路市	649	0.066	0.249	0.000	1.000
	羽石市	649	0.088	0.283	0.000	1.000
	豊岡市	649	0.285	0.452	0.000	1.000
希 望 就 職 地	兵庫県内	649	0.410	0.492	0.000	1.000
	関西圏	649	0.398	0.490	0.000	1.000
	都市部	649	0.089	0.285	0.000	1.000
性 格 特 性	協調性	626	0.000	1.063	-3.596	1.804
	外向性	626	0.000	1.179	-1.983	2.699
	神経症傾向	628	0.000	1.138	-2.336	2.355
	開放性	625	0.000	1.068	-2.216	2.418
	勤勉性	626	0.000	1.093	-2.995	2.564
個 人 特 性	年齢	617	41.515	15.740	15.000	85.000
	性別	632	0.418	0.494	0.000	1.000
	最終学歴	649	3.539	1.666	1.000	6.000
	年収	602	5.636	12.594	1.000	10.000
	未婚ダミー	625	0.394	0.489	0.000	1.000
出 身 地	神戸市	649	0.136	0.343	0.000	1.000
	西宮市	649	0.077	0.267	0.000	1.000
	羽石市	649	0.097	0.296	0.000	1.000
	姫路市	649	0.043	0.203	0.000	1.000
	豊岡市	649	0.197	0.398	0.000	1.000
	尼崎市	649	0.022	0.145	0.000	1.000
	兵庫県外	649	0.280	0.450	0.000	1.000
居 住 地	町の住みやすさ	636	0.000	1.628	-5.959	3.179
	町の利便性	635	0.000	1.491	-4.611	2.090
	町の人	635	0.000	1.287	-3.765	2.453
そ の 他	幼少期の自然経験	627	3.884	1.305	1.000	5.000
	都会へのあこがれ	607	2.909	1.501	1.000	5.000
	リスク選好	627	2.022	0.805	1.000	3.000
就 活 時 の 志 望	家族の影響が大きい	520	2.567	1.456	1.000	5.000
	公務員志望	517	2.085	1.399	1.000	5.000
	独立・起業志望	515	2.118	1.424	1.000	5.000
	国際志望	518	2.230	1.940	1.000	5.000
地 域 と の 関 係	小学生	649	6.741	3.708	1.000	10.000
	中学生	649	5.937	2.450	1.000	10.000
	高校生	649	4.938	2.562	1.000	10.000

計量モデル

まず、現在の居住地の要因分析では、被説明変数に神戸市・西宮市・明石市・姫路市・豊岡市・尼崎市の6つの地域の居住地ダミーを置いた。説明変数には、出身地や現在の居住地に対する評価、幼少期の自然経験などを入れ、コントロール変数として、性格特性や個人特性を含めた。推計式は以下の通りである。

$$\begin{aligned}\text{現居住地ダミー} = & \beta_0 + \beta_1(\text{性格特性}) + \beta_2(\text{年齢}) + \beta_3(\text{性別}) + \beta_4(\text{最終学歴}) + \beta_5(\text{年収}) \\ & + \beta_6(\text{未婚ダミー}) + \beta_7(\text{出身地}) + \beta_8(\text{町の住みやすさ}) \\ & + \beta_9(\text{町の利便性}) + \beta_{10}(\text{町の人}) + \beta_{11}(\text{幼少期の自然経験}) \\ & + \beta_{12}(\text{都会のあこがれ}) + \beta_{13}(\text{リスク選好}) + \varepsilon\end{aligned}$$

また、就職活動当時の志望勤務地の要因分析では、志望勤務地を兵庫県内、関西圏、東京都・大阪府の3つに分類し、それぞれ分析を行った。説明変数は先ほどと同様に出身地や学生時代の地域社会との関わり、就職活動時の志望を置き、コントロール変数には、性格特性、個人特性を入れた。推計式は以下の通りである。

$$\begin{aligned}\text{希望勤務地ダミー} = & \beta_0 + \beta_1(\text{性格特性}) + \beta_2(\text{年齢}) + \beta_3(\text{性別}) + \beta_4(\text{最終学歴}) + \beta_5(\text{年収}) \\ & + \beta_6(\text{未婚ダミー}) + \beta_7(\text{リスク選好}) + \beta_8(\text{幼少期の自然経験}) \\ & + \beta_9(\text{公務員志望}) + \beta_{10}(\text{独立・起業志望}) + \beta_{11}(\text{国際職志望}) \\ & + \beta_{12}(\text{家族の影響が大きい}) + \beta_{13}(\text{地域社会との関わり}) \\ & + \beta_{13}(\text{出身地}) + \varepsilon\end{aligned}$$

分析結果 現在の居住地について

	変数	神戸市在住	西宮市在住	明石市在住	姫路市在住	豊岡市在住	尼崎市在住
性格特性	協調性	0.0203	-0.00106	-0.0291*	-0.0149**	0.0802***	-0.00025
	外向性	-0.00802	-0.0113	-0.0119	0.00326	0.0174	-0.000491
	神経症傾向	0.00925	-0.0359*	-0.00956	0.00963**	0.0384*	0.000157
	開放性	-0.0101	0.0249	-0.00194	-0.0106*	-0.00839	0.000379
	勤勉性	-0.025	0.014	0.0231*	0.0136**	-0.0622**	0.000597
個人特性	年齢	-0.00259*	-0.00309*	-0.00024	0.000616	0.00349**	5.80E-05
	性別	0.0387	-0.104**	0.0529*	0.0128	0.0372	0.0017
	最終学歴	-0.0218*	0.013	0.00787	0.00502	-0.00525	-9.46E-05
	年収	0.00680***	-6.80E-05	-0.00152	-0.00167	-0.00425	1.24E-05
	未婚ダミー	-0.0258	-0.0297	-0.0601**	0.0142	0.138**	0.00274
出身地	神戸	0.290***	-0.150***	0.0568	-0.0279**	-0.0371	
	西宮	-0.181***	0.379***	-0.0607*	-0.0189	-0.0869	0.979***
	明石	-0.0641	-0.212***	0.336***	0.133*		
	姫路	0.0495	-0.105	-0.0357	0.156*	-0.0491	
	豊岡	-0.239***			-0.0295**	0.622***	0.658***
	尼崎	0.0136	-0.00395			0.0635	0.999***
	兵庫県外	0.0373	-0.0258	-0.0289	-0.0208	0.131*	0.566***
	町の住みやすさ	0.0144	0.0124	-0.0240**	-0.000774	-0.0247	-0.00120*
	町の利便性	0.0318**	0.108***	0.012	0.00112	-0.0998***	0.00068
	町の人	-0.0201	-0.0122	-0.0058	-0.000206	0.0546***	0.00039
	幼少期の自然経験	-0.0207	-0.0319**	0.000222	-0.000884	0.0652***	0.000781
	都会へのあこがれ	0.0182	-0.0221	0.00536	0.0024	0.00734	0.000237
	リスク選好	0.0282	-0.0168	-0.027	-0.011	-0.00397	0.00107
	観察数	519	426	412	505	467	368

分析結果 就職活動当時の希望勤務地について

	変数	兵庫県内	関西圏	大都市
性格特性	協調性	-0.0183	-0.00906	0.0138
	外向性	0.0197	0.0434	-0.0177*
	神経症傾向	0.0299	-0.0636**	0.0186
	開放性	-0.0169	0.0201	-0.00407
	勤勉性	-0.0454	0.021	-0.00162
個人特性	年齢	0.00418**	-0.00188	-0.000274
	最終学歴	-0.0489**	0.0368	0.01
	年収	-0.0052	0.00893**	0.00241*
	未婚ダミー	-0.0495	-0.103	0.0503
	性別	-0.119**	0.0621	0.00817
	リスク選好	-0.0427	-0.0311	0.0385**
	幼少期の自然経験	-0.00246	-0.0289	0.00979
就活時の志望	公務員志望	0.0177	-0.0114	0.000642
	独立・起業志望	0.0337*	-0.0136	0.00326
	国際志望	-0.0620***	-0.00952	0.00233
	家族の影響が大きい	0.0156	0.0497**	-0.0123
	都会へのあこがれ	-0.0390**	0.0238	0.0325***
地域との関係	小学生	0.0254*	-0.0157	-0.00243
	中学生	-0.0350**	0.0427**	0.00532
	高校生	0.0214*	-0.00906	-0.00353
出身地	神戸市	0.127	-0.0469	-0.022
	西宮市	0.127	-0.101	0.00307
	明石市	0.158*	-0.190*	-0.0164
	姫路市	0.304***	-0.213	-0.0497
	豊岡市	0.252***	-0.340***	-0.0401
	尼崎市	0.221	-0.168	-0.0109
	兵庫県外	-0.0218	0.751***	0.0293
	観察数	446	446	446

結果の考察

まず、一つ目の分析である現在の居住地に対する分析結果について考察する。対照の6つの市全てにおいて、同じ出身地が現在の居住地にプラスの影響を与えていることが明らかとなった。中でも、豊岡市は係数が大きいことから、その傾向が強いことが示唆される。地元愛着のようなものによるものか、地域社会のしがらみや閉鎖的な関係などによるものなのかは、今回の分析では明らかではない。尼崎市は係数も大きく、兵庫県のほかの市や県外からの移動も多くみられるが、サンプル数が十分ではないため、あまり有意な結果であるとは言えないだろう。豊岡市では、兵庫県外出身者であることも正の影響を与えていることから、豊岡氏に魅力を感じる一部の人が兵庫県外から移住して定住していることが示唆される。しかし、神戸市や西宮市、明石市に注目すると、ほかの市の出身であることはマイナスの影響を与えていることが分かる。これらのことから、出身地の周辺の市への移動は特に神戸市周辺においては負の影響をもたらすことが明らかとなった。

続いて、居住地に対する町の評価に着目する。神戸市や西宮市では、特に町の利便性が現居住地の決定に正の影響を与えていることが分かる。対して、豊岡市では町の利便性は負に有意な結果となっている。しかし、地域の人との交流などが正に有意な結果であることから、地域社会とのつながりが比較的強いことが推測される。さらに、幼少期の自然経験は豊岡市のみ正の影響となっており、その他の市の多くは有意ではないものの符号がマイナスであることから、豊岡市はほかの市とは異なる性質を持っていることが示唆される。

さらに、個人特性に着目すると、神戸市や西宮市は年齢層の低い人が、豊岡市では年齢層の高い人が有意な結果となっている。

続いて、2つ目の分析である就職活動当時の希望勤務地についての分析結果より考察を行う。まず、都会へのあこがれが兵庫県内希望にはマイナスの、大都会希望にはプラスの影響を与えていることは、容易に予想できる結果である。国際的な仕事がしたいかの変数が、兵庫県内希望に負の影響を与えていることから、兵庫県内においては国際的な仕事が少ないと評価されていると考えることができる。また、独立・起業志望が兵庫県内希望に正に有意な結果となっている。このことから、兵庫県外ではなく出身地である兵庫県内にて企業や独立をしたいと考えていたと推測できる。

出身地については、明石市・姫路市・豊岡市出身者であることが、兵庫県内希望に正の影響を与えている。大都会である大阪府に比較的近い神戸市・西宮市・尼崎市では符号がプラスではあるが有意ではないことにも注目すべきだろう。特に明石市・豊岡市は関西圏希望に

負の影響を与えていることから、地元や地元に近い兵庫県内で就職したいと思う傾向にあると推測できる。

次に、学生時代の地域社会とのかかわりでは、小学生・高校生時代でのかかわりが兵庫県内就職に正の影響を与えている。中学生でのかかわりが負の影響を与えていることについて、明確な考察はできないが、思春期にあたる時期であることから、地域社会と密な関係を築きたくないという思考が働くのかもしれない。

最後に個人特性に着目する。年齢では兵庫県内希望のみが正に有意であり、ほかは有意ではないものの係数がマイナスであることから、年齢層が低い層は県外を希望する傾向があると推測できる。また最終学歴についても、兵庫県内希望のみが負に有意であり、ほかは有意ではないがプラスの符号である。このことは、最終学歴が低い人は兵庫県内に残っていることが示唆される。これらに加えて関連して年収に着目すると、兵庫県内希望以外が正に有意で、兵庫県内希望は有意ではないがマイナス符号である。これらを総合すると、比較的に一般的に学歴が高く、年収も高い人ほど、県外を希望していたことが分かる。また、男性ダミーが兵庫県内希望に負の影響を与えていることから、女性は県内に残る選択をしている、あるいはせざるを得ない環境であることが示唆される。

結論

以上の路上調査での結果をまとめる。

まず、現在の居住地の要因についてまとめる。現在の居住地は、その地が出身地であることが、正の影響を与えていることが、対象のすべての市にて確認された。このことからそれぞれの出身地の魅力向上を図ることは、さらに多くの人が兵庫県内に留まる、あるいはIターン・Uターンにて帰ってくる可能性を高めると考えられる。

また、就職活動当時の希望勤務地について、阪神地区以外の姫路市や豊岡市出身であることは希望勤務地が兵庫県内であることに正の影響を与えている。さらに、比較的年齢層が高い人、最終学歴が低い人、女性などは兵庫県内希望に正の影響があり、年収の高い人や高リターンを望む人は県外を希望する傾向にあるといえる。加えて、地域社会との関わりが強いことは、兵庫県内希望に正の影響を与えていることから、学生時代における地域に関する授業や地域の人と関わる機会を増やすことで、兵庫県内希望者の増加に効果的だと考えられる。

第4項 大学生調査

分析の方向性

本稿では、11月から12月の1か月間、大学生を対象にグーグルフォームを使用して行ったインターネット調査の結果をもとに分析を行う。将来の勤務地の希望の要因分析を主に行う。

調査方法

大学生を対象にマイクロソフトフォームを用いてインターネット調査を行った。その結果、931名の調査を行った。

定量分析：プロビット分析

本分析では、被説明変数にダミー変数を置いたため、プロビット分析にて推計する。なお、限界効果を考慮したプロビット分析によって推計するため、分析結果の係数の解釈も1単位当たりの係数としての解釈が可能である。

また、説明変数で用いた性格特性は、因子分析にて共通因子を抽出したものを使用している。

分析方法

この分析では分析ソフトとしてStata Version15を用いて、定量分析を行う。分析に先立ち、使用変数について説明する。

変数の説明

変数名	定義
被説明変数	
地元への就職希望ダミー	将来就職する場所はどのような場所がいいかという質問に対して出身地域（地元）に戻って就職することを希望した人を1、それ以外を希望した人を0と置くダミー変数
説明変数	
東京への憧れ	「東京」という大都市に憧れがあるかという質問で1から5の5段階評価をした変数
地域や文化の授業経験	小中高のとき、自分の地域や文化に関する授業があったかという質問において1から5の5段階評価をした変数
地域の人と関わる経験	小中高のとき、地域の人と関わる経験があったかという質問において1から5の5段階評価をした変数
自然と触れる経験	幼少期に自然に触れる経験はあったかという質問において1から5の5段階評価をした変数
地域の生活環境	あなたが今住んでいる地域の「生活環境」（清潔さや美しさ、住みやすさ、買い物のしやすさ、治安など）を10点満点で評価した変数
地域の人柄やコミュニティの雰囲気	あなたが今住んでいる地域の「人柄やコミュニティの雰囲気」を10点満点で評価した変数
地元・故郷の居場所感	あなたにとって地元や故郷は「自分のまち」「自分の居場所」だと思うかという質問で1から5の5段階評価をした変数
家族との関係	家族との関係は良好だと思うかという質問で1から5の5段階評価をした変数
外向性	因子分析より抽出
勤勉性	
協調性	
開放性	
神経症傾向	
年齢	調査対象者の年齢
女性ダミー	性別が女性だと1、男性だと0を取るダミー変数

（筆者作成）

基本統計量

変数	統計量	平均値	標準誤差	最小値	最大値
地元への就職希望ダミー	900	0.500	0.500	0.000	1.000
東京への憧れ	959	2.813	1.301	1.000	5.000
地域や文化の授業経験	959	3.907	0.953	1.000	5.000
地域の人と関わる経験	959	3.785	0.998	1.000	5.000
自然と触れる経験	959	4.089	1.000	1.000	5.000
地域の生活環境	959	7.688	1.744	1.000	10.000
地域の人柄やコミュニティの雰囲気	959	6.960	1.909	1.000	10.000
地元・故郷の居場所感	959	4.092	0.999	1.000	5.000
家族との関係	959	4.242	1.001	1.000	5.000
外向性	959	0.000	1.186	-2.128	2.853
勤勉性	959	0.000	1.141	-2.986	2.225
協調性	959	0.000	1.049	-3.973	1.897
開放性	959	0.000	1.124	-2.829	2.459
神経症傾向	959	0.000	1.081	-2.371	2.669
年齢	946	20.397	1.255	18.000	24.000
女性ダミー	948	0.458	0.498	0.000	1.000

(筆者作成)

計量モデル

まず、将来の希望就職地要因分析において被説明変数に地元への就職希望ダミーを置いた。そして説明変数として都市部への興味を測るため東京への憧れを置いた。また小中高や幼少期の経験を測るために地元や文化の授業体験、地域の人と関わる経験、自然と触れる家に経験を置いた。現在住んでいる居住地との関係性を測るために地域の生活環境や地域の人柄やコミュニティの雰囲気を置いている。地元への愛着を測るために地元・故郷の居場所感、家族との関係性を置いた。そして個人属性として性格特性の BIG5、年齢、女性ダミーを置いた。

$$\begin{aligned}
 \text{地元への就職希望ダミー} = & \beta_0 + \beta_1(\text{東京への憧れ}) + \beta_2(\text{地域や文化の授業体験}) \\
 & + \beta_3(\text{地域の人と関わる経験}) + \beta_4(\text{自然と触れる経験}) \\
 & + \beta_5(\text{地域の生活環境}) + \beta_6(\text{地域の人柄やコミュニティの雰囲気}) \\
 & + \beta_7(\text{地元・故郷の居場所感}) + \beta_8(\text{家族との関係}) \\
 & + \beta_9(\text{外向性}) + \beta_{10}(\text{勤勉性}) + \beta_{11}(\text{協調性}) + \beta_{12}(\text{開放性}) \\
 & + \beta_{13}(\text{神経症傾向}) + \beta_{14}(\text{年齢}) + \beta_{15}(\text{女性ダミー}) + \varepsilon
 \end{aligned}$$

分析結果

分析方法	プロビット分析（限界効果考慮）	プロビット分析
変数	被説明変数	
	地元への就職希望ダミー	
東京への憧れ	-0.0716*** (0.0135)	-0.180*** (0.0340)
地域や文化の授業経験	-0.0161 (0.0240)	-0.0405 (0.0602)
地域の人と関わる経験	-0.0295 (0.0228)	-0.0740 (0.0572)
自然と触れる経験	-0.0410* (0.0216)	-0.103* (0.0541)
地域の生活環境	0.0237* (0.0123)	0.0595* (0.0309)
地域の人柄やコミュニティの雰囲気	0.00926 (0.0112)	0.0232 (0.0280)
地元・故郷の居場所感	0.0547*** (0.0201)	0.137*** (0.0504)
家族との関係	0.0309 (0.0196)	0.0775 (0.0490)
外向性	0.0261* (0.0158)	0.0655* (0.0397)
勤勉性	0.00835 (0.0156)	0.0209 (0.0391)
協調性	-0.00389 (0.0173)	-0.00975 (0.0434)
開放性	-0.0288* (0.0164)	-0.0723* (0.0412)
神経症傾向	-0.0255 (0.0167)	-0.0640 (0.0418)
年齢	0.0371*** (0.0143)	0.0929*** (0.0359)
女性ダミー	-0.0663* (0.0353)	-0.166* (0.0889)
定数		-1.958** (0.794)
観測数	879	879
有意水準	***1%有意, ** 5%有意, * 10%有意	

（筆者作成）

結果の考察

まず、東京への憧れが 1%水準で負に有意となった。つまり東京への憧れが強いほど、地元就職を選ばないことが明らかになった。また自然と触れる経験が 10%水準で負に有意となった。つまり幼少期に自然と触れる経験が少ないと感じている人ほど地元就職を希望していないことがわかった。地域の生活環境が 10%水準で正に有意となった。これは現在住んでいる地域の生活環境に満足している人ほど地元就職を選ぶことが明らかとなった。そして地元・故郷の居場所感が 1%水準で正に有意となった。これは地元・故郷への愛着が高く、居場所だと感じている人ほど地元就職を希望することを表している。

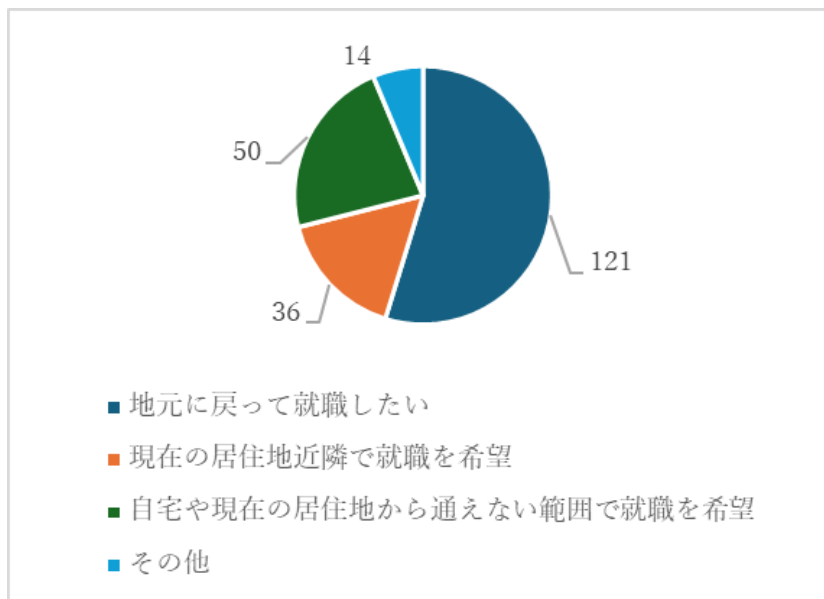
一方、性格特性においては外向性が 10%水準で正に有意となった。これは外向性が高い人ほど地元就職を希望していることがわかった。これは高校生調査にてのちに記述するが、外向性と地域理解度に有意な影響を及ぼしていた。つまり地域理解度が地域活性化意欲へとつながり、地元就職を希望する傾向があるのではないかと考えられる。また開放性が 10%水準で負に有意となった。これは開放性が低い人ほど地元就職を希望していることを表している。

年齢は 1%水準で正に有意となった。つまり年齢が高い人ほど地元就職を希望していることを表している。これは将来の進路を具体的に考えるようになる年齢ほど地元就職を希望するようになると考えられる。また女性ダミーが 10%水準で負に有意となった。つまり女性ほど地元就職を希望していないことを表している。この結果は女性の方が都市部への流出が多いという近年の傾向をこの分析でも示していることがわかる。

定性分析

まず、調査を行った全大学生のうち、兵庫県出身者に絞り、定性的な観点から分析を行う。

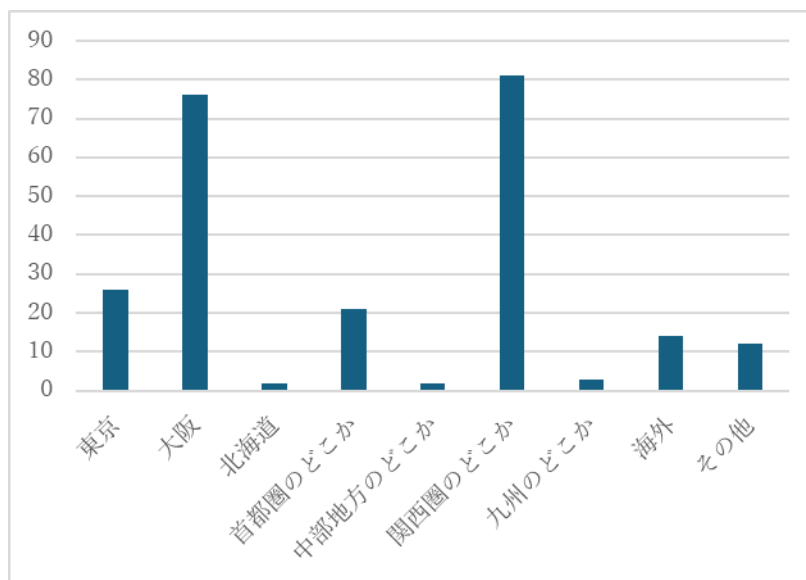
グラフ 将来の就職希望先（兵庫県出身者のみ）



（筆者作成）

このグラフから兵庫県出身の大学生の 54.8%が地元に戻って就職したいと回答していることがわかった。

グラフ 将来の就職希望勤務地（兵庫県出身者のみ）

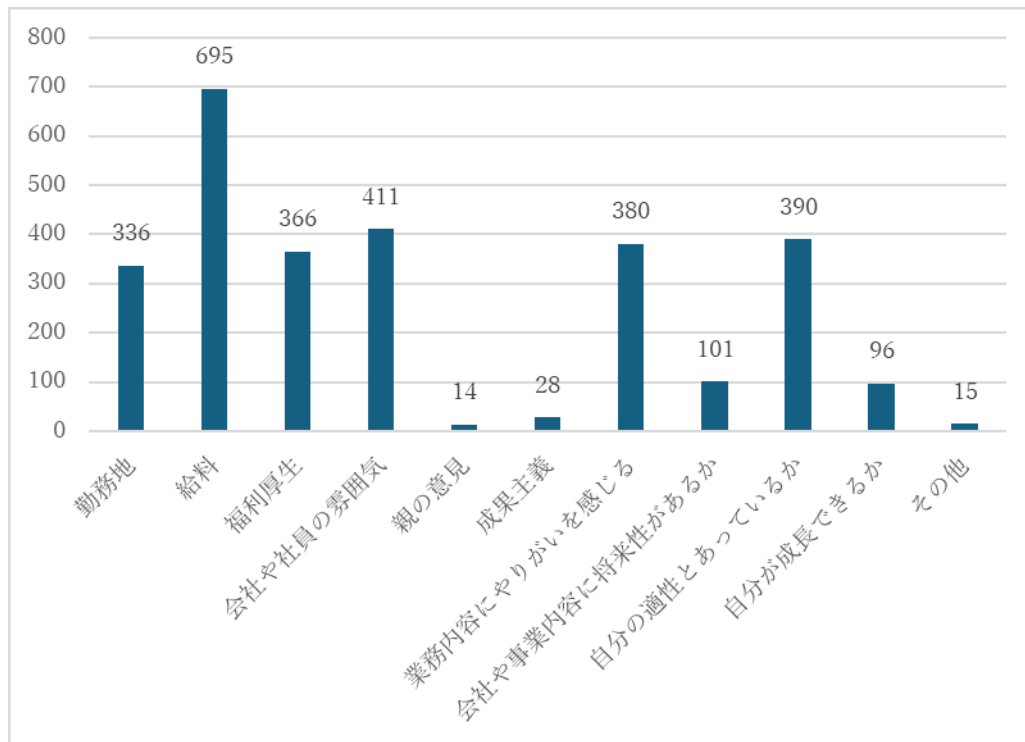


（筆者作成）

このグラフから関西圏の希望が一番多く、大阪を希望する人が多くいることがわかった。またついで東京に希望している人が多いことから大都市圏を希望する学生が多いことが明らかとなっている。

次に対象を絞らず、全大学生の傾向を見ていく。

グラフ 職業を決定するうえで重要な要素



(筆者作成)

このグラフから見てわかるように給料、会社や社員の雰囲気、自分の適性とあっているか、事業内容にやりがいを感じるか、福利厚生、が上位を占めていることがわかる。そのなかでも勤務地も福利厚生などと同じ程度の人数が重要視していることがわかる。

結論

このような分析結果から若者の就職希望を高めていくためには市町村は地元や故郷への愛着を高めていく必要があると考えられる。分析では地元への就職希望ダミーに対して地元の居場所感が正に有意の結果となった。一方で東京への憧れと自然と触れる経験が負に有意の結果となっている。このことから小中高にかけて地元の居場所感を高めていくことや自然との触れ合いを増やしていくことの重要性を表している。また定性分析からも勤務地は職業を決定するうえで重要な要素となることを示唆している。以上のようなことから地元や故郷の居場所感の重要性が明らかになっている。

第5項 高校生調査

調査対象

今回、豊岡市内では豊岡総合高校・出石高校・近畿大学附属豊岡高校の3校、1001名の高校生を対象に調査を行った。また、追加で洲本市の蒼開高校と芦屋市の甲南高校でも調査を行ったが、調査時期が入試期間と重なり、他の高校で調査を行うことができず、十分なサンプル数を確保することができなかったため、洲本市をはじめとした他の市町村の高校生の分析は今回行っていない。

調査内容

設問の主な内容は以下の通りである。

- ・地元について
- ・学生生活について
- ・進学について
- ・就職について
- ・性格特性について
- ・文章問題（論理的思考力を問う問題）
- ・豊岡市について
- ・親・友人・先生について
- ・属性（年齢・性別など）

主に9つに分類される設問項目を設けた。なお、所要時間はおおむね20分程度であった。詳細な設問項目及び、記述統計量に関しては補論に掲載しているのでそちらを参照されたい。

分析

第1章や第2章からも明らかとなったように、若者が地方にとどまることやUターンを決断する要因として、幼少期や学生時代で形成された地元に対する思いが大きく影響している可能性がある。今回の分析ではそれについて定量的に検証することを目的とする。

まず、地域活性化意欲が豊岡市における居留意欲に与える影響について定量分析を行う。分析手法としては操作変数を伴うプロビット回帰を用いた。

計量モデル

プロビット回帰

$$\text{豊岡市居住意欲ダミー} = \beta_0 + \beta_1(\text{地域活性化意欲}) + \sum \beta(\text{コントロール変数}) + \varepsilon (\text{誤差項})$$

内生変数の回帰分析

$$\text{地域活性化意欲} = \beta_0 + \beta_1(\text{高校時代の地域の人との交流頻度}) + \beta_2(\text{地域理解度}) + \sum \beta(\text{コントロール変数}) + \varepsilon (\text{誤差項})$$

説明変数及び操作変数は以下の通りである。(1)における分析は操作変数を用いたプロビット回帰の推計結果であり、(2)は内生変数を回帰したときの推計結果である。なお、()内は頑健な標準誤差である。

説明変数	変数の説明	(1) 豊岡市居留意欲ダミー	(2) 活性化意欲
地域活性化意欲	1~5の5段階評価	0.530*** (0.136)	
公務員として働きたい意欲	1~5の5段階評価	0.0844** (0.0414)	0.0870*** (0.0260)
神経症傾向	因子分析にて抽出	-0.0319 (0.0497)	0.0753** (0.0322)
誠実性	因子分析にて抽出	0.00857 (0.0432)	-0.00650 (0.0290)
協調性	因子分析にて抽出	-0.0346 (0.0450)	-0.0611** (0.0303)
開放性	因子分析にて抽出	-0.0655 (0.0861)	0.0582 (0.0597)
外向性	因子分析にて抽出	0.0269 (0.0758)	0.00120 (0.0492)
豊岡市出身ダミー	豊岡市出身を1、 それ以外を0とし たダミー変数	0.176 (0.124)	0.282*** (0.0731)
高校時代の地域の人との交流頻度	1~5の5段階評価		0.105*** (0.0274)
地域理解度	1~5の5段階評価		0.274*** (0.0340)
定数項		-3.321*** (0.388)	1.736*** (0.151)
観測数		958	958

有意水準

*** $p < 0.01$, ** $p < 0.05$, * $p < 0.1$

この分析結果から、地域活性化意欲は居留意欲に対して正に有意であることが明らかとなっている。これは地元に対する思いが強い人ほど、その地域に留まろうとする傾向があるからであると考えられる。

では、地域活性化意欲はどのようにして育まれるものであるのだろうか。先行研究を踏まえると、幼少期や学生時代に地域の人々との交流機会があったのかということや、地域理解度の高さ（伝統的な文化及び歴史を知っており、それを絶やしてはいけないという認識など）

が活性化に影響を与えるのではないかと考えられる。また、地元の現状（過疎の状態など）を正しく把握することができているのかといったことも影響を及ぼしていると考えることができる。これらの仮説を検証することとする。

今回の分析で用いる手法は操作変数を伴う順序プロビット回帰である。これはおおむね先ほどの分析手法と同じであるが、被説明変数として用いる活性化意欲が 5 段階評価となっており、順序プロビット回帰を用いた方が望ましいために分析手法を少し変更している。

計量モデル

順序プロビット回帰

$$\text{地域活性化意欲} = \beta_0 + \beta_1(\text{地域理解度}) + \beta_2(\text{高校時代の地域の人との交流頻度}) + \beta_3(\text{豊岡市に対する悲観度}) + \sum \beta(\text{コントロール変数}) + \varepsilon(\text{誤差項})$$

内生変数の回帰分析

$$\text{地域活性化意欲} = \beta_0 + \beta_1(\text{地元の歴史や文化の学習機会}) + \sum \beta(\text{コントロール変数}) + \varepsilon(\text{誤差項})$$

説明変数	変数の説明	(1) 活性化意欲	(2) 地域理解度
地域理解度	1~5の5段階評価	0.353** (0.139)	
高校時代の地域の人との交流頻度	1~5の5段階評価	0.0853** (0.0342)	0.0617** (0.0305)
豊岡市に対する悲観度	1~5の5段階評価	0.242*** (0.0468)	0.0895** (0.0402)
独立・起業意欲	1~5の5段階評価	0.00196 (0.0292)	0.0105 (0.0300)
公務員として働きたい意欲	1~5の5段階評価	0.0936*** (0.0276)	0.00682 (0.0275)
神経症傾向	因子分析にて抽出	0.0472 (0.0335)	0.0105 (0.0315)
誠実性	因子分析にて抽出	-0.0119 (0.0293)	0.0265 (0.0279)
協調性	因子分析にて抽出	-0.0376 (0.0316)	-0.0516 (0.0314)
開放性	因子分析にて抽出	0.0900 (0.0613)	-0.0815 (0.0618)
外向性	因子分析にて抽出	-0.0385 (0.0594)	0.206*** (0.0536)
論理的思考力	0~3の3点満点のスコア	0.0414 (0.0529)	0.0598 (0.0521)
学年	高校時の学年	0.0439 (0.0486)	-0.0795 (0.0492)
兄・姉ダミー	兄または姉がいる人を 1、その他を0としたダ ミー変数	0.122 (0.0745)	-0.0566 (0.0739)
女性ダミー		-0.0240 (0.0729)	0.0687 (0.0742)
豊岡市出身ダミー	豊岡市出身を1、それ 以外を0としたダミー 変数	0.277*** (0.0754)	-0.0332 (0.0758)
地域に関する学習機会	0~6の7段階評価		0.145*** (0.0218)
定数項			2.326*** (0.239)
観測数		943	943

有意水準

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

なお、限界効果については以下の通りである。

説明変数	(1) 高校時代の地域の人との交流頻度	(2) 地域理解度	(3) 豊岡市に対する悲観度
1bn._predict	-0.0133*** (0.00473)	-0.0372* (0.0222)	-0.0365*** (0.00610)
2._predict	-0.00897** (0.00387)	-0.0252** (0.0120)	-0.0247*** (0.00589)
3._predict	-0.00972** (0.00431)	-0.0273** (0.0122)	-0.0267*** (0.00723)
4._predict	0.0119** (0.00550)	0.0335** (0.0145)	0.0328*** (0.00869)
5._predict	0.0200*** (0.00726)	0.0562* (0.0317)	0.0551*** (0.00999)
観測数	943	943	943

有意水準

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

分析結果より、地域理解度・高校時代の地域の人との交流頻度・豊岡市に対する悲観度は地域活性化意欲に対して全て正に有意であることが明らかとなった。また、操作変数である地域に関する学習機会も操作変数として有効であることが確認された。

以上のことから、若者が地元にとどまる、もしくは将来 U ターンする可能性を高めるためには地域活性化意欲がどれほど醸成されているかが重要であり、地域活性化意欲を高めるためには高校生までの間に、地元の歴史や文化に関する学習機会が十分に提供することや地元の人たちとの交流機会の提供が有効であることが示唆された。

第4章 政策提言

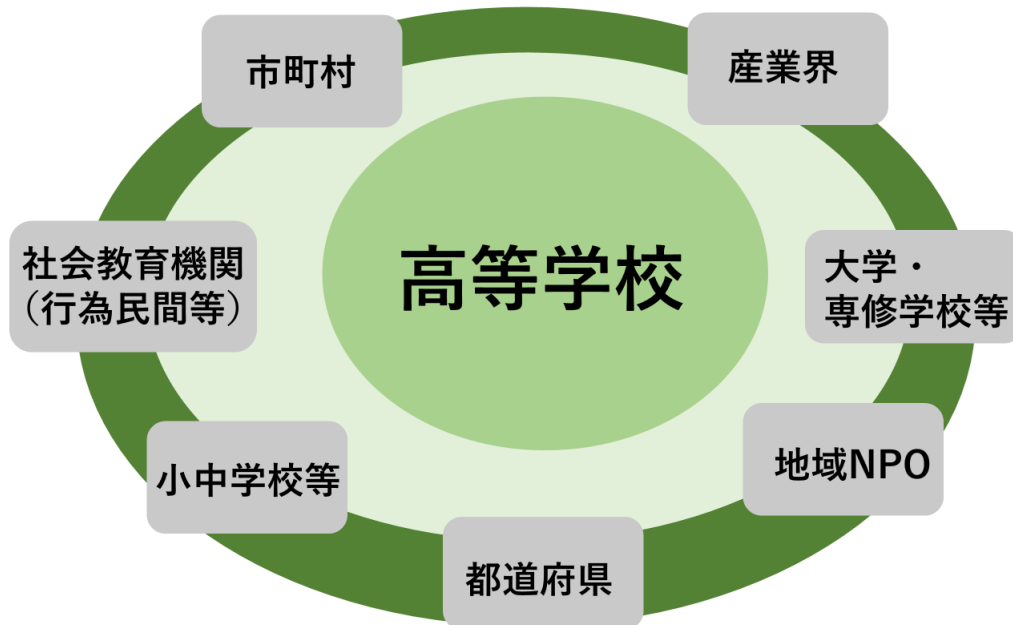
第1節 高校生の地域交流の拡大

分析結果より学習機会の提供によって地域の理解度が高まることがわかった。更にその地域の理解度が高まることで地域活性化意欲が高まることが明らかとなった。また記述統計より地域の人と交流する機会があったかという質問について小学生の8割が当てはまると回答した。また中学生も8割から7割までは地域の人と交流する機会があったと回答した。しかし高校生になると当てはまると回答する割合は5割を下回る傾向にある。

この傾向は地域のことを学ぶ機会があるかという質問でも同様の現象が見られた。そこで高校生に対して地域交流の拡大を行うことを提言する。地域交流の方法としては伝統芸能を学ぶことや、地元の歴史学習、地元のお祭りへの参加、地元に関差した職業体験など多岐に渡る。高校の授業として交流の機会を確保し、地域の理解度を高めることで地域活性化意欲の促進を目指すのである。例えば地元に関差した職業体験では地元の企業で働き、将来ビジョンを養ってもらおう。淡路市では高校生に対して通勤補助をすることで将来的にも淡路市から明石市や神戸市に通勤できる感覚を持ってもらおうとしている。同様に実際に地元で働く、そして地元を学ぶという経験を通じて将来も働けるというビジョンや、大学で何を学び、地元に帰ってくるのかというビジョンを養うことが出来ると考えている。

実際に国にも同様の動きがある。文部科学省(2022)によると地域との協働による高等学校教育開学推進事業を行っている。これは「新高等学校指導要領を踏まえ、地域を分厚くさせる人材の育成に向けた教育快苦を推進するために、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等との協働によりコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探求的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。」という目的で行われている。地域の事情に人材ニーズに応じてプロフェッショナル型、地域魅力化型、グローバル型の3に分かれて行っている。

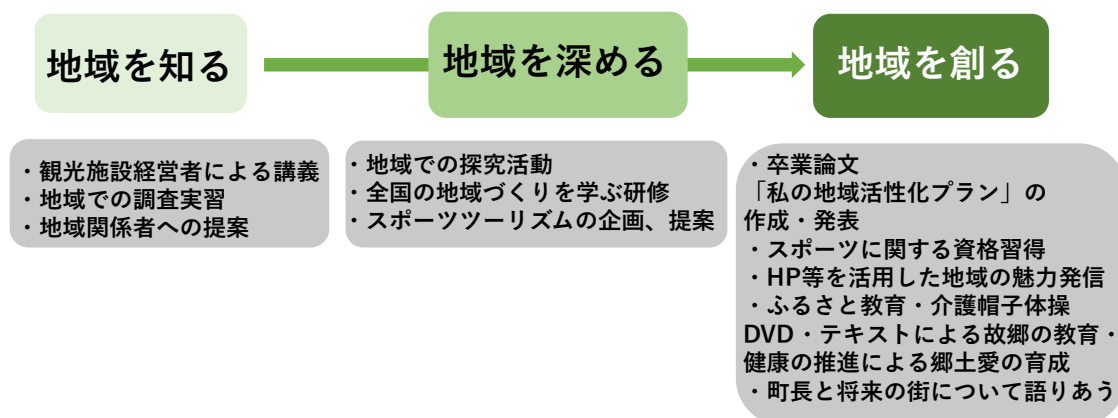
コンソーシアムのイメージ図



出典：文部科学省（2022）「地域との共働による高等学校教育改革推進事業」より筆者作成

地域魅力化型として令和 4 年度に兵庫県で兵庫県立村岡高等学校が「ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む『村岡メゾッド』の開発～」という取り組みを行っている。地域を知り、深め、創るの 3 つの段階を通じて郷土愛の形成を目指しているのだ。演舞や吹奏楽の 8 班に分かれ、地域共同活動を行い、成果発表やパネルディスカッションを通じて総合的な探求時間発表会を実施している。具体的には観光施設経営者等の講義や地域での調査実習によって地域を知ることからはじめる。そして卒用論文「私の地域活性化プラン」の作成・発表や HP 等を活用した地域の魅力発信を行うことで地域を創ることに貢献していくのである。このように PDCA サイクルを構築することで高校生の学びだけでなく、地域活性化の面でも効果のある活動となるのだ。

ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む『村岡メゾッド』の開発～」の具体的取組図



出典：文部科学省（2022）「令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型成果物）」より筆者作成

しかしこのような取り組みはまだ始まったばかりである。令和2年度時点でプロフェッショナル型が4校、地域魅力化型が6校、グローカル型が4校のみが指定されている。まだまだ発展途上の取り組みだが、私たちの調査結果からも高校生の地域交流には大きな意味がある。つまり兵庫県として早期に取り組むことの意義があると考えている。

第2節 淡路島大学（仮）とフィールドワーク

本節ではIターンの促進策として、淡路島大学（仮）の設立と現地でのフィールドワークを重視したカリキュラムの作成を提言する。淡路島大学（仮）は観光学部と農学部といった2つの学部を設立し、観光業と農業の2つの側面から地方創生に取り組むスペシャリストを育成することを目的とする。そして大学の特徴としては、在学中に農業や観光業のフィールドワークに従事し、実際のまちづくりに学生の間から携わるといったことである。この政策を提言するにあたって、着想を得た事例についていくつか紹介を行う。

まず、一つ目は兵庫県の国公立大学の芸術文化観光専門職大学である。芸術文化観光専門職大学は芸術文化と観光の2つの専攻科目が設置されており、学生たちはいずれかを「主となる専攻」とし、一方を「副となる専攻」として学習に取り組む（芸術文化観光専門職大

学)。この大学での学びは単に、芸術文化や観光について授業を受けることができるというものではない。豊岡市という都市の特色を最大限に活かしたカリキュラムとなっているのだ。

カリキュラム構成



(出典：芸術文化観光専門職大学 Web ページより)

カリキュラム内容

「芸術文化」と「観光」のいずれかを「主となる専攻」として専門性を究め、
ついで分野も「副となる専攻」として学び、広く深い知識・技能を修得します。

国・地方自治体、DMO（地域と協働して観光地域づくりを行う法人）、
芸術文化団体、商工会議所など

観光振興コンサルタント、旅行会社、DMO
（地域と協働して観光地域づくりを行う法人）
芸術文化団体、商工会議所など

劇団、芸能プロダクション、テレビ局、
メディア産業、劇場・文化ホール等の文化施設 など

観光・芸術文化関係企業、一般企業（イベント・企画開発部門等）
など

芸術文化のマネジメント能力を身に付けたいうえで、地域の観光関連
事業者と連携することにより新たな価値を創造できる専門職業人

観光のマネジメントの特性を理解したうえで、地域活性化の力となる芸術
文化分野の知見を活かして、新たな観光の展開を具体化できる専門職業人

専門演習

持続可能な社会
兵庫の教訓を踏まえた防災
国際防災論
地域資源の保全と活用

コウノトリの
野生復帰と地域
ジオパークと地域
国際環境論

地域コミュニティ論
地域情報論
地域の医療と福祉
世界を知る

NPO・NGOと国際社会
多文化社会の社会教育

舞台美術論
演劇教育入門
芸術文化と著作権、法、契約
世界の文化政策
演劇史
企業メセナ論
音楽文化論
総合芸術文化実習
アートキャリア英語
パフォーマンスキャリア英語
演劇教育論
舞台芸術実習C
舞台芸術実習D
演劇ワークショップ実習A・B・C・D
ダンスワークショップ実習A・B・C・D

人的資源管理論
リスクマネジメント論
地域連携実習
組織マネジメント論
アントレプレナーシップ論
地域創生実習
グローバルリーダー入門

マネジメント入門 アカウンティング入門 事業創造入門

アート
マネジメント概論
文化施設運営論
パフォーマンス
アーツ概論(再掲)

観光事業概論
観光産業
マーケティング論
観光サービス
マネジメント論(再掲)

ブランド論
旅行者心理学
観光メディア論
エリアマネジメント論
観光キャリア英語
観光情報論
観光交通実習2
旅行事業実習2
宿泊業実習2
観光地理学
マネジメントキャリア英語
インバウンドマーケティング論
観光資源実習

現代アート論
文化産業論
文化政策実習
身体コミュニ
ケーション実習
舞台芸術基礎実習
舞台芸術実習A
舞台芸術実習B
海外実習B
劇場プロデュース
実習1
劇場プロデュース
実習2

パフォーマンス
アーツ概論
演劇入門
舞台芸術入門
空間デザイン入門
演技論
舞台芸術論
文化政策概論
批評論
民俗芸能論
映像メディア論
美学美術史

芸術文化と観光
地域創生論
専門演習

建築関連法令と著作権
芸術文化・観光
プロジェクト実習1・2・3・4

芸術文化
観光

観光経営学
観光産業分析
観光交通論
旅行産業論
宿泊産業論
観光政策論
ニューツーリズム論
観光社会学
デスティネーション
マネジメント論
観光サービス
マネジメント論
観光マーケティング
分析論
観光デジタル
マーケティング論

デスティネーション
マーケティング論
観光プロモーション演習
観光プロジェクト
立案演習
デスティネーション
実習
観光交通実習1
旅行事業実習1
宿泊業実習1
ホスピタリティ実習
社会調査演習
海外実習A

コミュニケーション演習
知と表現のデザイン(初年次ゼミ)
経済学
社会学

芸術学
美学
文学
言語表現論

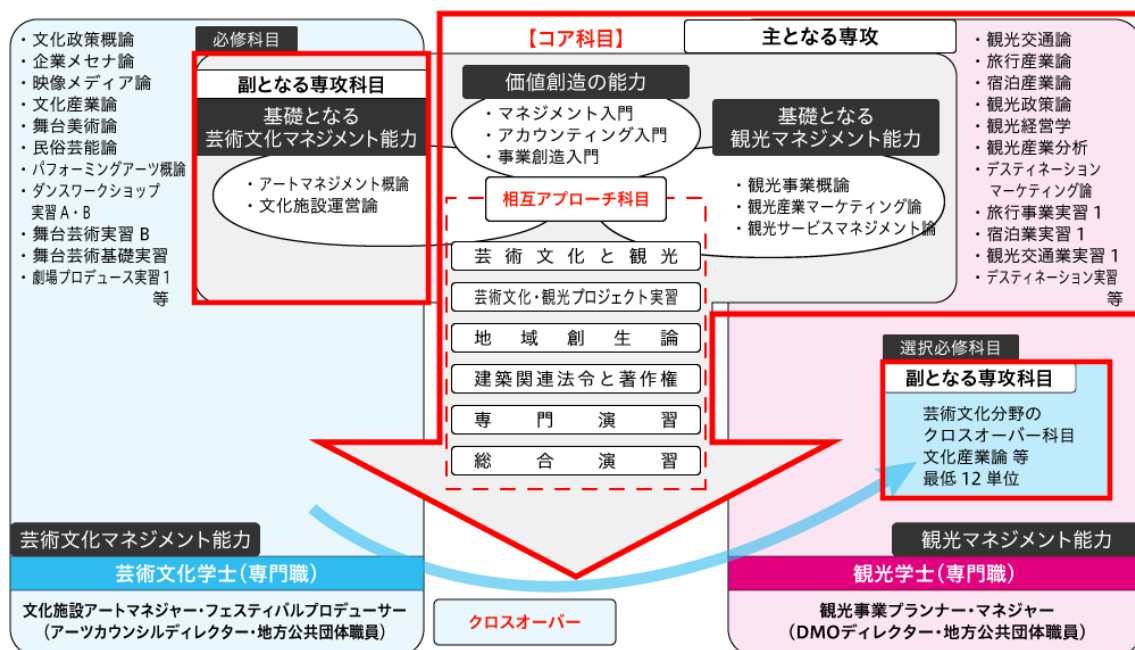
地域とつながる歴史学
政治学
英語1・2
海外語学研修

英語会
中国語
韓国語
日本語

情報処理演習
統計学
社会調査学
ICT演習

データサイエンス
演習

(出典：芸術文化観光専門職大学 Web ページより)



(出典：芸術文化観光専門職大学 Web ページより)

それが授業時間の約 3 分の 1 となっている 800 時間分をフィールドワークに充てているという部分である。実際、大学側も以下のように強みを打ち出している。

芸術文化と観光の最前線「但馬地域」が学びの舞台：但馬地域は、世界的な観光ガイドブック、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに 2 つ星で掲載された「城崎温泉」、天空の城「竹田城跡」など魅力あるツーリズム資源に恵まれています。また、「城崎国際アートセンター」では世界のアーティストが創作活動を行い、小中高校では演劇を取り入れた授業が展開されています。さらに、国際的な演劇祭「豊岡演劇祭」を開催するなど芸術文化と観光の最前線を舞台に学びます。

(出典：芸術文化観光専門職大学 Web ページより)

つまり、大学の周辺に観光や芸術文化を学ぶことができる環境があるからこそ、このカリキュラムを組み立てることができるのだ。また、この大学には全国各地から学生が集まっている。実際に筆者が芸術文化観光専門職大学を訪れ、学生さんにインタビューを行った。その際に対応してくださった学生は東京と姫路から来た方だった。淡路島大学（仮）もしっかりとプレスリリースをはじめとした広報活動を行い、全国の高校生に認知してもらうことによって学生を集めることができると考えている。

次にフィールドワーク実習の例として関西学院大学経済学部栗田ゼミの事例を紹介する。栗田ゼミは開発経済学を専攻している一方で、国内活動として Smilocal 活動に取り組んでいる。Smilocal 活動とは笑顔 (Smile) があふれた地域 (Local) を創るために「実践」と「研究」の双方を活動の両輪として行うために、栗田ゼミ 5 期生から始まった活動である (栗田 2022)。筆者 (栗田ゼミ 11 期生) も栗田ゼミに所属している一員であるが、その活動量の膨大さから、本報告書の事例紹介では収まりきれないほどの内容で構成されていると感じている。そのため、ここでは簡潔な説明にとどめることとする。詳しいことは弊ゼミのホームページを参照していただけると幸いである。

さて、Smilocal 活動は地方自治体・企業・NGO といった多くのカウンターパートの方々と共に地域の課題解決に取り組むといったもので「実践」を重視するフィールドワークにおいては質・量ともにハイレベルな経験を得ることができる。例えば、地方創生といった観点では農業班が実際に御所市の農地を使って、農家の方々と協力し野菜を栽培し、販売活動や御所市の魅力を SNS で PR を行うといった活動を行っている。それに加えて、地域のまちおこしのイベントにも参加している。



(写真：水路を作成している様子 出典：栗田ゼミ Web ページより)



(写真：鴨都波祭りに参加している様子 出典：栗田ゼミ Web ページより)

つまり、栗田ゼミの Smilocal 活動のような質と量がともにハイレベルなフィールドワーク実習やプログラム（あるいは弊ゼミのようにゼミ活動として2年間にわたって学生が取り組むという形にしてもよいだろう）を淡路島大学（仮）が学生に提供することによって、農業や観光業を通じた地方創生に興味を持っている学生の力を最大限に引き出すことができるのではないだろうか。そして、そのような高い地域活性化意欲を持った若者が淡路島に残り、なりわいを営みながら定住することを期待する。

以上のことから、本政策では淡路島という農業と観光業の環境が充実しているという強みを生かした農業と観光業に特化した専門職大学を設立し、日本全国から農業や観光業に興味を持った学生を集め、育てることができ、地域活性化意欲を持った若者の定住につながると考えている。また、淡路島大学（仮）と共に大学院も設立することでより専門性の高い人材を輩出することが可能であると考えている。特に、大学院との5年一貫プログラム（学士・修士）を設立し、卒業後に淡路島で働くこと（期間は定めた上で）を条件に、学生に対して学費の免除などを行うことで、優秀な若者を淡路島に残すことが可能であると考え。さらに、芸術文化観光専門職大学との連携を行い、フィールドワークを行う際に相互（淡路島・豊岡間）で学生を送り合うなどできれば、学びはより深まるだろう。

また、淡路島大学（仮）の設立によって生じると考えられる他のメリットについてもここで言及しておく。

まずは空洞化している 20 代前後の若者を淡路島内に増やすことができるということである。現時点では淡路島に大学はないため、多くの若者が高校卒業と同時に島を離れることとなる。そのため、淡路島において大学生と地域の人々の関わりというものはほとんどないと言える。そういった意味では、大学生が淡路島で下宿することで、日常生活において大学生と地域の人々との交流が自然と生まれるのではないかと思う。

次に、淡路島は比較的都市部とのアクセスが良いということである。農業と観光業を深く学ぶことができるからといって、辺境の地に大学があってはそれを理由に敬遠する学生も現れるだろう。しかし、淡路島の場合、神戸市までは車で約 1 時間、大阪市までは 1 時間半とそこまで時間がかかるわけではない。したがって、辺境の地で隔絶された 4 年間を送ることになるという懸念も学生には生じないだろう（もっとも農業や観光業に携わりたいという意欲を持った学生は一般的な学生と気質が異なっており、そのような問題は生じないのかもしれないが）。

なお、本政策を実行するにあたっての注意点として、優秀なコーディネーター及び担当教員がいることが極めて重要であるということに留意しなければならない。コーディネーターの重要性は今永（2021）や芦塚（2021）でも述べられていた。つまり、緻密なカリキュラムを構築し、学生と地域住民のつながりを提供し、さらに、学生に対してきめ細かいフィードバックを継続的に行って、初めて学生たちは深い学びを得ることができるからだ（もちろん、学生の意欲や熱意が必要であるということと言うまでもない）。このような懸念点に関しては栗田ゼミの担当教員である栗田匡相教授（関西学院大学経済学部）からアドバイスをいただくなどが対応策として考えられる。

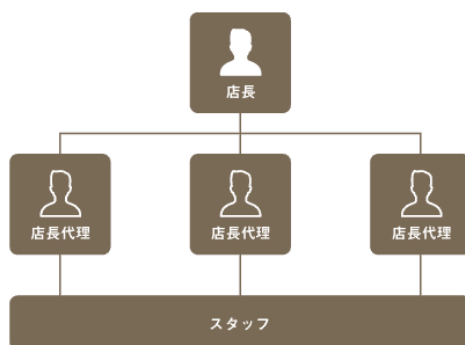
第 3 節 まちづくりコワーキングスペース with 保育所

本節では U ターンと I ターンの促進や先述の 2 つの政策によって地方創生に取り組みたいという人々、とりわけ若者の交流の場所を提供するための施策としてまちづくりコワーキングスペース with 保育所を提言する。この政策は本研究の最重要課題である、若者の定住人口を増加させることに対して直接影響を及ぼす政策と考えている。

先述の 2 つの政策は、U ターンや I ターンにきっかけとなる、地域活性化意欲を高めることや地域で働く意欲を高めることを目的とした。そこで、実際に U ターンや I ターンをしてもらうにあたっては働く環境の形成をサポートする必要がある。そこで提言するのが街

づくりコワーキングスペース with 保育所である。分析結果より地域の住環境や魅力が若者比率の上昇に影響を与えることや地元の居場所感が地元就職の希望を高めること、地域間交流が居留意欲を高めることが明らかとなっている。そのため保育所付きのコワーキングスペースを整備することで、地域間の交流を促進するとともに、愛着の持てる場所、便利で暮らしやすい場所の形成を行っていく。まずコワーキングスペースという空間を採用することで地域の人が集まることで新しいビジネスの創出の場を実現できる。地域に暮らし続けていた人と、UターンやIターンで帰ってきた人が多様につながり、意見やアイデアを出し合える仕事場にしていく。課題を抱える人と事業を起こしたい人を結び、イノベーションを起こしていく。そんな新しいつながりを生む場所としてコワーキングスペースを整備していくのである。

また、コワーキングスペースの運営スタッフとして、淡路島大学（仮）に在籍する学生を雇用すること（保育所の保育士は含まない）を想定している。



（図：運営スタッフの構成図 出典：知るカフェ）

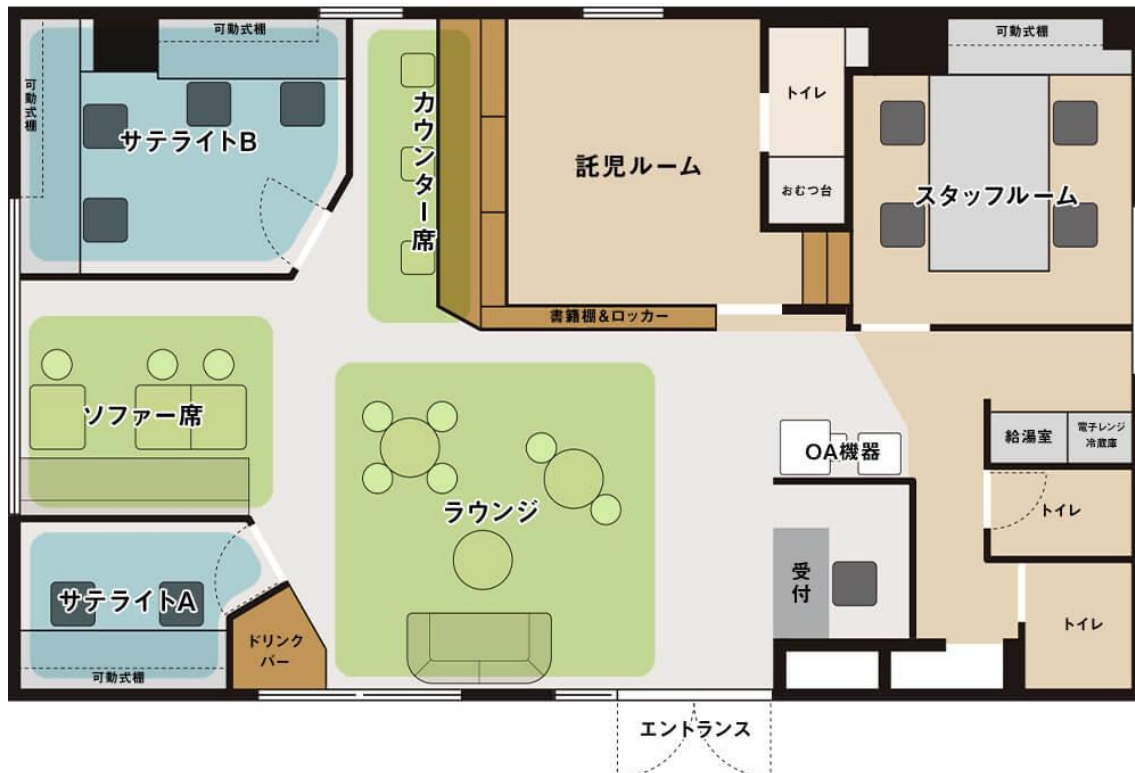
上記の図は東京大学をはじめとした、全国の大学の近隣に出店している知るカフェの運営スタッフの構成図である。知るカフェは学生のみで運営しており、店長の仕事も含まれている。したがって、まちづくりコワーキングスペースを学生のみで運営することは十分に可能であると考えられる。知るカフェは、学生のみでの運営を行うことで、実践型インターンシップの要素を兼ね備えている。実践型インターンシップ、とりわけ長期間のインターンシップの重要性や効果に関しては、今永（2021）や芦塚（2021）でも言及した通りである。この実践型インターンシップの要素に加えて、地方創生におけるまちづくりの要素を加えることで、政策②の淡路島大学（仮）のフィールドワークを補うことにもつながる。そして、学生にコワーキングスペースで働く機会を提供することによって、学生の段階で地方創生に取り組んでいる社会人の人々と交流することができる。これも将来的な U ターンや I ターンのきっかけとなる交流関係の形成につながるだろう。

場所としては古民家や空き家などを活用することで空き家問題にも貢献していく。



(写真：栗田研究室のメンバーと徳重正恵さん 場所：Workation Hub 紺屋町)

我々栗田研究室のメンバーも徳重さんが運営されている Workation Hub 紺屋町を訪問させていただいた。写真は見学させていただいたときのものであり、古民家の利用などの着想は徳重さんのコワーキングスペースから得ている。地域の人々にとって愛着のある場所で、趣のある空間を構築し、そこから新たなつながりやビジネスが生まれることも本政策の狙いである。

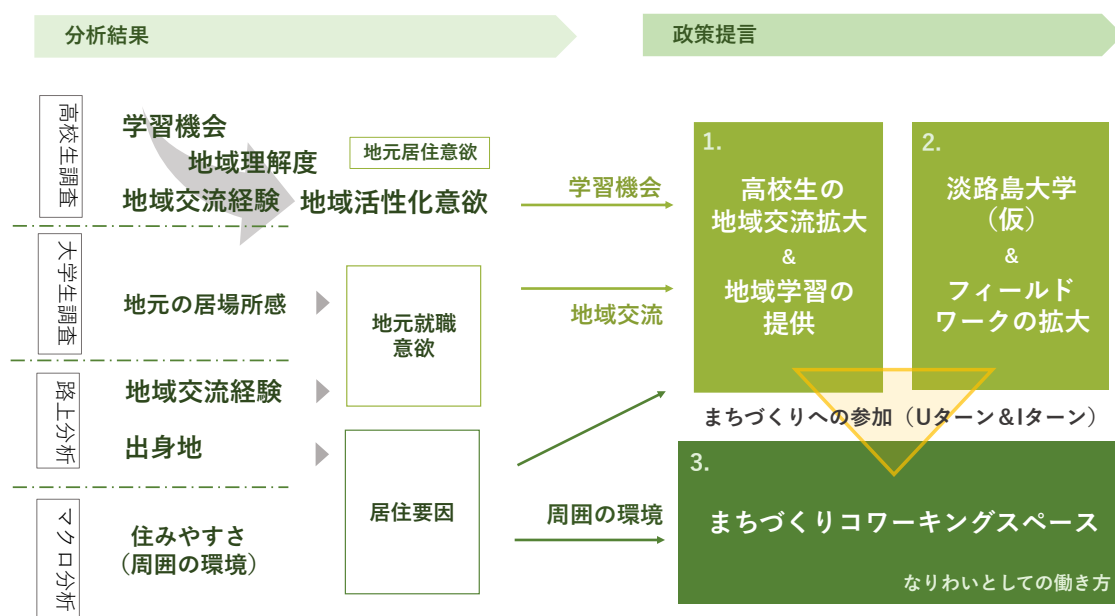


(図：コワーキングスペースの間取り 出典：CREATIVE ROOM fukuoka-daimyo)

次に保育園をつけることで女性の働きやすさを促進していく目的がある。上の図はスタイルクリエイト株式会社さんが運営している、託児所を併設しているコワーキングスペースの間取り図である。託児所付きのコワーキングスペースは全国的にみても珍しい。福岡市はスタートアップ創業区として注目を集めるほど、スタートアップが多い地域であり、託児所を併設する意図としては、子どもを持つ親、とりわけ、女性が子育てをしながらキャリアを積むことや、スタートアップの創業者として活躍することができるような環境を構築するためである（CREATIVE ROOM fukuoka-daimyo）。また、先行研究でも移動した地域で女性が就業機会を得ることが困難であるということを明らかにしたものがある。何芳（2023）によると地域移動において、男性は移動理由の9割が自身の仕事の都合である一方で、女性は家族の都合が大半を占めている。また、地域移動前に正社員であった女性が家族の都合が理由で地域移動した場合に無業や非正規で働く可能性が高いという傾向が明らかとなった（何芳 2023）。つまり、地域移動した先で女性が就業先、とりわけ正社員で働くことが困難であることがわかる。そのため、地域移動をした女性に対して働く環境をサポートすることが重要であることは容易に理解できるだろう。

以上のように、交流機会の確保・学生の運営・古民家などの再利用・保育所の併設など様々な視点からコワーキングスペースの意義について述べてきた。実際のここで取り上げてい

る要素自体は前例のない、新規性が高いといったものではない。しかしながら、それらが十分に普及しているまたは、組み合わさったコワーキングスペースがあるのかというとなかなか見受けられない。そのため、本政策を実行することで既存のコワーキングスペースよりも良い環境を地域の人々に提供することができると考えている。もちろん、そのコワーキングスペースの認知度を高めて、より多くの人に利用してもらうための施策については別途議論を要するだろう。



上の図は今回の分析結果と政策提言の関係性を 1 つの図にまとめたものである。4 つの分析から明らかとなったこととして、若者が地方で定住するためには、住みやすさといった居住環境はもちろんのこと、その地域で働く意志があるかということに加えて、その地域の活性化意欲があるかどうかことが重要であるということである。そこでそれらの要因に対しては高校生の地域交流拡大や地域学習の提供を行い、活性化意欲を高めて、出身地にとどまることや U ターンの確率を高めることを狙いとした。淡路島大学やフィールドワークの拡大によってその地域、とりわけ淡路島出身ではない人に対するアプローチを行った。そして U ターンや I ターンの気運を高めた後に若者を受け入れるための施策としてまちづくりコワーキングスペース with 保育所を提言した。以上 3 つの政策によって、若者の人口を増やす

ことができるのではないかと考える。また、政策実行にあたっては淡路島や豊岡市といった観光資源が豊富な市町村から始め、地方創生のロールモデルを構築した上で他の市町村に波及させていくことが望ましい。もちろん、外的妥当性の部分については再度検証を行う必要があると考えられる。それでも、淡路島と豊岡市のまちづくりが上手くいけば、兵庫県にも明るい兆しをもたらすことになるということは間違いないだろう。

参考文献

1. 総務省 (2024) 「住民基本台帳人口移動報告」 (2024/2/2 最終アクセス)
<https://www.stat.go.jp/data/idou/2023np/jissu/youyaku/index.html#a2>
2. 兵庫県 (2023) 「兵庫県地域創生戦略 (2020~2024)」 (2024/2/3 最終アクセス)
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk07/2020sennryaku.html>
3. 久保健治 (2023) 『ヒストリカル・ブランディング：脱コモディティ化の地域ブランド論』 角川新書
4. 上山健一郎 (2023) 「企業の本社移転による移転先地方公共団体に及ぼす影響 についての一考察 ―パソナグループの本社機能の一部移転から見る 淡路島の経済の変化を中心に―」 『商大ビジネスレビュー』
5. 石井まこと (2020) 「地方労働市場と地方高卒・大卒出身者のライフコース：地方女性自営業の創業事例をふまえて」 『日本労働研究雑誌』 No.718
6. 上田航平・高田晋史 (2022) 「ネガティブな要因をきっかけとする若者の帰郷・定住プロセスと心理変化：島根県雲南市を事例として」 『農林業問題研究』
7. 何芳 (2023) 「女性の地域移動と就業・賃金」 『日本労働研究雑誌』 No.752
8. 今永典秀 (2021) 「地域創生へのインターンシップ：コーディネーターの重要性」 『日本労働研究雑誌』 No.733
9. 芦塚格 (2021) 「長期型インターンシップが生み出す中小企業と学生の学び合い」 『日本労働研究雑誌』 No.733
10. 中澤高志 (2020) 「地方都市でなりわいを創る：大分県佐伯市みる雇われない働き方の可能性」 『日本労働研究雑誌』 No.718
11. 高橋伸子 (2019) 「観光系大学における教育が観光産業に果たす役割」 『日本労働研究雑誌』 No.708
12. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮 (2020) 『計量経済学』 有斐閣
13. 松浦寿幸 (2023) 『Stata によるデータ分析入門[第3版]—経済分析の基礎から因果推論まで—』 東京図書
14. 中貝 宗治 (2023) 『なぜ豊岡は世界に注目されるのか』 集英社新書
15. 原田保・金澤和夫 (2014) 『淡路島 神の国を背景にしたブランディング：淡路地域（淡路市・洲本市・南あわじ市）の地域ブランド戦略』 芙蓉書房出版
16. 西村佳哲・青木将幸・堀田裕介・中脇健児・鬼本栄太郎・藤澤晶子 (2016) 『地域×クリエイティブ×仕事：淡路島発ローカルをデザインする』 学芸出版社
17. 影山知明 (2015) 『ゆっくり、いそげ：カフェからはじめる人を手段化しない経済』 大和出版
18. 栗田匡相 (2022) 『エビデンスで紐解く地域の未来』 中央経済社
19. CREATIVE ROOM fukuoka-daimyo (2024/2/2 最終アクセス)

<https://c-room.jp/>

20. SHIRUCAFE (2024/2/2 最終アクセス)

<https://shirucafe.com/recruit/>

21. 文部科学省 (2022)「地域との協働による高等学校教育改革の推進」(2024/2/10 最終アクセス)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1407659.htm

22. 文部科学省 (2022)「令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型成果物)」(2024/2/10 最終アクセス)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/sesaku/1418873_00023.htm

補論

記述統計量：高校調査（豊岡市内）

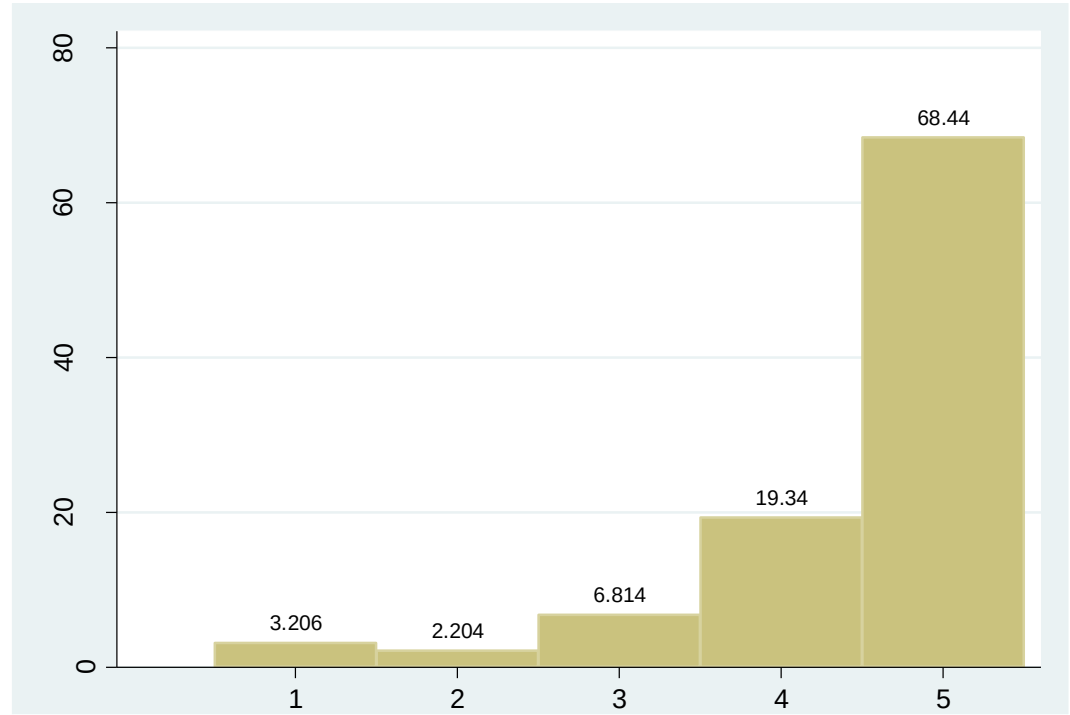
【1.地元について】

各設問において

- ① そう思わない ② どちらかといえばそう思わない ③ どちらでもない
④ どちらかといえばそう思う ⑤ そう思う

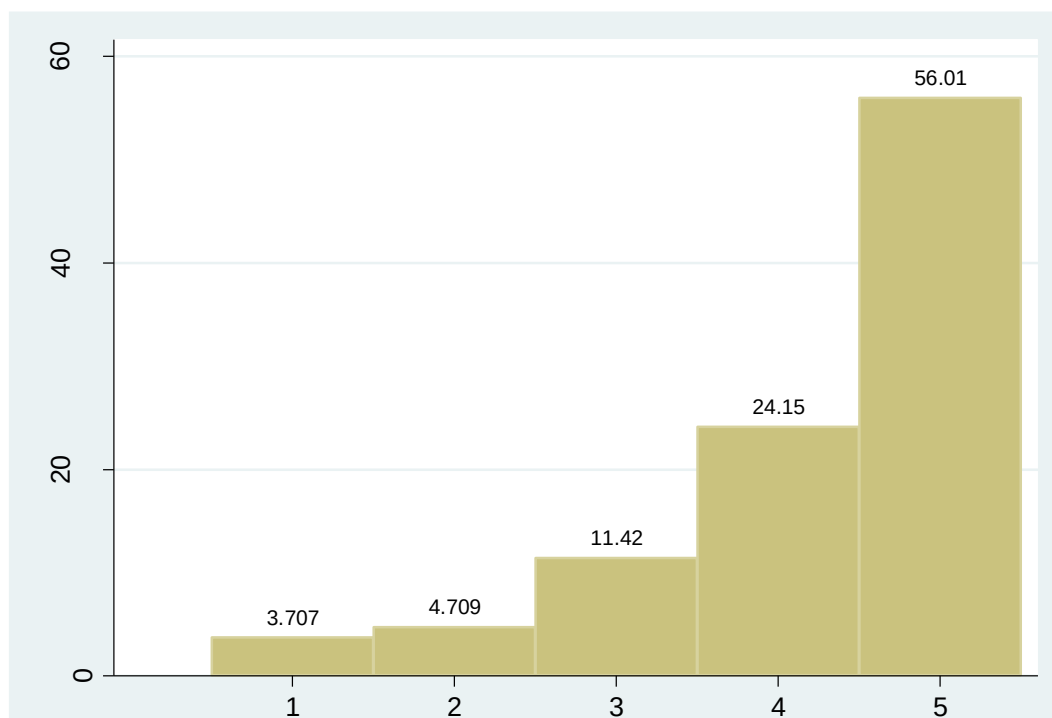
1 小学校の時に学校で地域の産業や文化について学習する機会があった						
	(人)	(%)				
1	32	3.2		平均	4.48	
2	22	2.2		分散	0.90	
3	68	6.8		標準偏差	0.95	
4	193	19.3				
5	683	68.4				
合計	998	100.0				

ヒストグラム（縦軸は%、以下すべてのヒストグラムで同様）



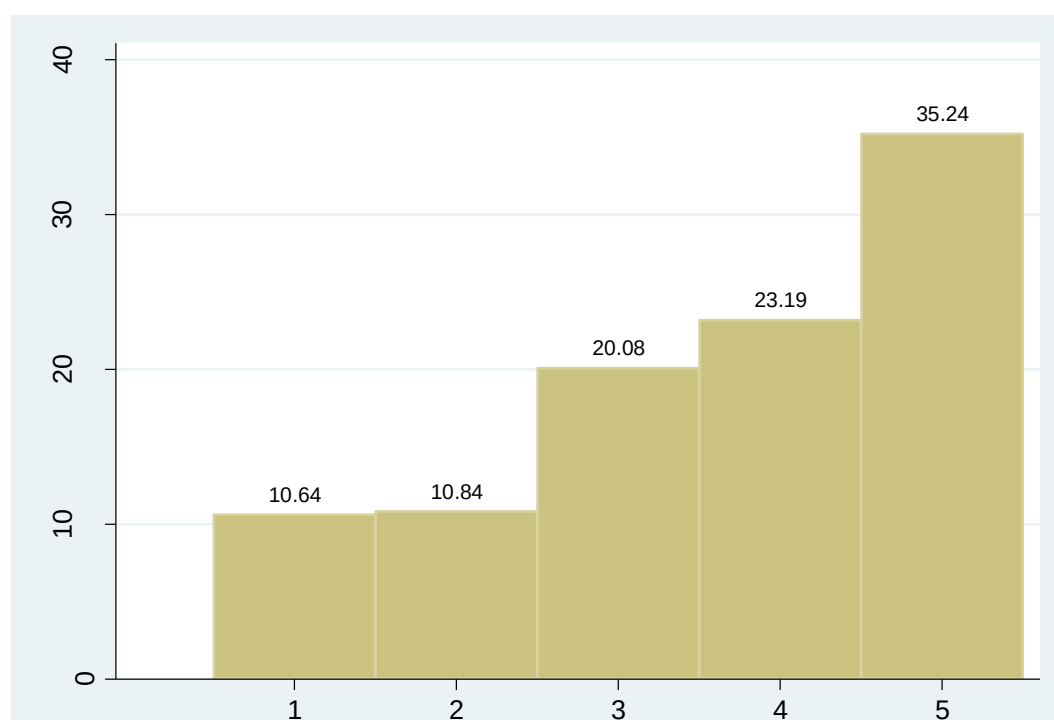
2 中学校の時に学校で地元の産業や文化について学習する機会があった						
	(人)	(%)				
1	37	3.7	平均	4.24		
2	47	4.7	分散	1.14		
3	114	11.4	標準偏差	1.07		
4	241	24.2				
5	559	56.0				
合計	998	100.0				

ヒストグラム



3 高校の時に学校で地元の産業や文化について学習する機会があった						
	(人)	(%)				
1	106	10.6	平均	3.62		
2	108	10.8	分散	1.80		
3	200	20.1	標準偏差	1.34		
4	231	23.2				
5	351	35.2				
合計	996	100.0				

ヒストグラム

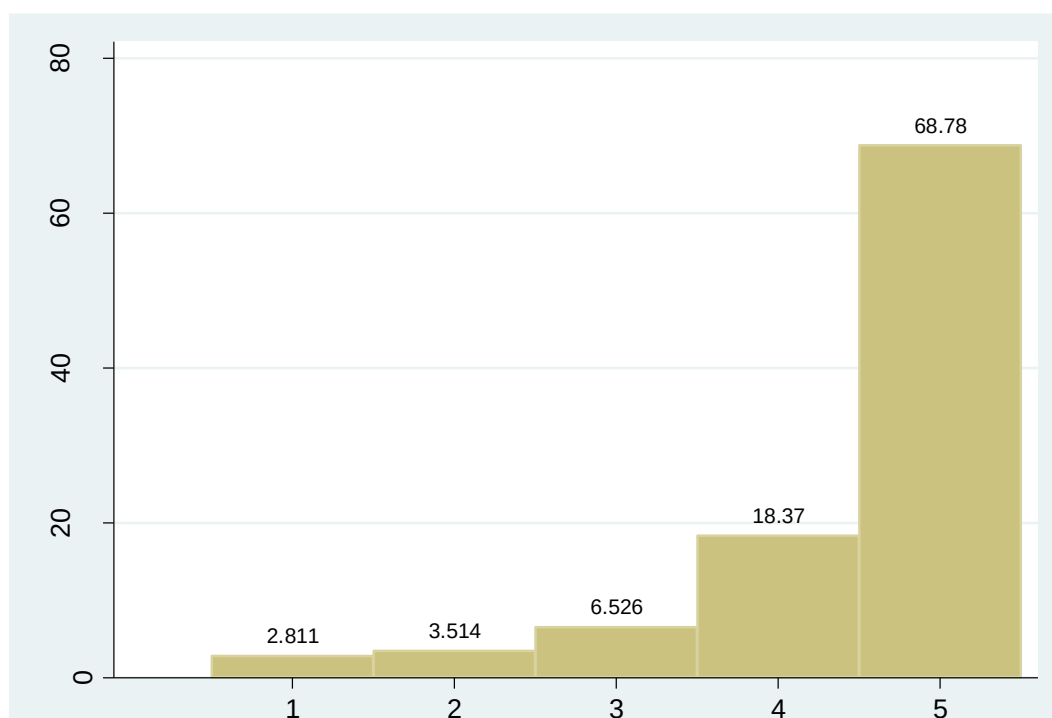


小中学校の時には 80%以上の人が「どちらかと言えばそう思う」または「そう思う」と回答していたのに対して、高校時では 58%と大きく低下していることがわかる

→高校では小学校や中学校と比較して学習機会が十分に提供されていない、もしくは学生が満足したものではない可能性がある。

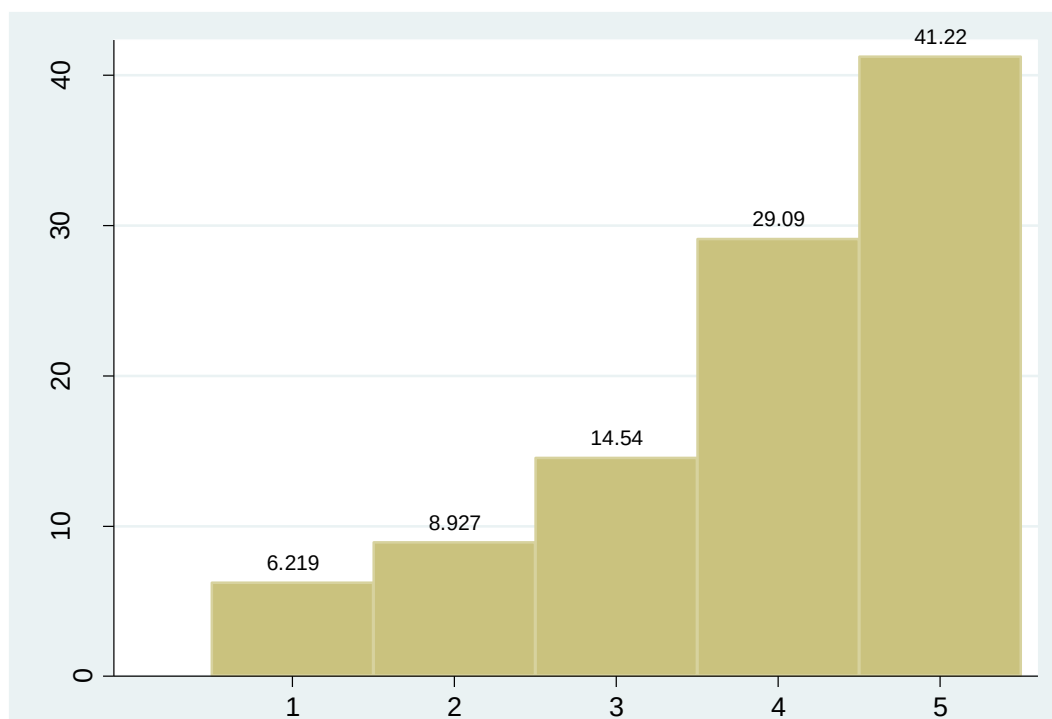
4 小学校の時に学校の授業や課外活動で地域の人々に関わる機会があった						
	(人)	(%)				
1	28	2.8	平均	4.47		
2	35	3.5	分散	0.93		
3	65	6.5	標準偏差	0.96		
4	183	18.4				
5	685	68.8				
合計	996	100.0				

ヒストグラム



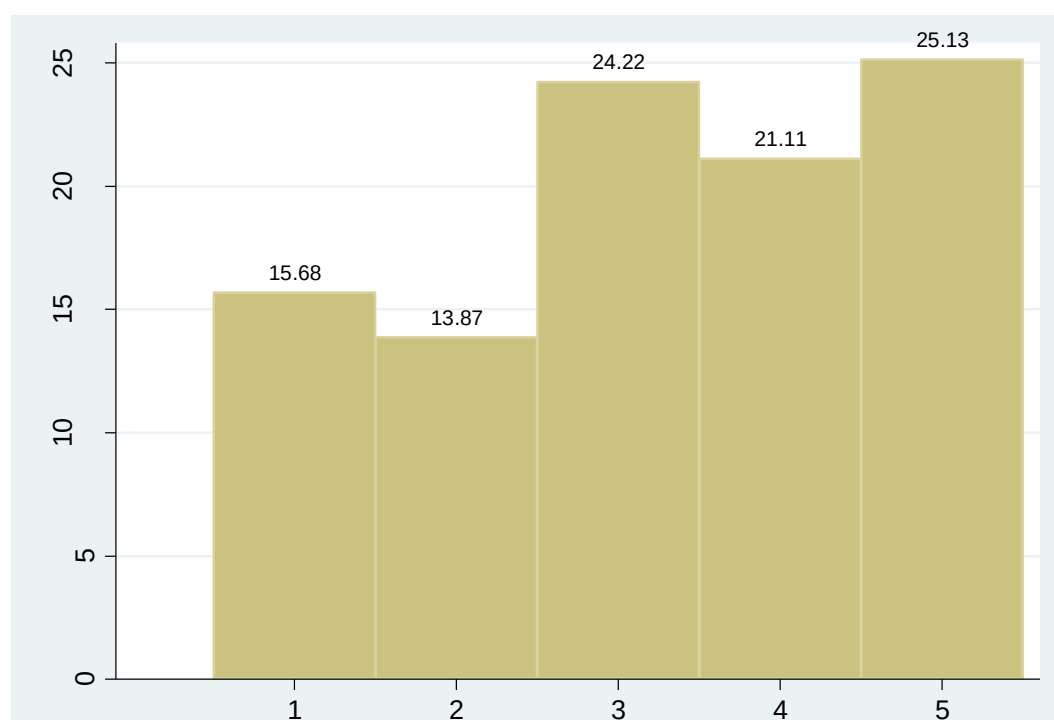
5 中学校の時に学校の授業や課外活動で地域の人々に関わる機会があった						
	(人)	(%)				
1	62	6.2	平均	3.9		
2	89	8.9	分散	1.47		
3	145	14.5	標準偏差	1.21		
4	290	29.1				
5	411	41.2				
合計	997	100.0				

ヒストグラム



6 高校の時に学校の授業や課外活動で地域の人々に関わる機会があった						
	(人)	(%)				
1	156	15.7	平均	3.26		
2	138	13.9	分散	1.91		
3	241	24.2	標準偏差	1.38		
4	210	21.1				
5	250	25.1				
合計	995	100.0				

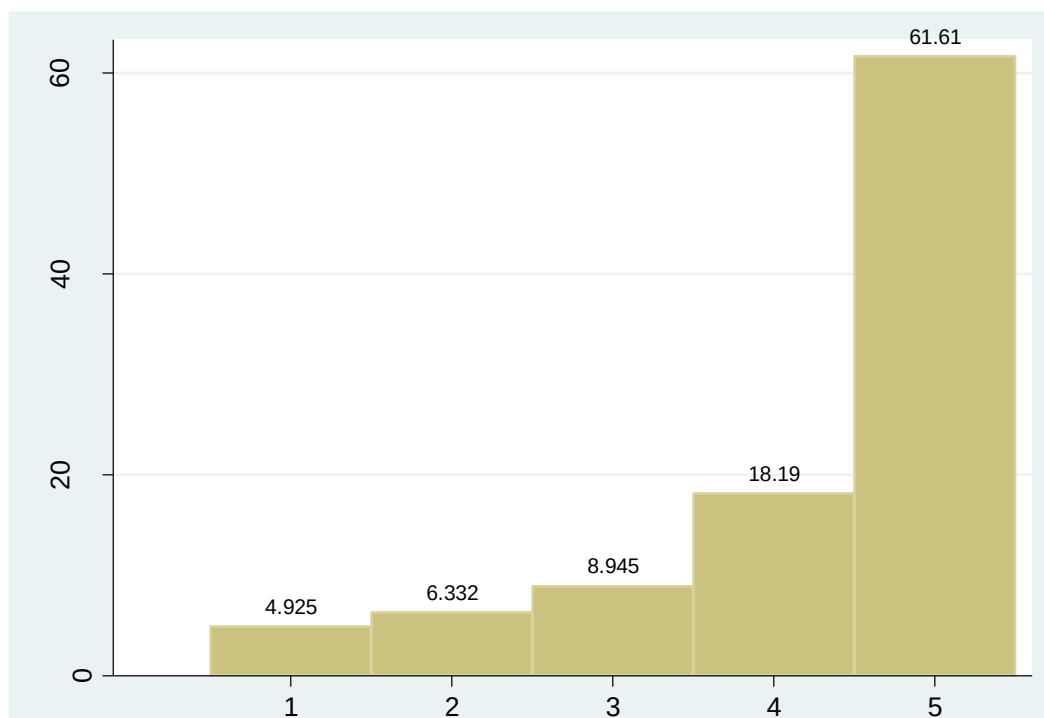
ヒストグラム



学習機会に関する設問と同様の傾向が観察される。高校の時に地域の人々に関わる機会があったという設問に対して、「どちらかといえばそう思う」・「そう思う」と答えた人は50%を下回る結果となった。現状では交流機会が少なく、高校生が地域社会でなりわいとして働くというイメージを持つことは難しい可能性がある。

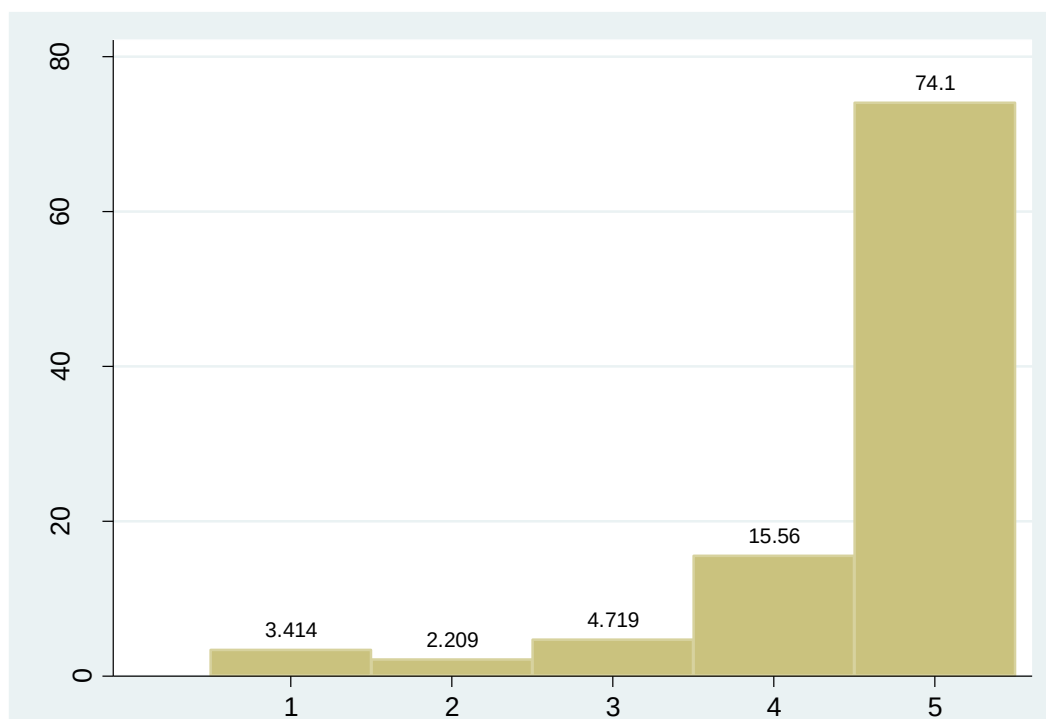
7 小学生の頃によく訪れた場所がある（ex.公園、図書館、駄菓子屋 etc.）						
	（人）	（％）				
1	49	4.9	平均	4.25		
2	63	6.3	分散	1.34		
3	89	8.9	標準偏差	1.16		
4	181	18.2				
5	613	61.6				
合計	995	100.0				

ヒストグラム



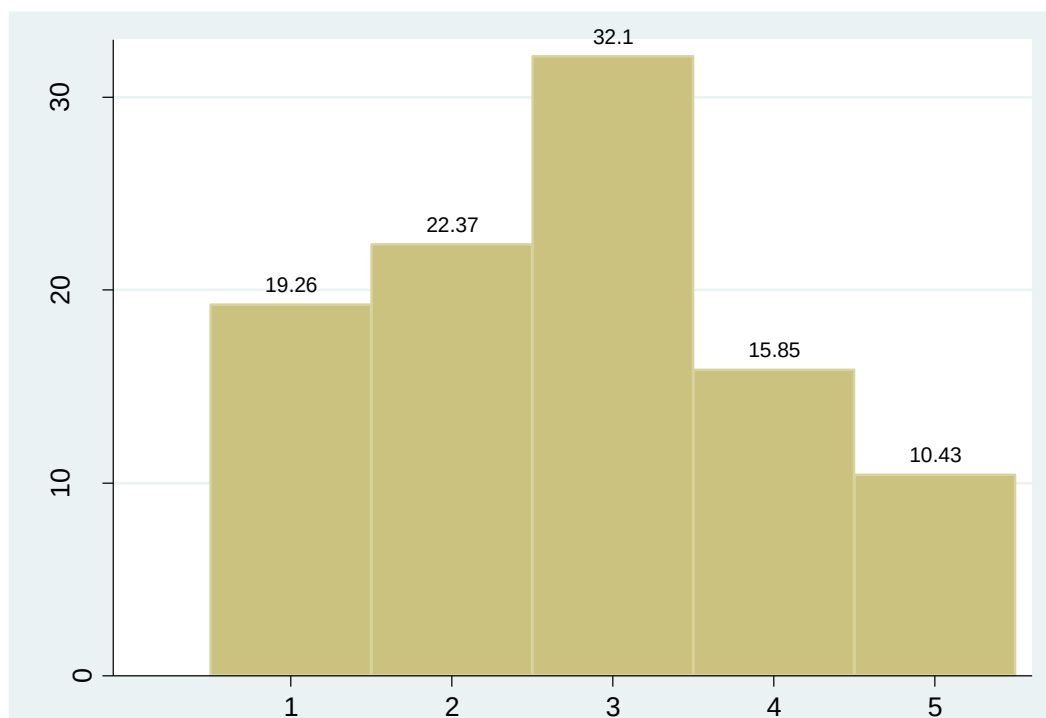
8 地元には自然に触れることができる場所がある (ex.山、川、湖 etc.)						
	(人)	(%)				
1	34	3.4	平均	4.55		
2	22	2.2	分散	0.89		
3	47	4.7	標準偏差	0.94		
4	155	15.6				
5	738	74.1				
合計	996	100.0				

ヒストグラム



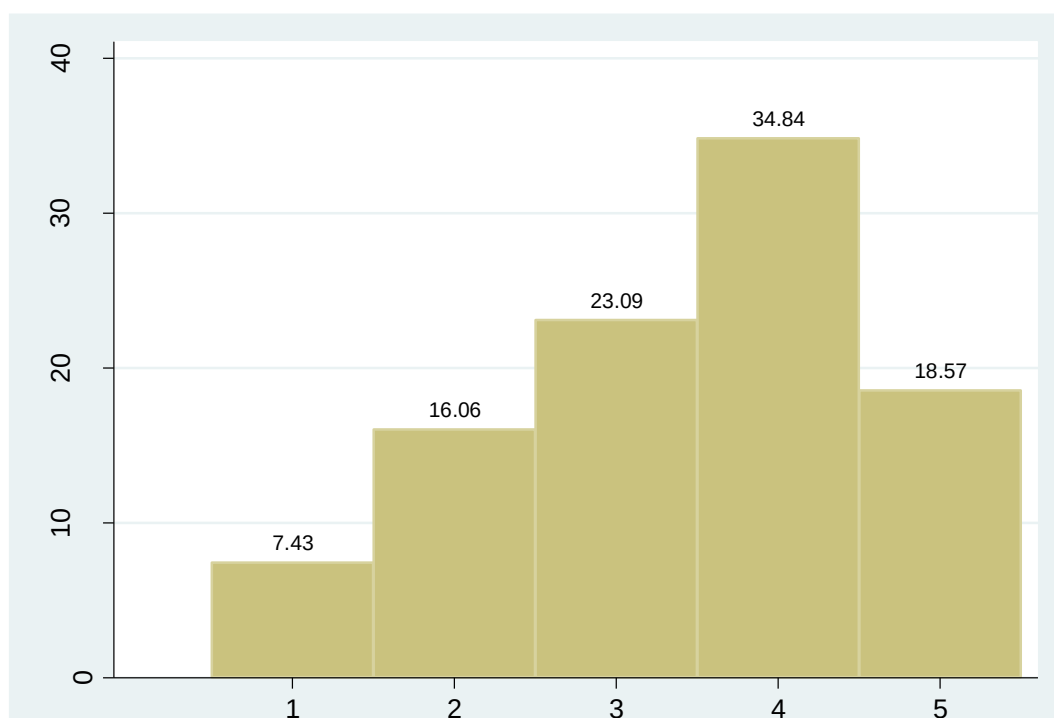
9 可能であれば今後も地元に住み続けたい						
	(人)	(%)				
1	192	19.3		平均	2.76	
2	223	22.4		分散	1.51	
3	320	32.1		標準偏差	1.23	
4	158	15.9				
5	104	10.4				
合計	997	100.0				

ヒストグラム



10 地元の魅力（おすすめの場所や地元の歴史）を他の人に説明することができる						
	(人)	(%)				
1	74	7.4		平均	3.41	
2	160	16.1		分散	1.38	
3	230	23.1		標準偏差	1.18	
4	347	34.8				
5	185	18.6				
合計	996	100.0				

ヒストグラム



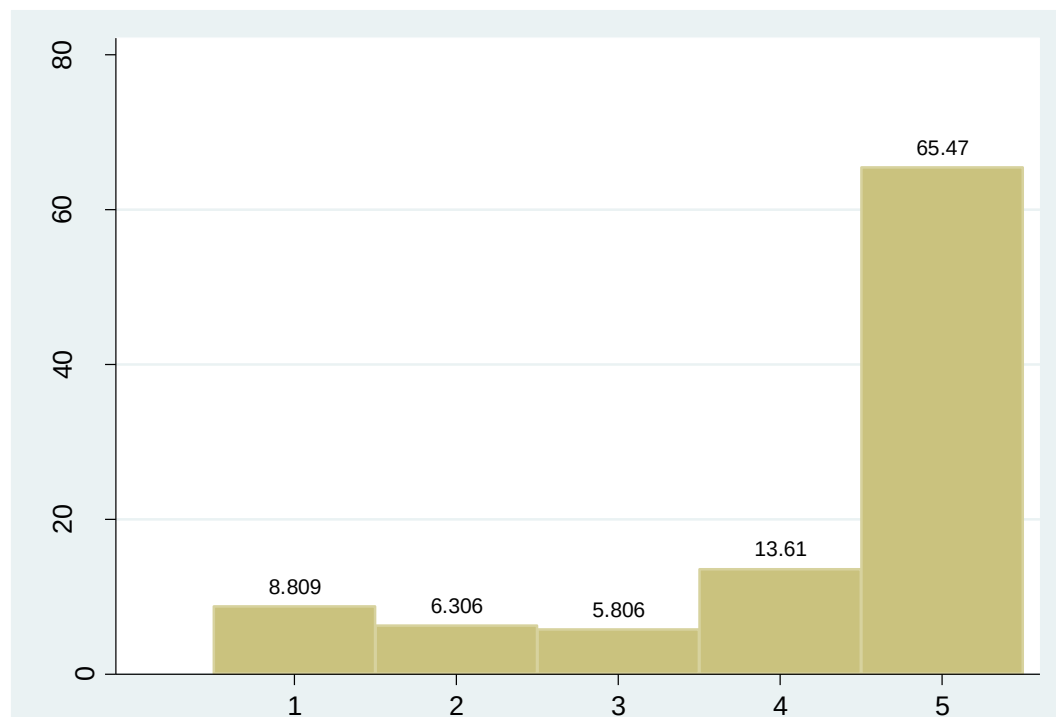
【2.学生生活について】

設問 1~4 において

- ① そう思わない ② どちらかといえばそう思わない ③ どちらでもない
④ どちらかといえばそう思う ⑤ そう思う

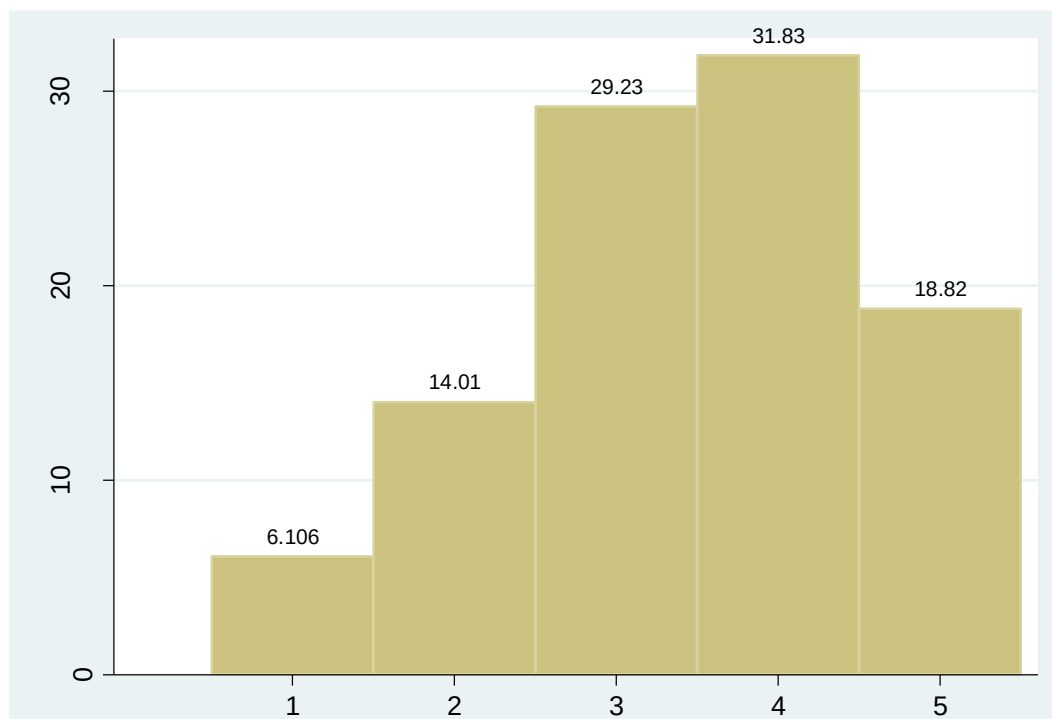
1 朝ごはんを毎日食べている							
	(人)	(%)					
1	88	8.8		平均	4.20		
2	63	6.3		分散	1.72		
3	58	5.8		標準偏差	1.31		
4	136	13.6					
5	654	65.5					
合計	999	100.0					

ヒストグラム



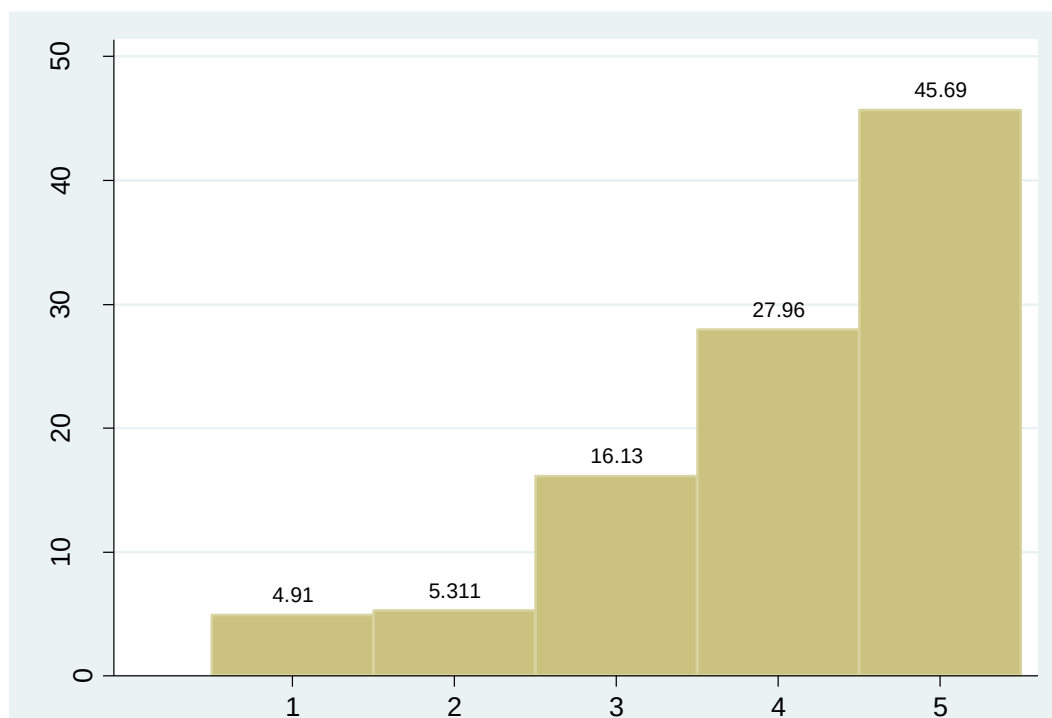
2 学校の授業は楽しい						
	(人)	(%)				
1	61	6.1	平均	3.43		
2	140	14.0	分散	1.27		
3	292	29.2	標準偏差	1.13		
4	318	31.8				
5	188	18.8				
合計	999	100.0				

ヒストグラム



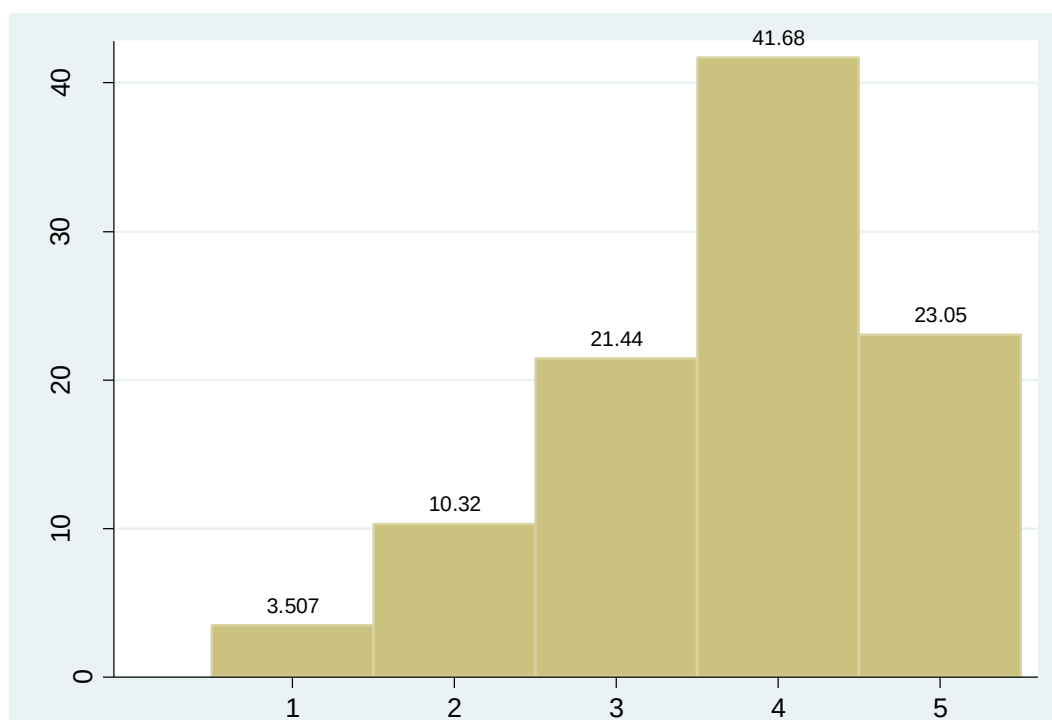
3 学校には悩みを相談することができる友人がいる						
	(人)	(%)				
1	49	4.9	平均	4.04		
2	53	5.3	分散	1.27		
3	161	16.1	標準偏差	1.13		
4	279	28.0				
5	456	45.7				
合計	998	100.0				

ヒストグラム



4 学校の授業に集中している						
	(人)	(%)				
1	35	3.5		平均	3.70	
2	103	10.3		分散	1.09	
3	214	21.4		標準偏差	1.04	
4	416	41.7				
5	230	23.1				
合計	998	100.0				

ヒストグラム



5 1日に何時間寝ていますか？（単位：時間）							
	平日			土日			
	平均	6.32		平均	8.02		
	分散	1.28		分散	2.68		
	標準偏差	1.13		標準偏差	1.64		
	データ幅	10		データ幅	19		
	最大値	10		最大値	19		
	最小値	0		最小値	0		
	中央値	6		中央値	8		
	サンプル数	997		サンプル数	997		

6 部活動に所属していますか？（複数選択可）		
	単位（人）	
運動部	480	
文化系の部活	292	
外部団体（運動系）	18	
外部団体（文化系）	16	
所属無し	194	
合計	1000	

7 普段よく使うSNSはどれですか？（複数選択可）					
単位（人）	はい	いいえ	合計	使用率（％）	
LINE	803	193	996	80.6%	
Instagram	707	289	996	71.0%	
X(Twitter)	429	567	996	43.1%	
TikTok	441	241	682	64.7%	
Youtube	814	182	996	81.7%	
BeReal	207	789	996	20.8%	
WhatsApp	23	973	996	2.3%	

8 1日に何時間スマートフォンを使用していますか？（単位：時間）							
	平日			土日			
	平均	4.21		平均	6.83		
	分散	4.95		分散	10.68		
	標準偏差	2.22		標準偏差	3.27		
	データ幅	18		データ幅	24		
	最大値	18		最大値	24		
	最小値	0		最小値	0		
	中央値	4		中央値	6		
	サンプル数	989		サンプル数	989		

9 塾や予備校に通っていますか？（複数選択可）

	単位（人）
駿台や河合などの大手予備校	10
東進やマナビスなどの映像授業	21
地元の個人経営の塾	104
地元に複数店舗ある塾	43
通っていない	803
合計	981

10 1日の勉強時間（授業時間は含まない）を教えてください（単位：時間）							
	平日			土日			
	平均	1.18		平均	1.89		
	分散	1.28		分散	3.70		
	標準偏差	1.13		標準偏差	1.93		
	データ幅	8		データ幅	15		
	最大値	8		最大値	15		
	最小値	0		最小値	0		
	中央値	1		中央値	1		
	サンプル数	989		サンプル数	994		

11	お小遣いは1カ月あたりいくらもらっていますか？（単位：円）						
	お小遣い						
	平均	4906.01					
	分散	4.09E+07					
	標準偏差	6394.103					
	データ幅	50000					
	最大値	50000					
	最小値	0					
	中央値	4500					
	サンプル数	954					

【3.進学について】

1 高校卒業後の進路について教えてください

	単位（人）	（％）
4年制大学（国公立）	220	22.2
4年制大学（私立）	238	24.0
短期大学（短大）	45	4.5
専門学校	216	21.8
就職	237	23.9
その他	36	3.6
合計	992	100.0

2 進学希望先の場所について教えてください(複数選択可)

	単位（人）			
兵庫県内	251			
兵庫県を除く近畿圏	522			
東京	50			
その他	84			
回答数	907			

3 進学希望の学部について教えてください(複数選択可)

	単位 (人)			
文学部	72			
法学部	46			
経済学部	77			
経営学部	81			
商学部	38			
国際学部	43			
外国語学部	38			
理学部	44			
工学部	61			
理工学部	56			
薬学部	33			
医学部	39			
看護学部	39			
農学部	30			
情報学部	55			
その他	140			
回答数	892			

4 進学希望の専門学校の種類について教えてください(複数選択可)

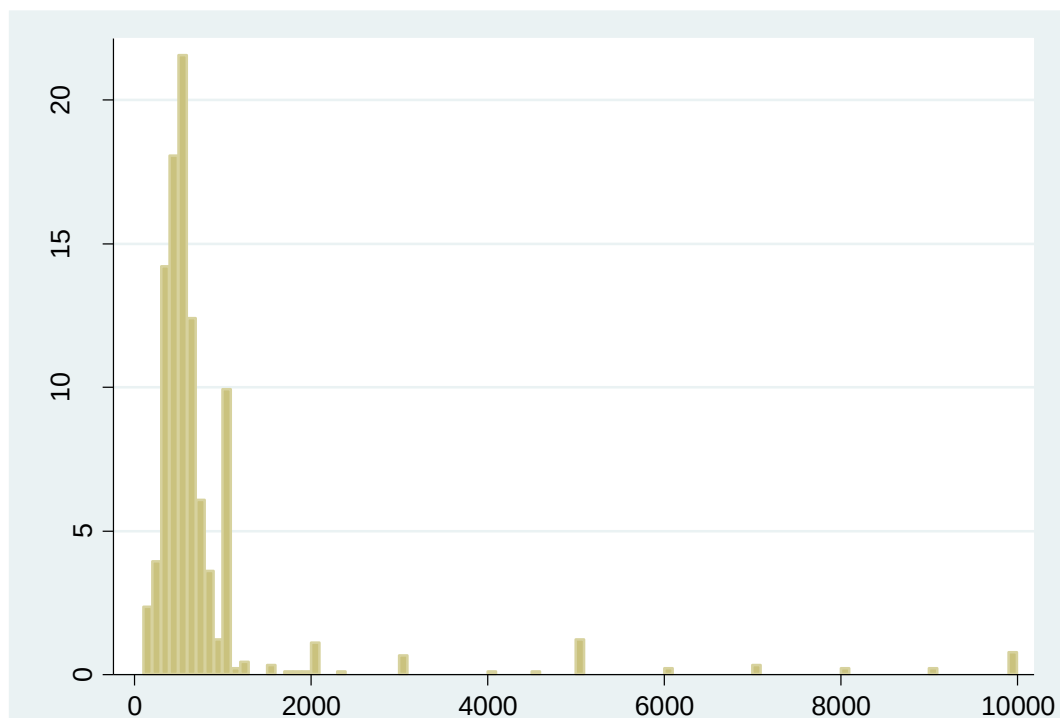
	単位 (人)				
看護系	27				
福祉系	16				
保育系	15				
美容系	54				
調理系	18				
語学系	7				
音楽系	12				
デザイン系	20				
アニメ・マンガ系	17				
公務員系	14				
自動車などの機械系	13				
ゲーム・IT系	26				
その他	47				
回答数	286				

【4.就職について】

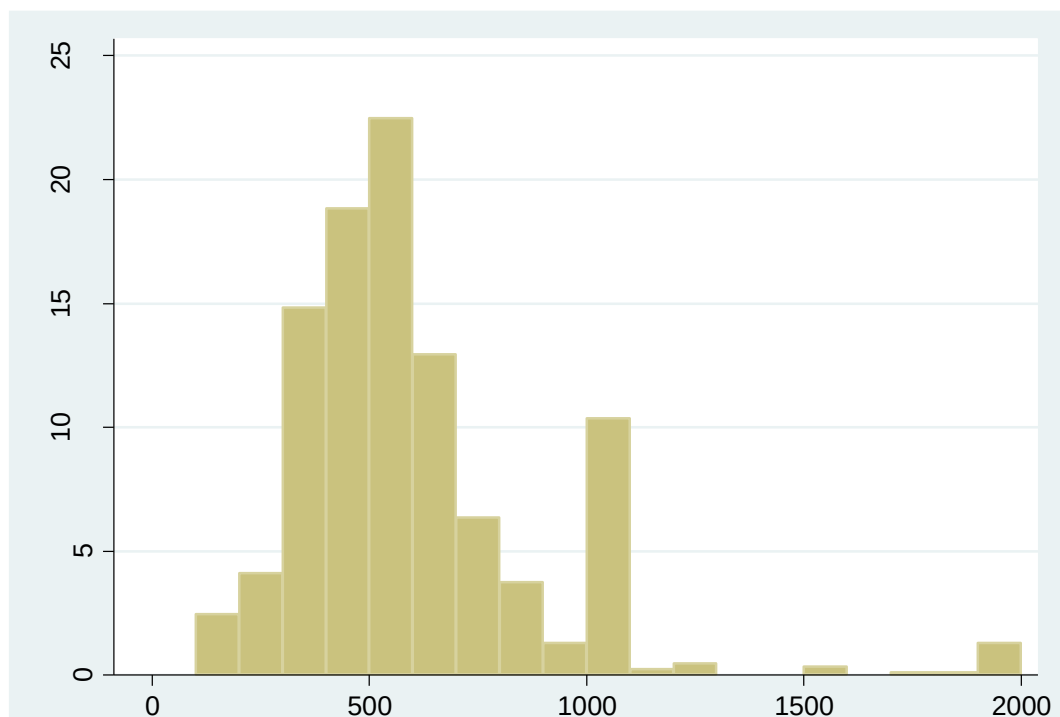
1 将来、就職先の仕事場として希望する場所はどこですか？（複数選択可）					
① 豊岡市内			② 兵庫県内（豊岡市内を除く）		
	(人)	(%)		(人)	(%)
はい	120	12.5	はい	289	30.2
いいえ	839	87.5	いいえ	669	69.8
合計	959	100.0	合計	958	100.0
③ 大阪			④ 兵庫・大阪を除く近畿圏		
	(人)	(%)		(人)	(%)
はい	255	26.7	はい	147	15.4
いいえ	701	73.3	いいえ	810	84.6
合計	956	100.0	合計	957	100.0
⑤ 東京			⑥ 海外		
	(人)	(%)		(人)	(%)
はい	67	7.0	はい	36	3.8
いいえ	890	93.0	いいえ	921	96.2
合計	957	100.0	合計	957	100.0

2 あなたが30歳の時、年収はどのくらいを希望しますか？（単位：万円）							
年収							
平均	790.09						
分散	1545492.00						
標準偏差	1243.17						
データ幅	9900						
最大値	10000						
最小値	100						
中央値	500						
サンプル数	886						

ヒストグラム（全体）（横軸の単位：万円）



ヒストグラム（2000 万円以下）（横軸の単位：万円）

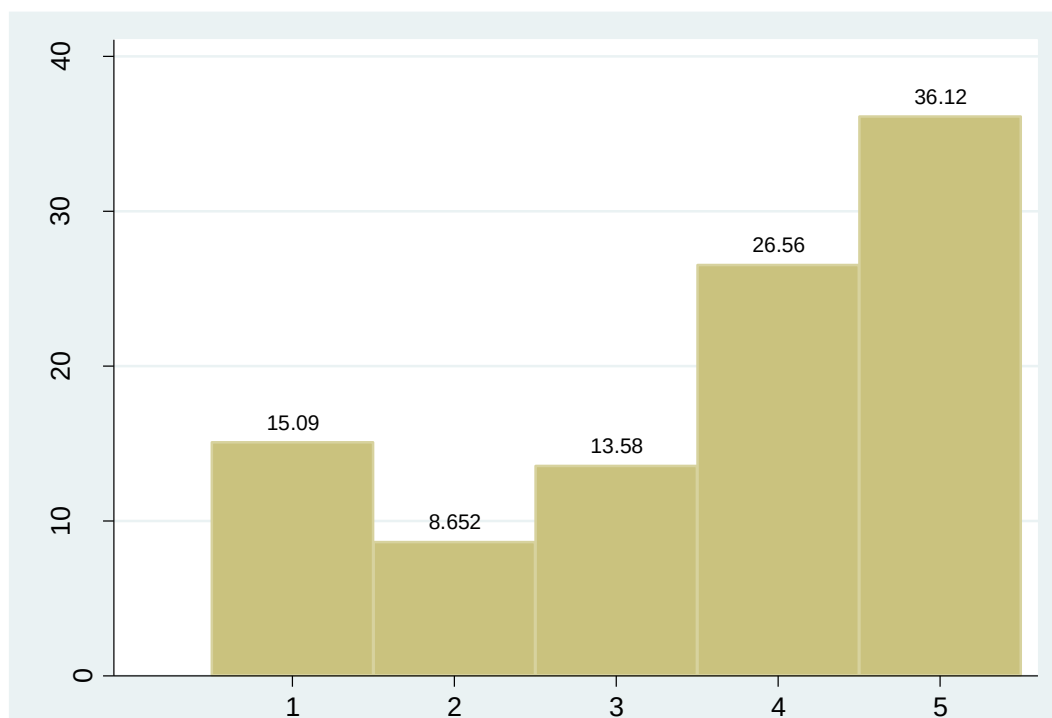


設問 3~11 において

- ① 当てはまらない ② どちらかといえば当てはまらない ③ どちらでもない
④ どちらかといえば当てはまる ⑤ 当てはまる

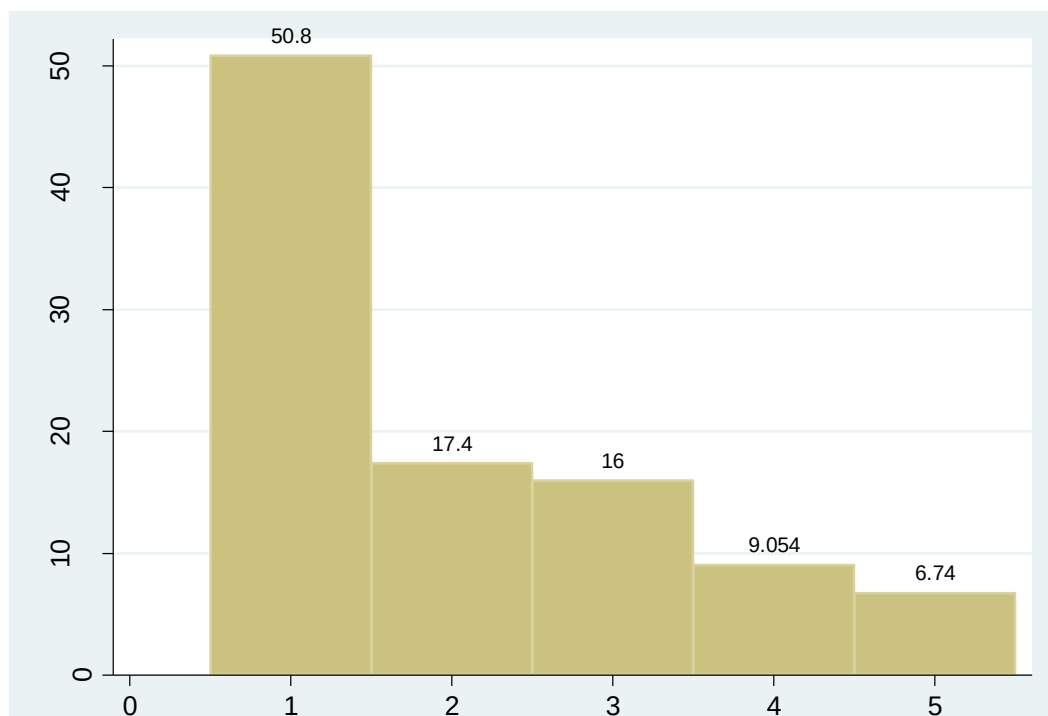
3 将来、どんな職業に就きたいか決まっている							
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	150	15.1	15.1		平均	3.60	
2	86	8.7	23.7		分散	2.04	
3	135	13.6	37.3		標準偏差	1.43	
4	264	26.6	63.9				
5	359	36.1	100.0				
合計	994	100.0					

ヒストグラム



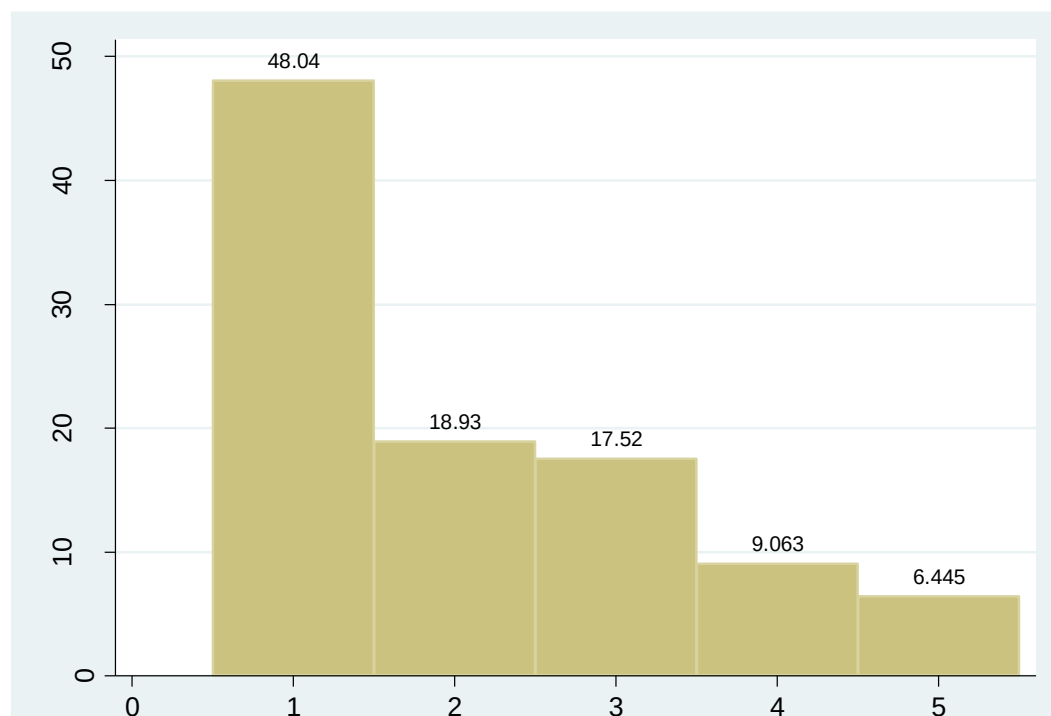
4 将来、海外で働きたい							
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	505	50.8	50.8		平均	2.04	
2	173	17.4	68.2		分散	1.64	
3	159	16.0	84.2		標準偏差	1.28	
4	90	9.1	93.3				
5	67	6.7	100.0				
合計	994	100.0					

ヒストグラム



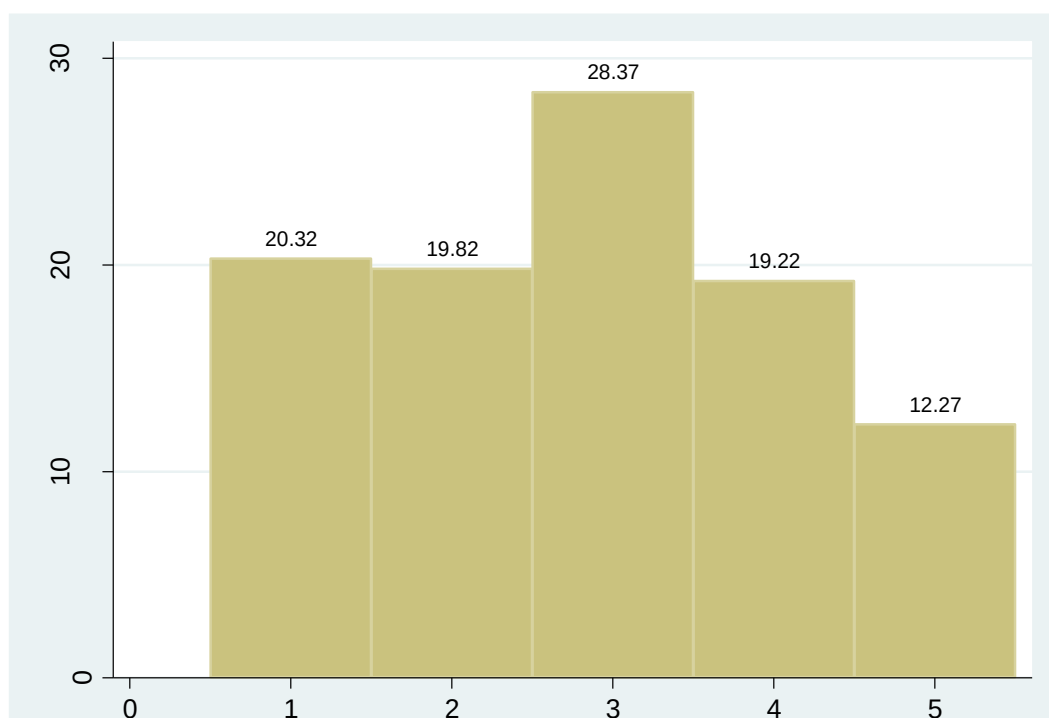
5 英語を使って外国人とコミュニケーションをとることが求められる職場で働きたい							
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	477	48.0	48.0		平均	2.07	
2	188	18.9	67.0		分散	1.59	
3	174	17.5	84.5		標準偏差	1.26	
4	90	9.1	93.6				
5	64	6.5	100.0				
合計	993	100.0					

ヒストグラム



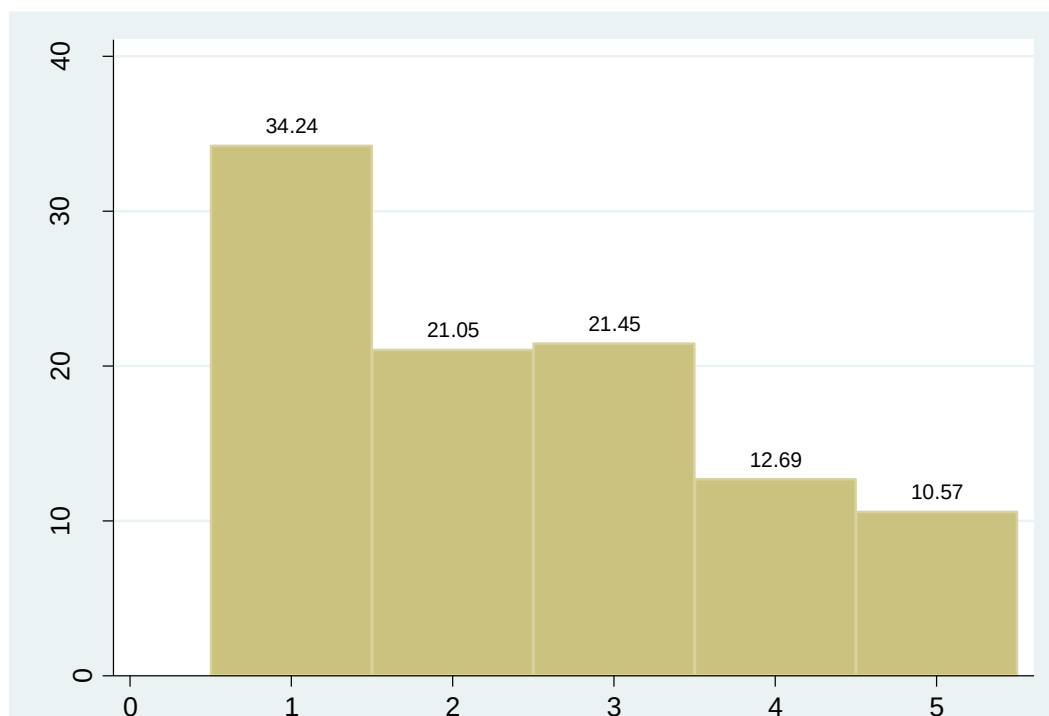
6 仕事を通じて地元貢献したい							
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	202	20.3	20.3		平均	2.83	
2	197	19.8	40.1		分散	1.67	
3	282	28.4	68.5		標準偏差	1.29	
4	191	19.2	87.7				
5	122	12.3	100.0				
合計	994	100.0					

ヒストグラム

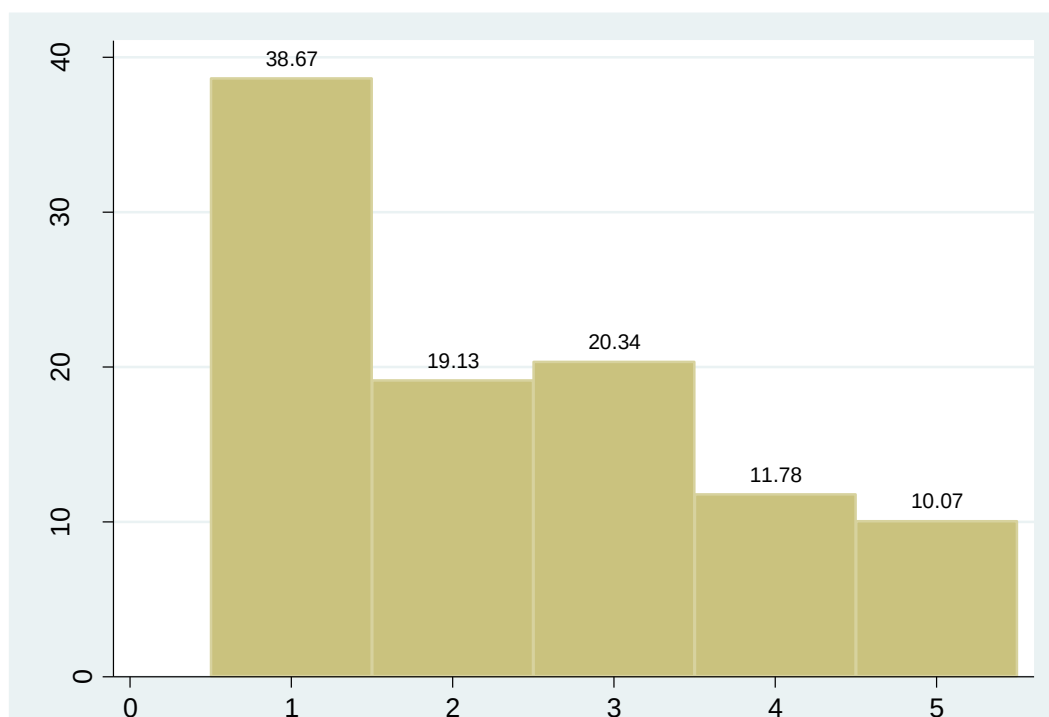


7 将来、起業・独立したい							
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	340	34.2	34.2		平均	2.44	
2	209	21.1	55.3		分散	1.82	
3	213	21.5	76.7		標準偏差	1.35	
4	126	12.7	89.4				
5	105	10.6	100.0				
合計	993	100.0					

ヒストグラム

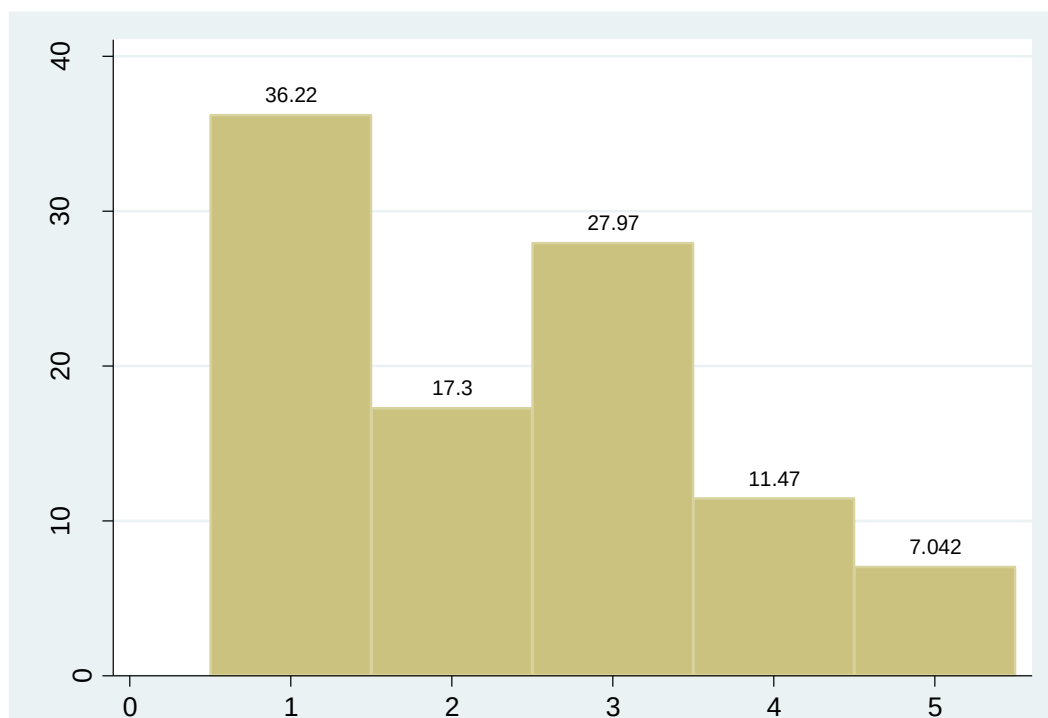


8 公務員（警察官・市役所の職員など）として働きたい							
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	384	38.7	38.7		平均	2.35	
2	190	19.1	57.8		分散	1.84	
3	202	20.3	78.1		標準偏差	1.36	
4	117	11.8	89.9				
5	100	10.1	100.0				
合計	993	100.0					



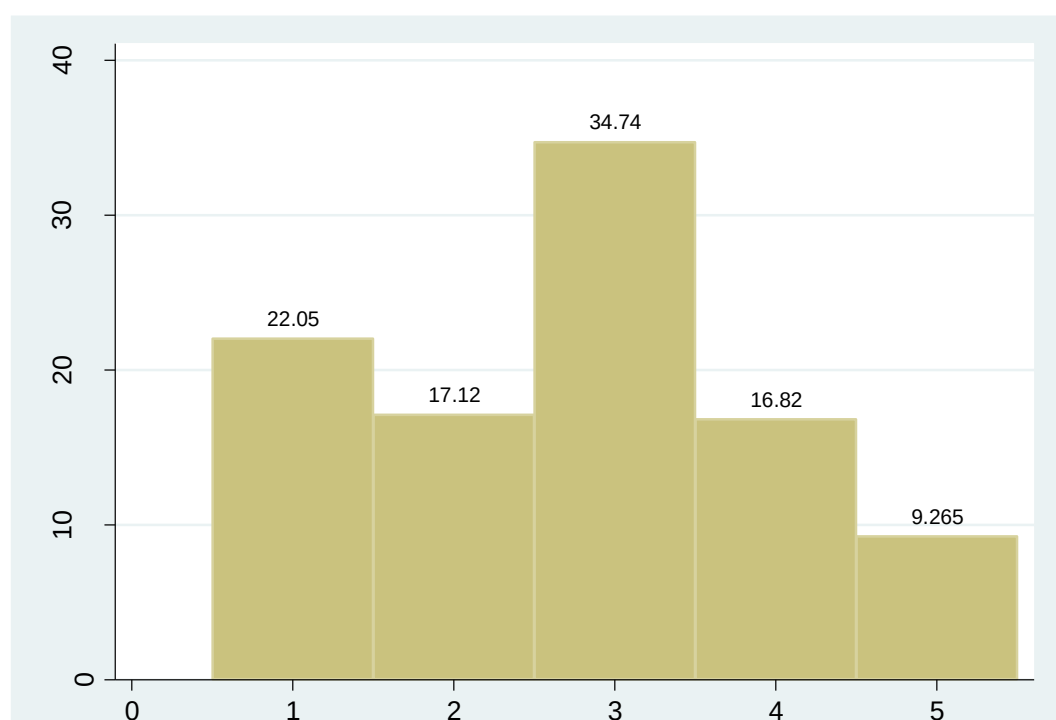
9 東京で働きたい							
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	360	36.2	36.2		平均	2.36	
2	172	17.3	53.5		分散	1.61	
3	278	28.0	81.5		標準偏差	1.27	
4	114	11.5	93.0				
5	70	7.0	100.0				
合計	994	100.0					

ヒストグラム



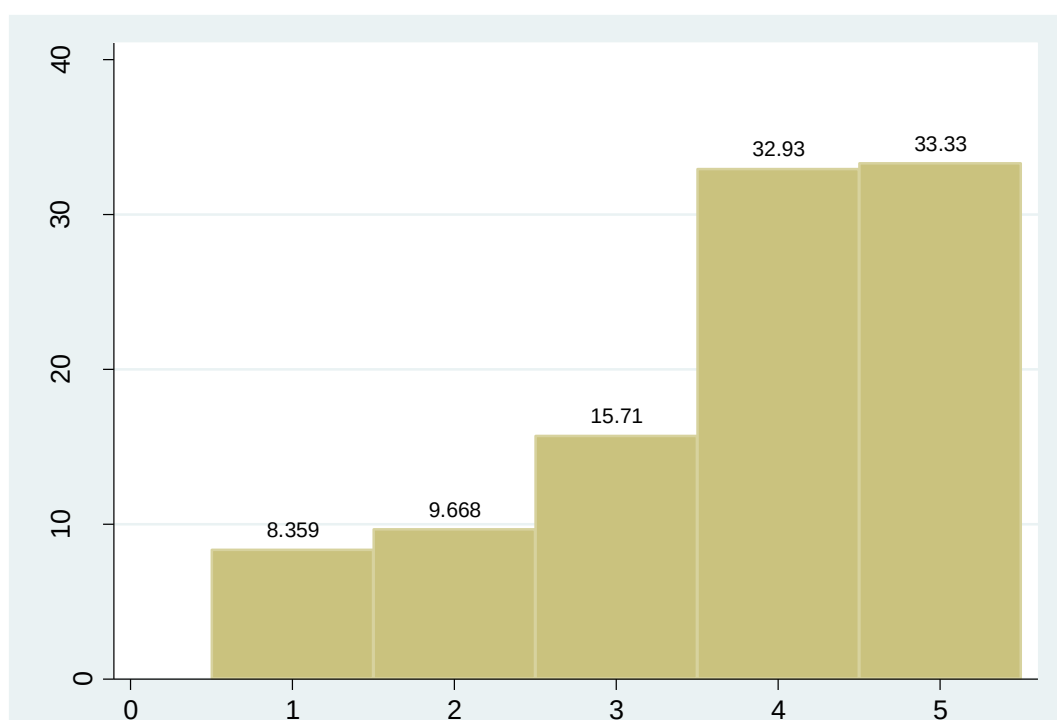
10	地方で働きたい						
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	219	22.1	22.1		平均	2.74	
2	170	17.1	39.2		分散	1.53	
3	345	34.7	73.9		標準偏差	1.24	
4	167	16.8	90.7				
5	92	9.3	100.0				
合計	993	100.0					

ヒストグラム



11 親と将来の職業について話す							
	(人)	(%)	累積比率 (%)				
1	83	8.4	8.4		平均	3.73	
2	96	9.7	18.0		分散	1.56	
3	156	15.7	33.7		標準偏差	1.25	
4	327	32.9	66.7				
5	331	33.3	100.0				
合計	993	100.0					

ヒストグラム



【5.あなたの性格について】

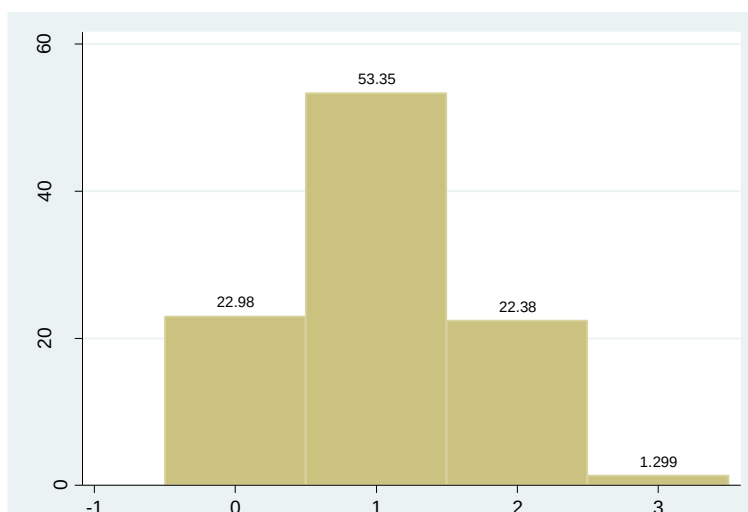
設問が 59 個あるので設問ごとの回答の分布は割愛

big5							
神経症傾向			誠実性			協調性	
平均	7.29E+09		平均	1.72E-09		平均	-3.24E-09
標準偏差	1.38		標準偏差	1.36		標準偏差	1.47
最大値	2.75		最大値	4.34		最大値	3.75
最小値	-3.77		最小値	-3.28		最小値	3.12
サンプル数	987		サンプル数	988		サンプル数	989
開放性			外向性				
平均	2.03E-08		平均	-5.56E-09			
標準偏差	1.38		標準偏差	1.63			
最大値	3.12		最大値	3.67			
最小値	-3.17		最小値	-3.88			
サンプル数	990		サンプル数	990			

【6.文章問題】

論理的思考力を問うテスト					
問題①				問題②	
	(人)	(%)			(%)
正解	658	65.7		正解	58
不正解	343	34.3		不正解	943
合計	1001	100.0		合計	1001
問題③				合計得点	
	(人)	(%)			(%)
正解	305	30.5		0	230
不正解	696	69.5		1	534
合計	1001	100.0		2	224
				3	13
				合計	1001
平均	1.02				
分散	0.51				
標準偏差	0.71				
中央値	1				

ヒストグラム



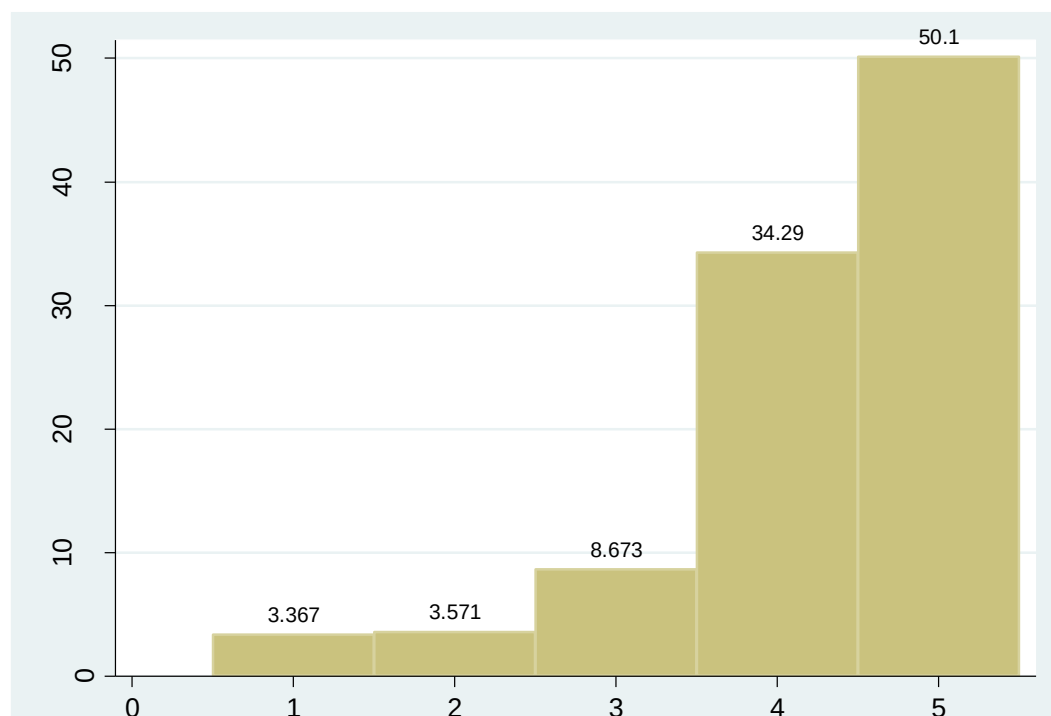
【7.豊岡市について】

設問 1~4 において

- ① そう思わない ② どちらかといえばそう思わない ③ どちらでもない
④ どちらかといえばそう思う ⑤ そう思う

1 豊岡市の少子高齢化は深刻である						
	(人)	(%)	累積比率 (%)			
1	33	3.4	3.4		平均	4.24
2	35	3.6	6.9		分散	0.98
3	85	8.7	15.6		標準偏差	0.99
4	336	34.3	49.9			
5	491	50.1	100.0			
合計	980	100.0				

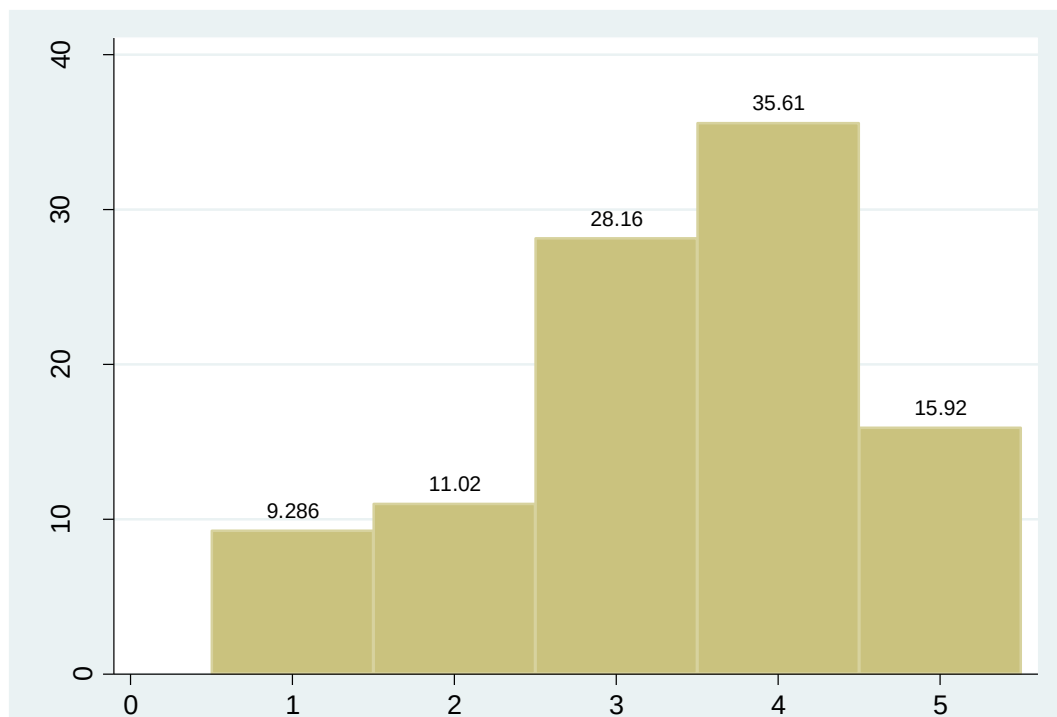
ヒストグラム



⇒84.4%の人が豊岡市の少子高齢化が深刻であると捉えている。

2 豊岡市をなんとか活性化（地域おこしなど）させたい						
	(人)	(%)	累積比率 (%)			
1	91	9.3	9.3		平均	3.38
2	108	11.0	20.3		分散	1.33
3	276	28.2	48.5		標準偏差	1.15
4	349	35.6	84.1			
5	156	15.9	100.0			
合計	980	100.0				

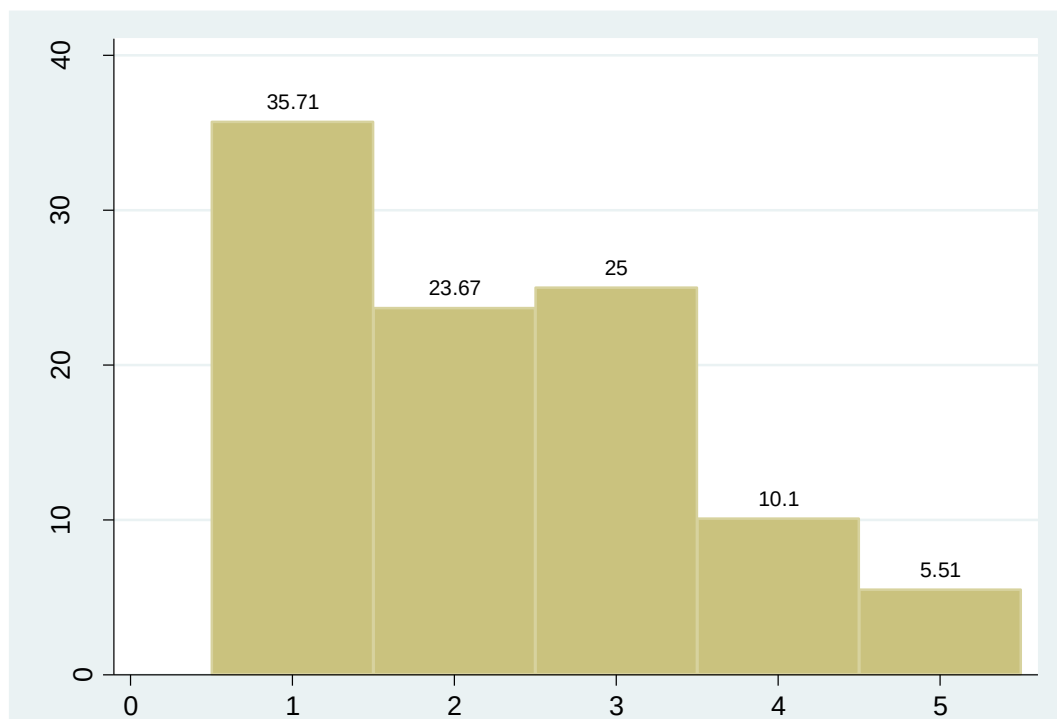
ヒストグラム



⇒豊岡市を活性化させたいと考えている高校生は50%程度にとどまっている

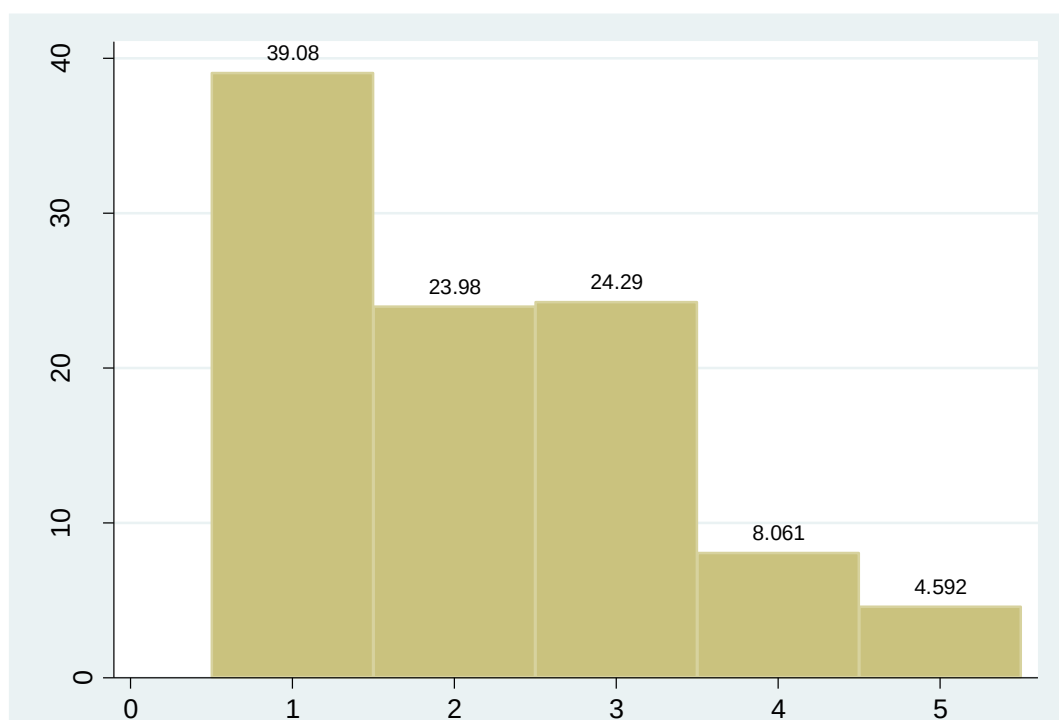
3 豊岡市に残って働きたい						
	(人)	(%)	累積比率 (%)			
1	350	35.7	35.7		平均	2.26
2	232	23.7	59.4		分散	1.44
3	245	25.0	84.4		標準偏差	1.20
4	99	10.1	94.5			
5	54	5.5	100.0			
合計	980	100.0				

ヒストグラム



⇒現状の豊岡市を踏まえた上で、豊岡市に残って働きたいと考えている高校生は 15%にとどまっている

4 高校卒業後も引き続き豊岡市に住みたい						
	(人)	(%)	累積比率 (%)			
1	383	39.1	39.1		平均	2.15
2	235	24.0	63.1		分散	1.35
3	238	24.3	87.4		標準偏差	1.16
4	79	8.1	95.4			
5	45	4.6	100.0			
合計	980	100.0				



設問 3 と同様の傾向が観察される。豊岡市に残って住みたいと答えている人は約 12% である。このままでは高校生の 9 割弱が転出してしまう可能性がある。

【8.親・友人・先生について】

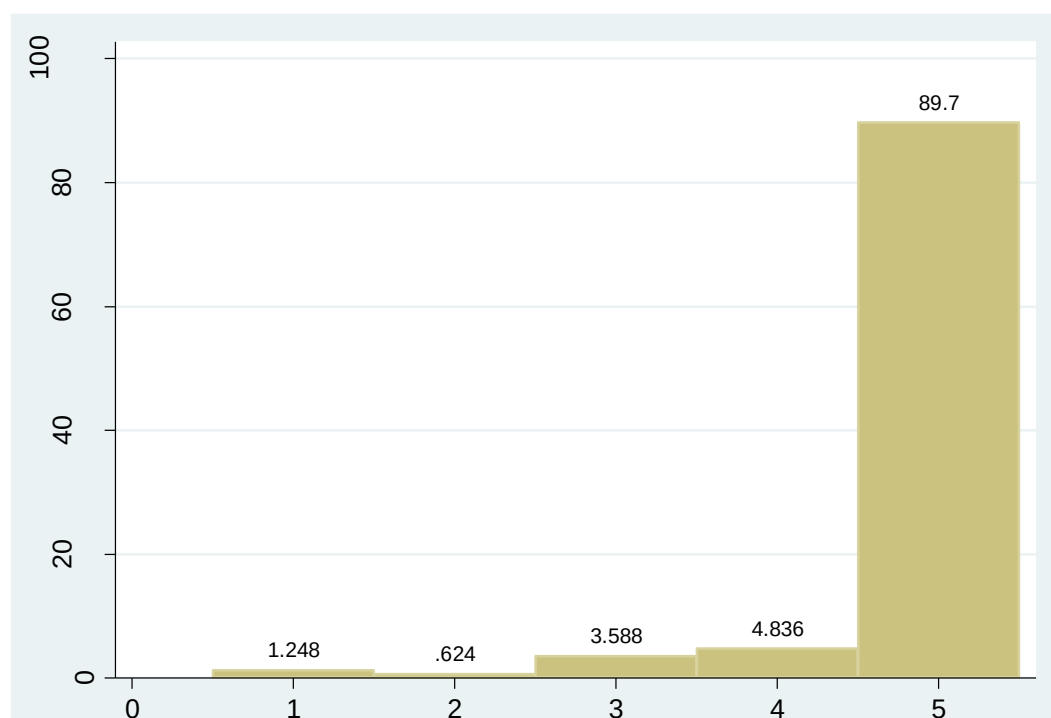
以下の質問において

① 当てはまらない ② どちらかといえば当てはまらない ③ どちらでもない

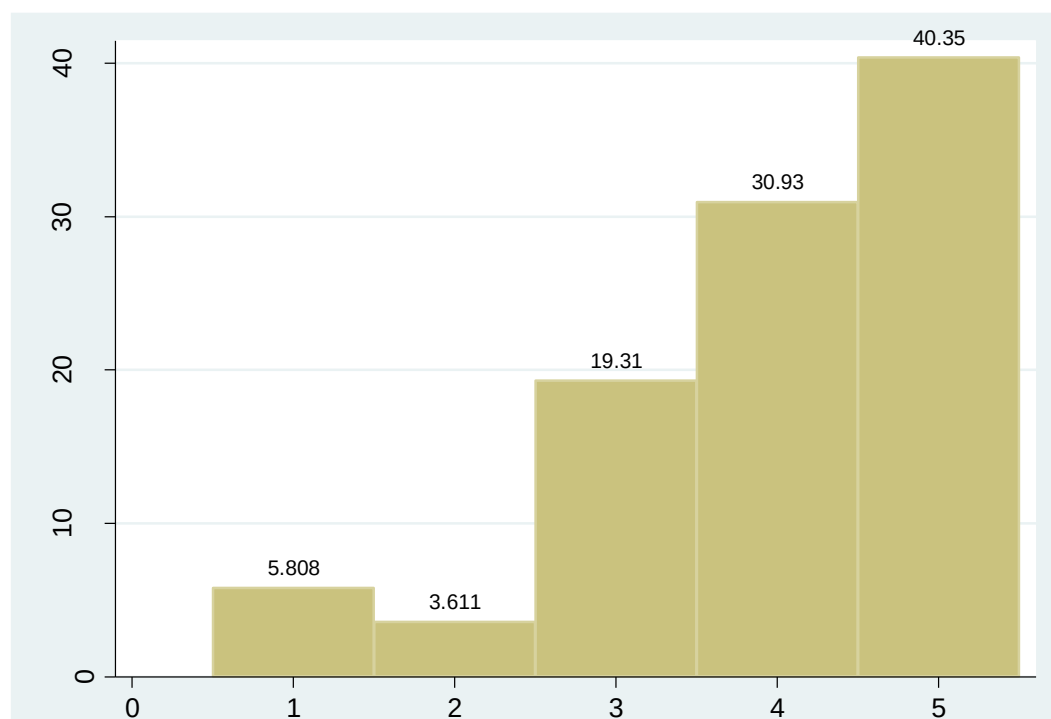
④ どちらかといえば当てはまる ⑤ 当てはまる

親						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.81
1	8	1.3	1.3		分散	0.41
2	4	0.6	1.9		標準偏差	0.64
3	23	3.6	5.5			
4	31	4.8	10.3			
5	575	89.7	100.0			
合計	641	100.0				
先生						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	3.96
1	37	5.8	5.8		分散	1.26
2	23	3.6	9.4		標準偏差	1.12
3	123	19.3	28.7			
4	197	30.9	59.7			
5	257	40.4	100.0			
合計	637	100.0				
友人						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.77
1	9	1.4	1.4		分散	0.43
2	2	0.3	1.7		標準偏差	0.65
3	24	3.7	5.5			
4	52	8.1	13.6			
5	555	86.5	100.0			
合計	642	100.0				

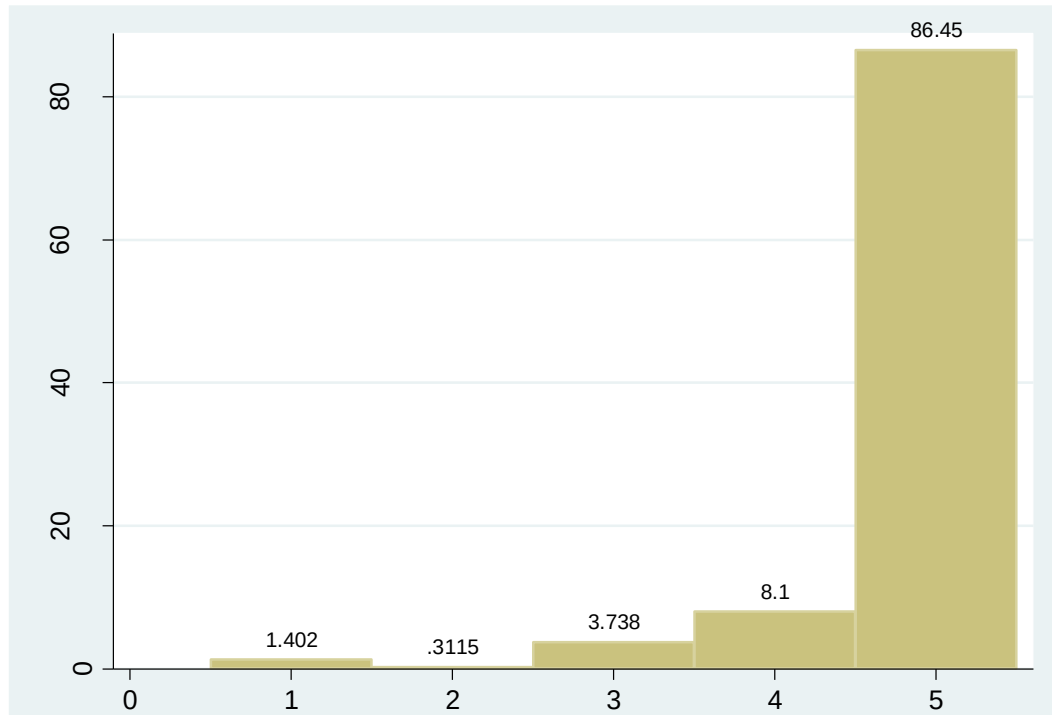
ヒストグラム (親)



(先生)

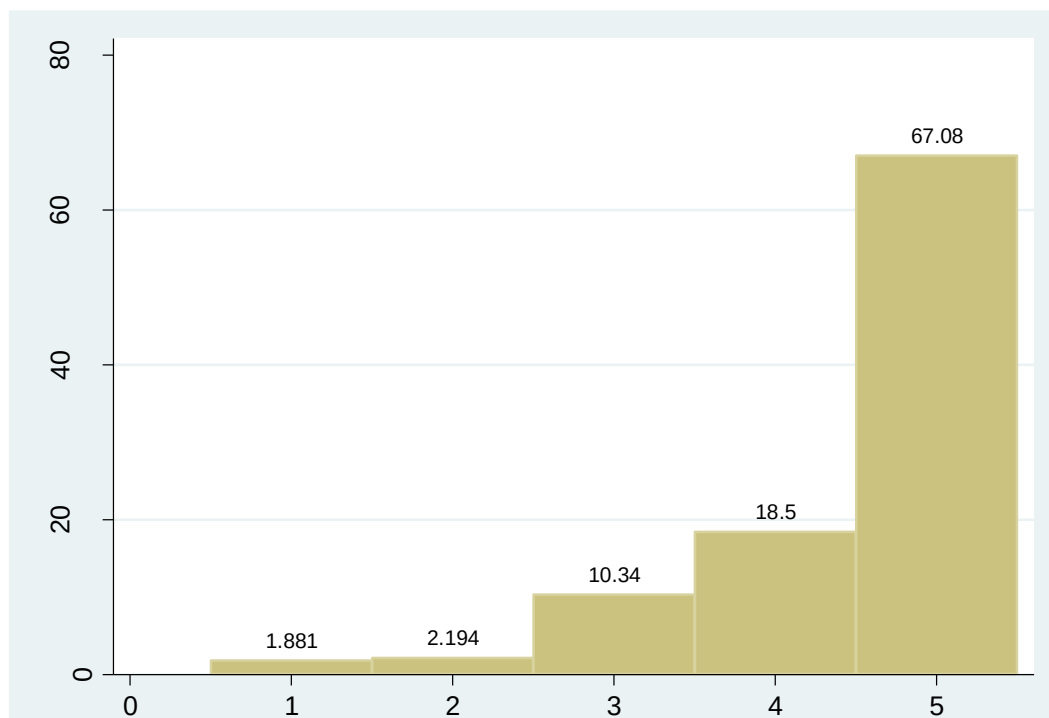


(友人)

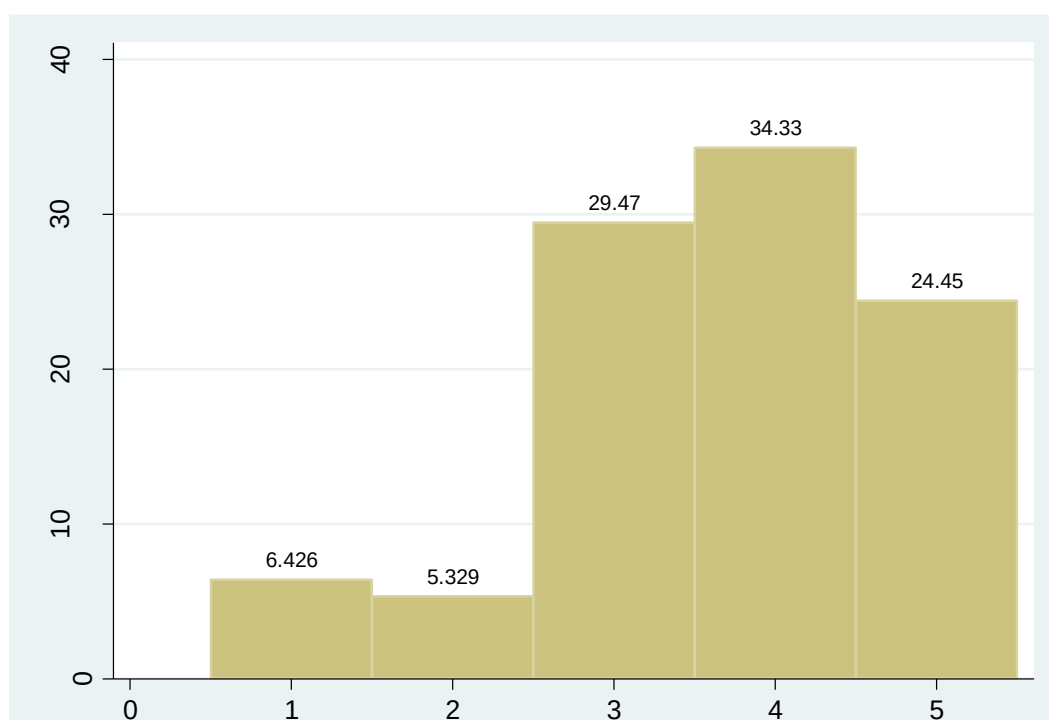


2 私に対して興味を持っていてくれると思う						
親						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.47
1	12	1.9	1.9		分散	0.81
2	14	2.2	4.1		標準偏差	0.90
3	66	10.3	14.4			
4	118	18.5	32.9			
5	428	67.1	100.0			
合計	638	100.0				
先生						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	3.65
1	41	6.4	6.4		分散	1.21
2	34	5.3	11.8		標準偏差	1.10
3	188	29.5	41.2			
4	219	34.3	75.6			
5	156	24.5	100.0			
合計	638	100.0				
友人						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.19
1	12	1.9	1.9		分散	0.86
2	17	2.7	4.5		標準偏差	0.92
3	102	15.9	20.4			
4	218	34.0	54.4			
5	293	45.6	100.0			
合計	642	100.0				

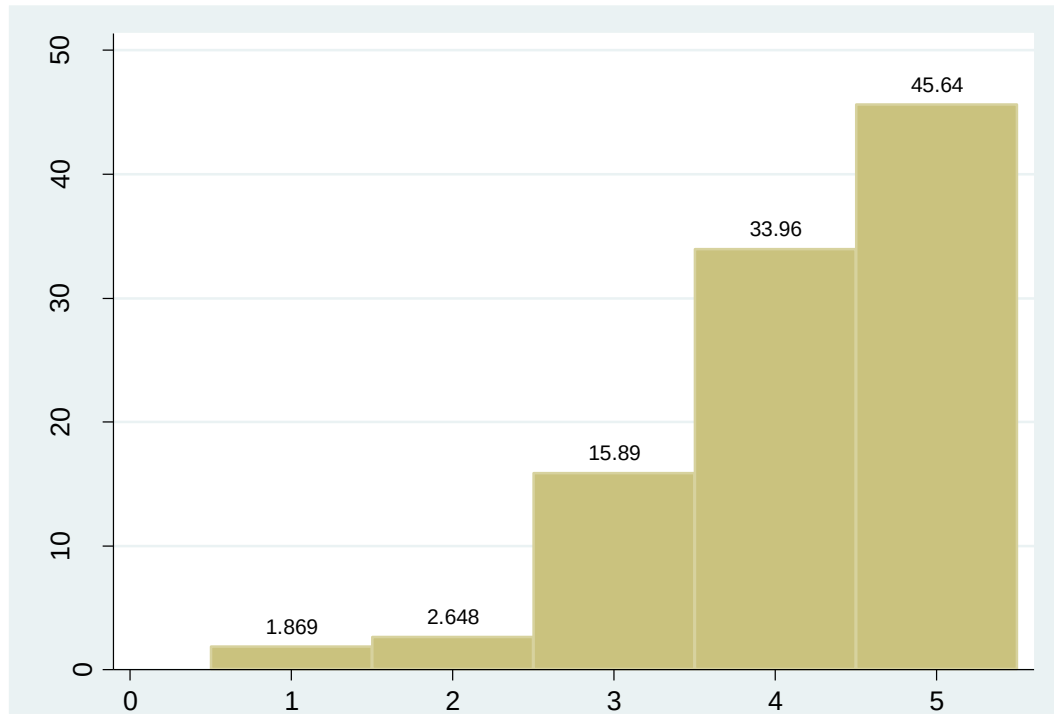
ヒストグラム (親)



(先生)

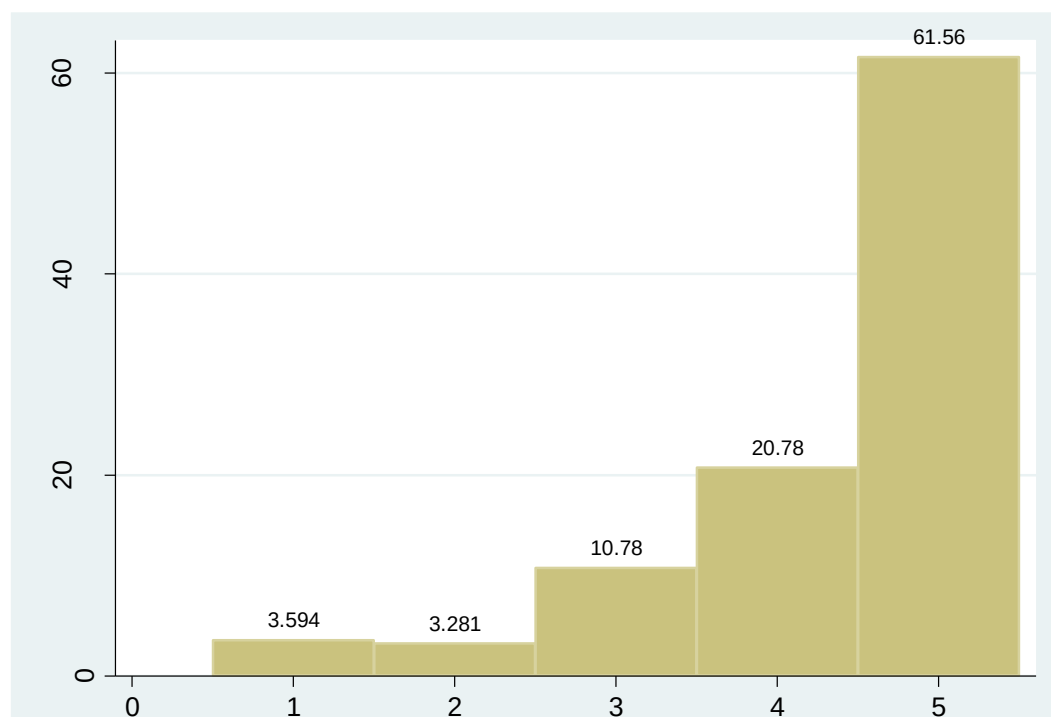


(友人)

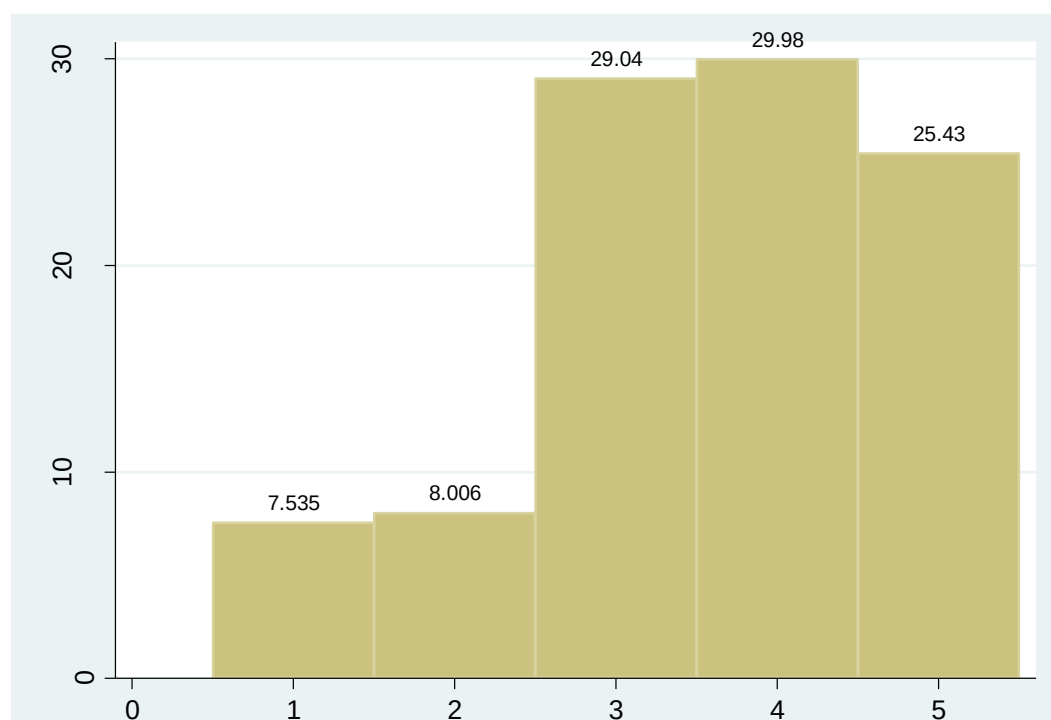


3 私のことを理解してくれていると思う						
親						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.33
1	23	3.6	3.6		分散	1.07
2	21	3.3	6.9		標準偏差	1.03
3	69	10.8	17.7			
4	133	20.8	38.4			
5	394	61.6	100.0			
合計	640	100.0				
先生						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	3.58
1	48	7.5	7.5		分散	1.37
2	51	8.0	15.6		標準偏差	1.17
3	185	29.0	44.6			
4	191	30.0	74.6			
5	162	25.4	100.0			
合計	637	100.0				
友人						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.16
1	383	39.1	39.1		分散	0.99
2	235	24.0	63.1		標準偏差	1.00
3	238	24.3	87.4			
4	79	8.1	95.4			
5	45	4.6	100.0			
合計	980	100.0				

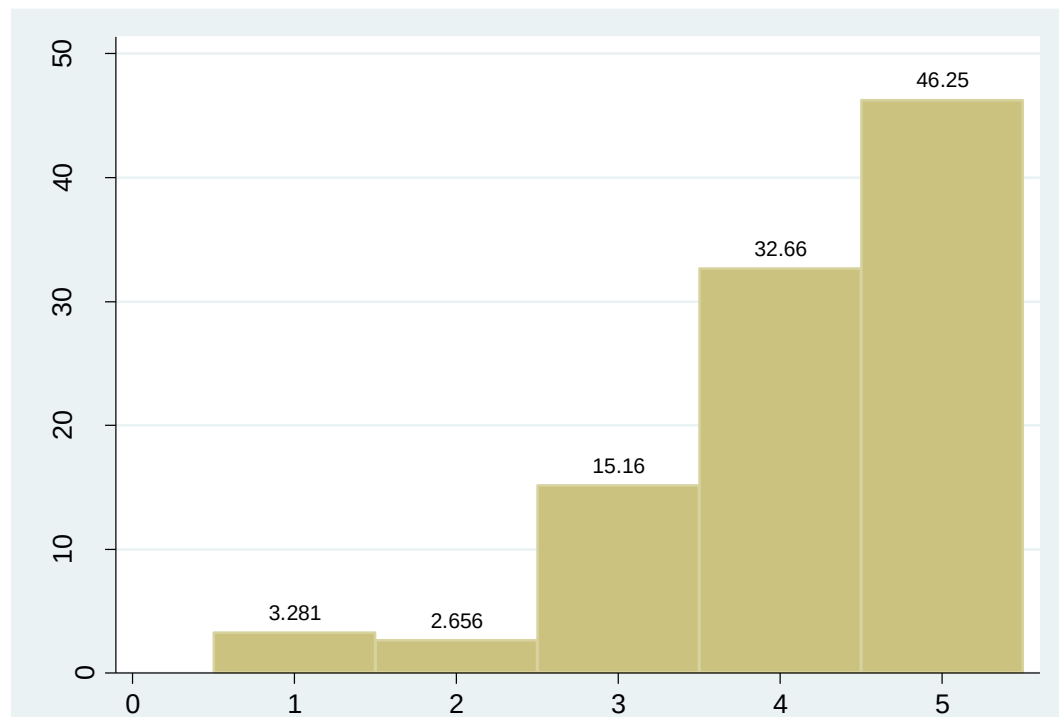
ヒストグラム（親）



（先生）

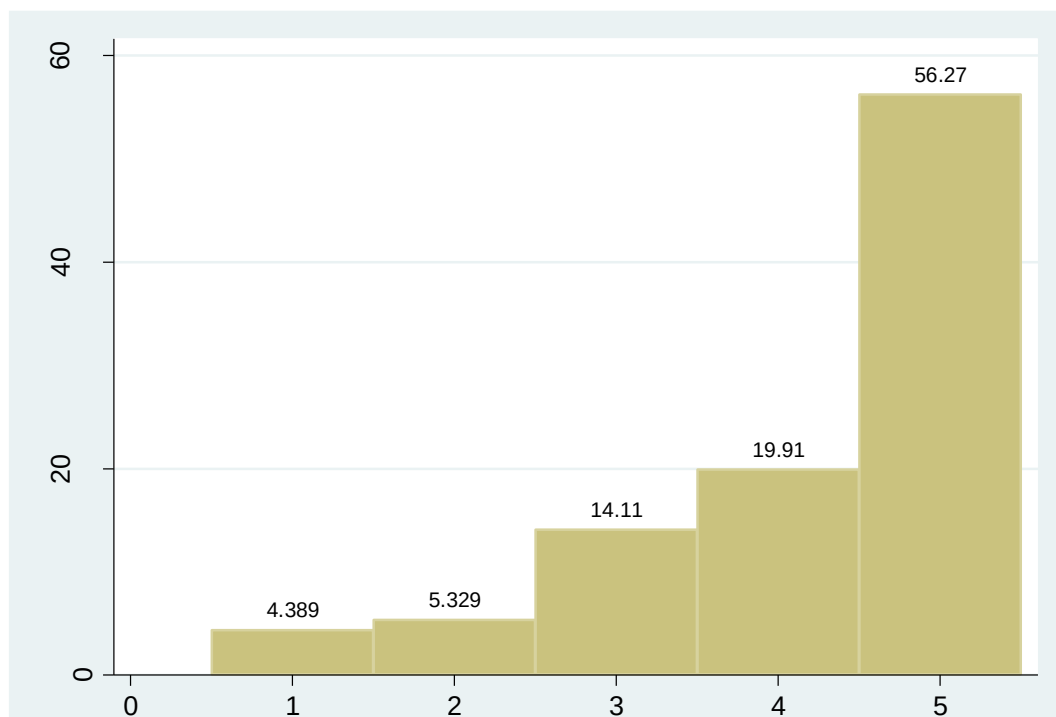


(友人)

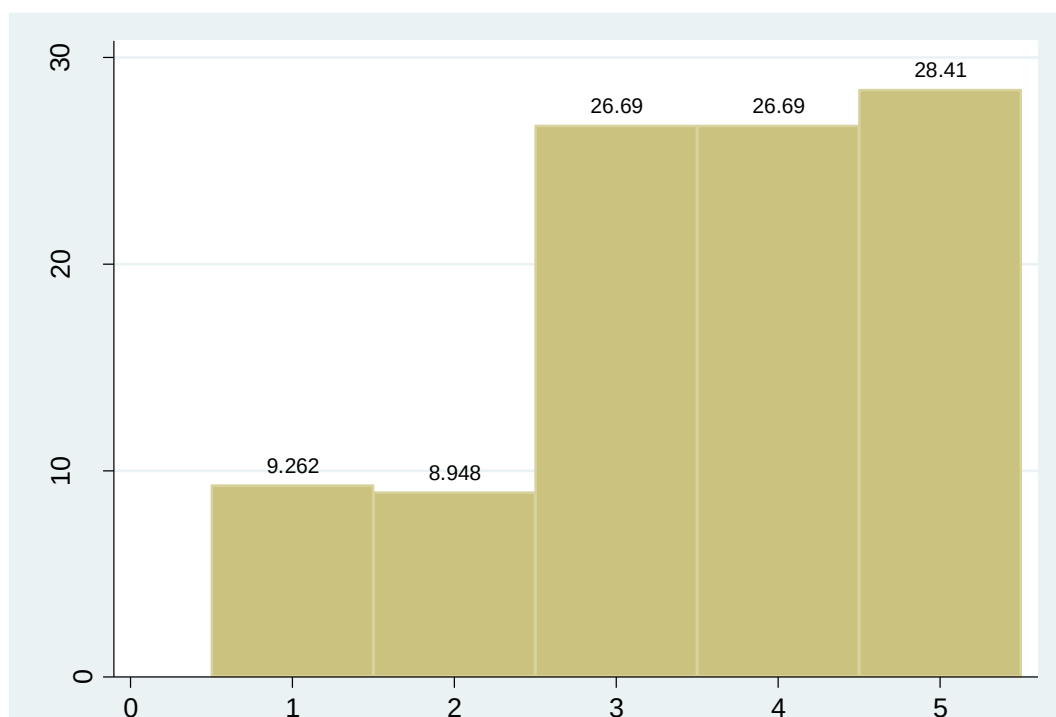


4 私が元気ではない時に励ますなど、声をかけてくれる						
親						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.18
1	28	4.4	4.4		分散	1.28
2	34	5.3	9.7		標準偏差	1.13
3	90	14.1	23.8			
4	127	19.9	43.7			
5	359	56.3	100.0			
合計	638	100.0				
先生						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	3.56
1	59	9.3	9.3		分散	1.55
2	57	9.0	18.2		標準偏差	1.25
3	170	26.7	44.9			
4	170	26.7	71.6			
5	181	28.4	100.0			
合計	637	100.0				
友人						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.37
1	15	2.3	2.3		分散	0.93
2	21	3.3	5.6		標準偏差	0.97
3	71	11.1	16.7			
4	136	21.2	37.9			
5	398	62.1	100.0			
合計	641	100.0				

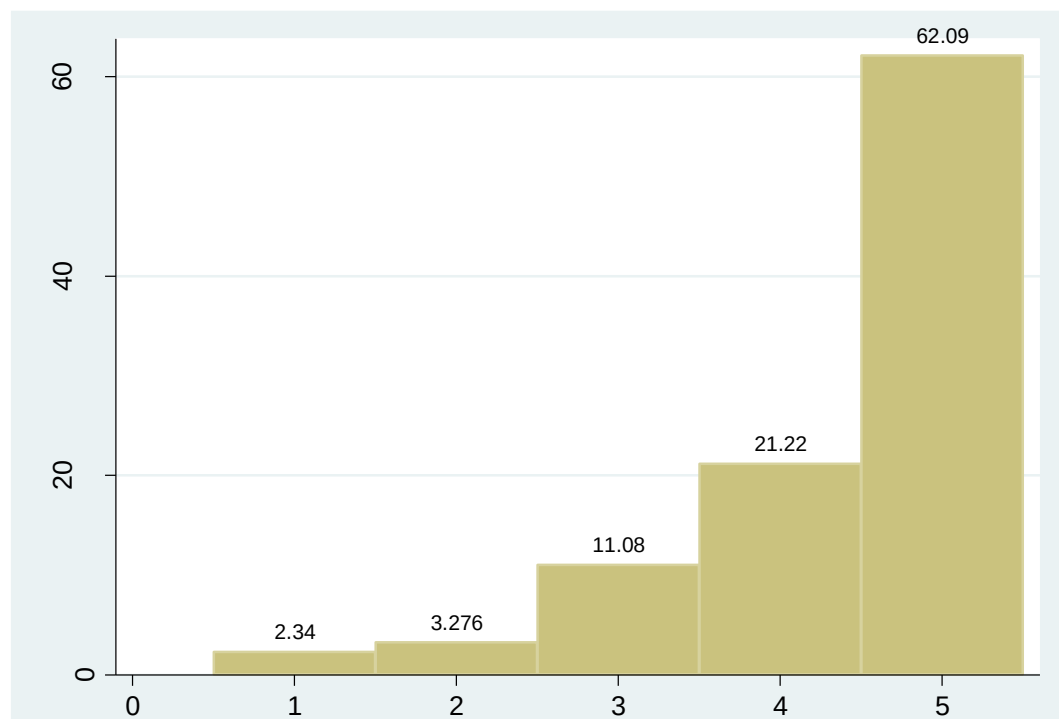
ヒストグラム（親）



（先生）

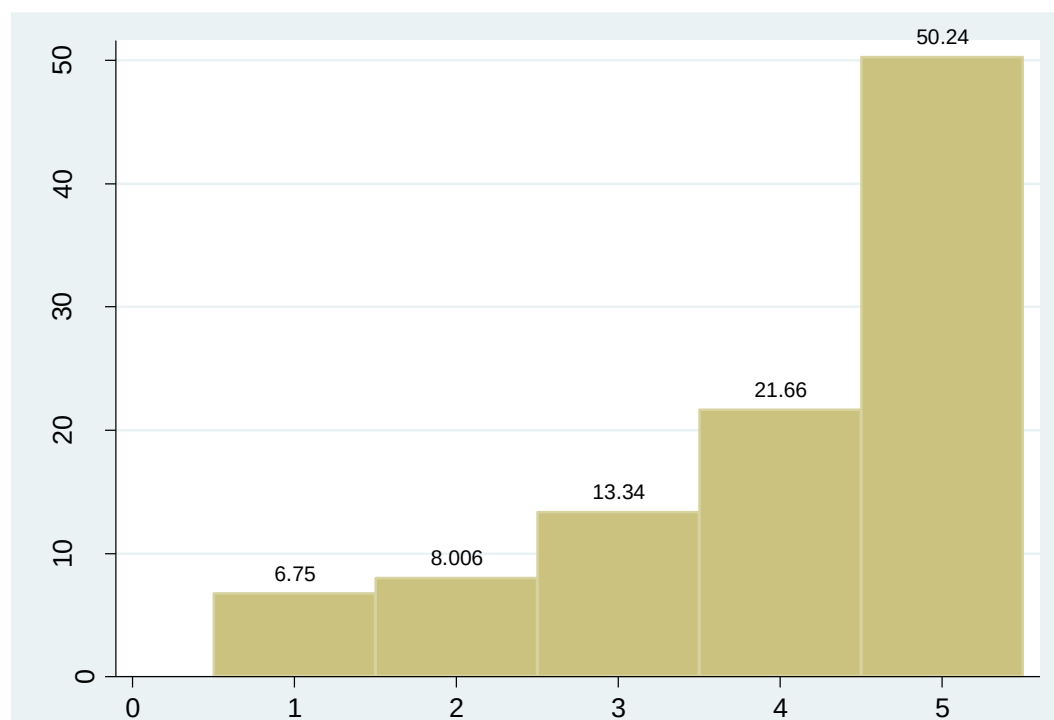


(友人)

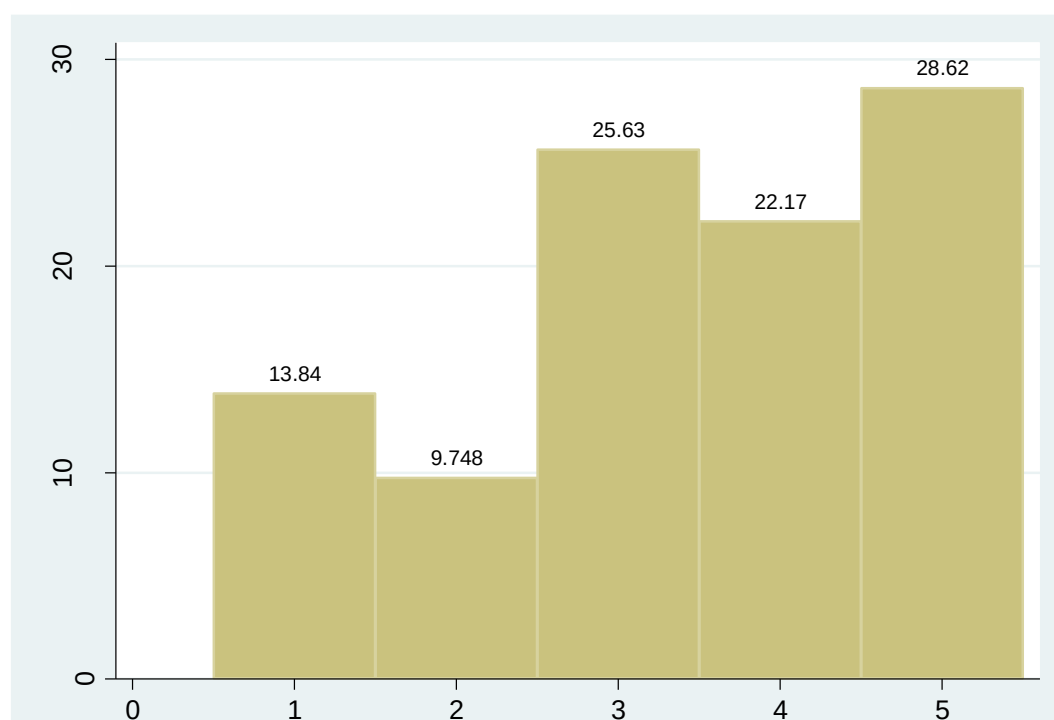


5 困ったことがあったときには積極的に相談したいと思う						
親						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.01
1	43	6.8	6.8		分散	1.57
2	51	8.0	14.8		標準偏差	1.25
3	85	13.3	28.1			
4	138	21.7	49.8			
5	320	50.2	100.0			
合計	637	100.0				
先生						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	3.42
1	88	13.8	13.8		分散	1.84
2	62	9.8	23.6		標準偏差	1.36
3	163	25.6	49.2			
4	141	22.2	71.4			
5	182	28.6	100.0			
合計	636	100.0				
友人						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.19
1	31	4.9	4.9		分散	1.29
2	34	5.3	10.2		標準偏差	1.14
3	75	11.8	22.0			
4	141	22.1	44.1			
5	357	56.0	100.0			
合計	638	100.0				

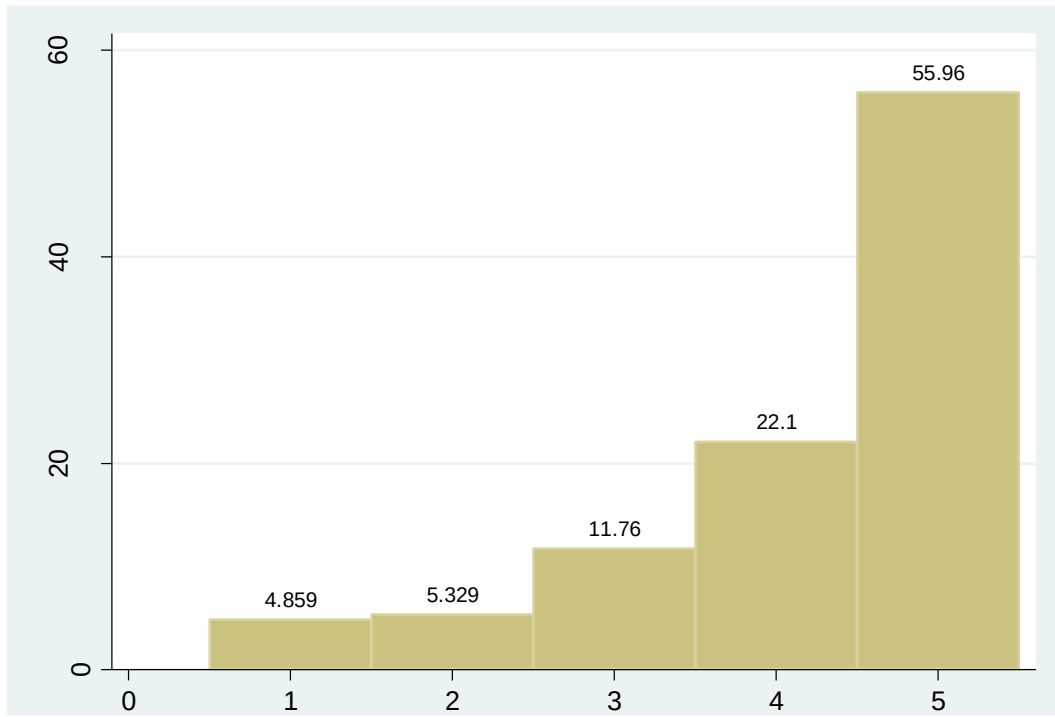
ヒストグラム (親)



(先生)

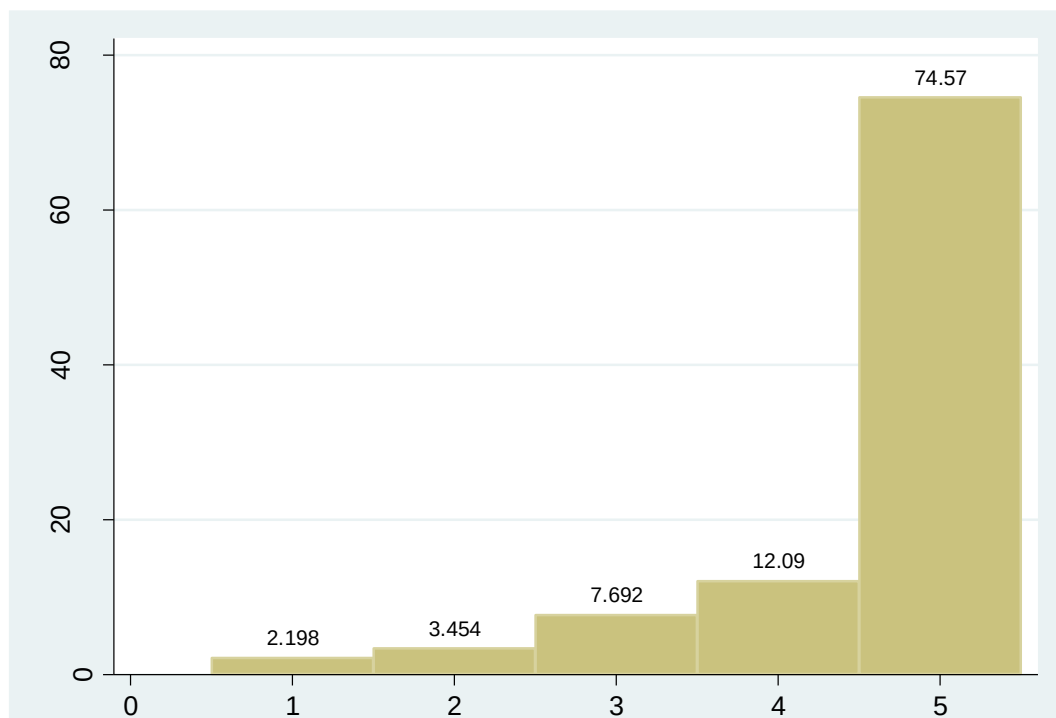


(友人)

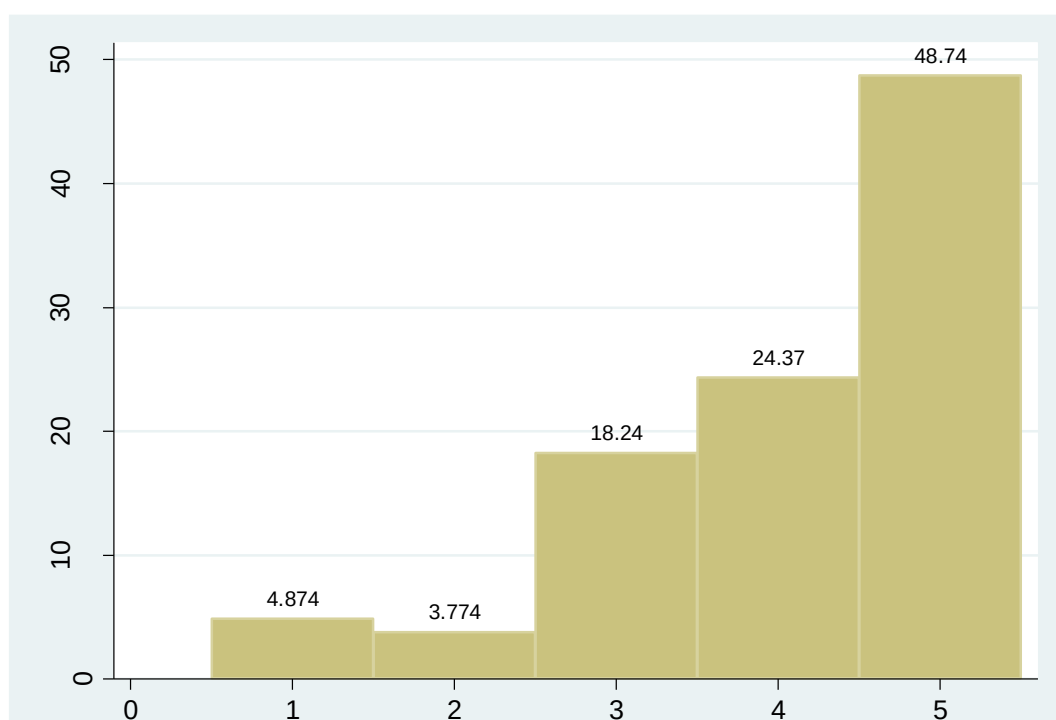


6 私が何かを成し遂げた時には心からおめでとうと言ってくれる						
親						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.53
1	14	2.2	2.2		分散	0.86
2	22	3.5	5.7		標準偏差	0.94
3	49	7.7	13.3			
4	77	12.1	25.4			
5	475	74.6	100.0			
合計	637	100.0				
先生						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.08
1	31	4.9	4.9		分散	1.25
2	24	3.8	8.6		標準偏差	1.12
3	116	18.2	26.9			
4	155	24.4	51.3			
5	310	48.7	100.0			
合計	636	100.0				
友人						
	(人)	(%)	累積比率 (%)		平均	4.53
1	8	1.3	1.3		分散	0.63
2	7	1.1	2.3		標準偏差	0.80
3	54	8.4	10.8			
4	137	21.4	32.2			
5	434	67.8	100.0			
合計	640	100.0				

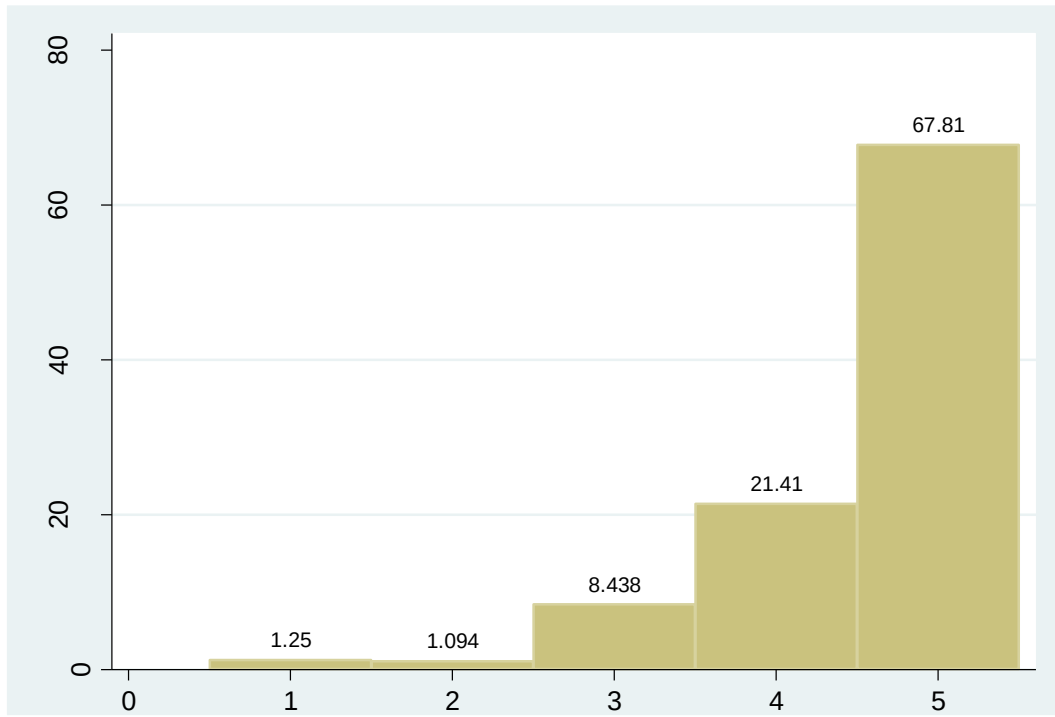
ヒストグラム (親)



(先生)



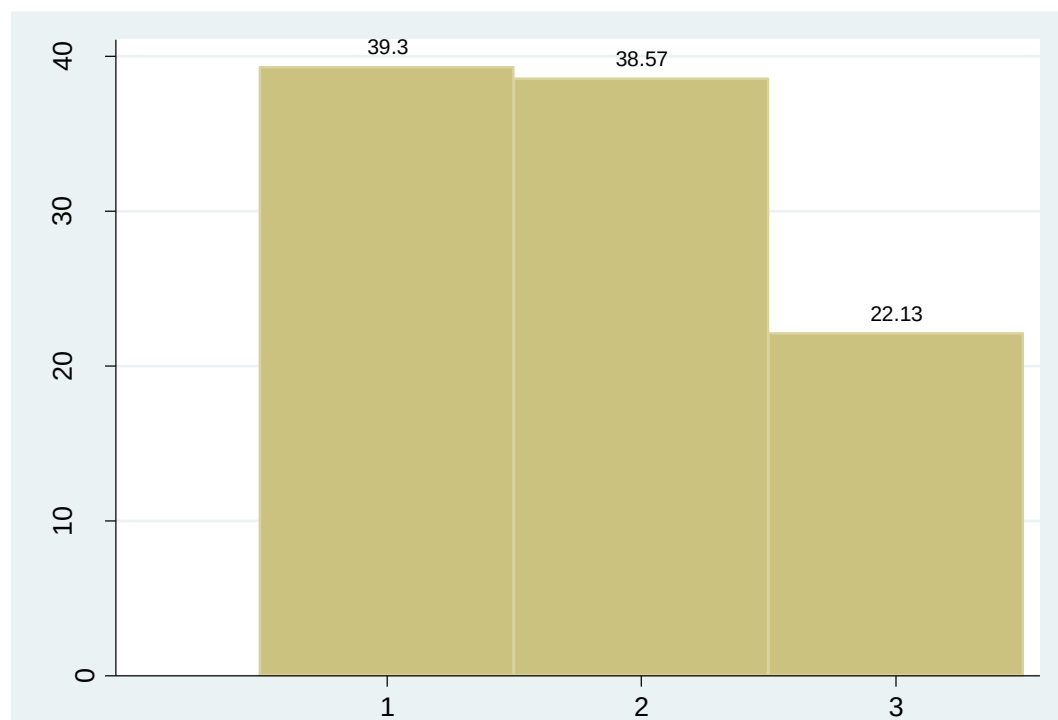
(友人)



【9.基本情報】

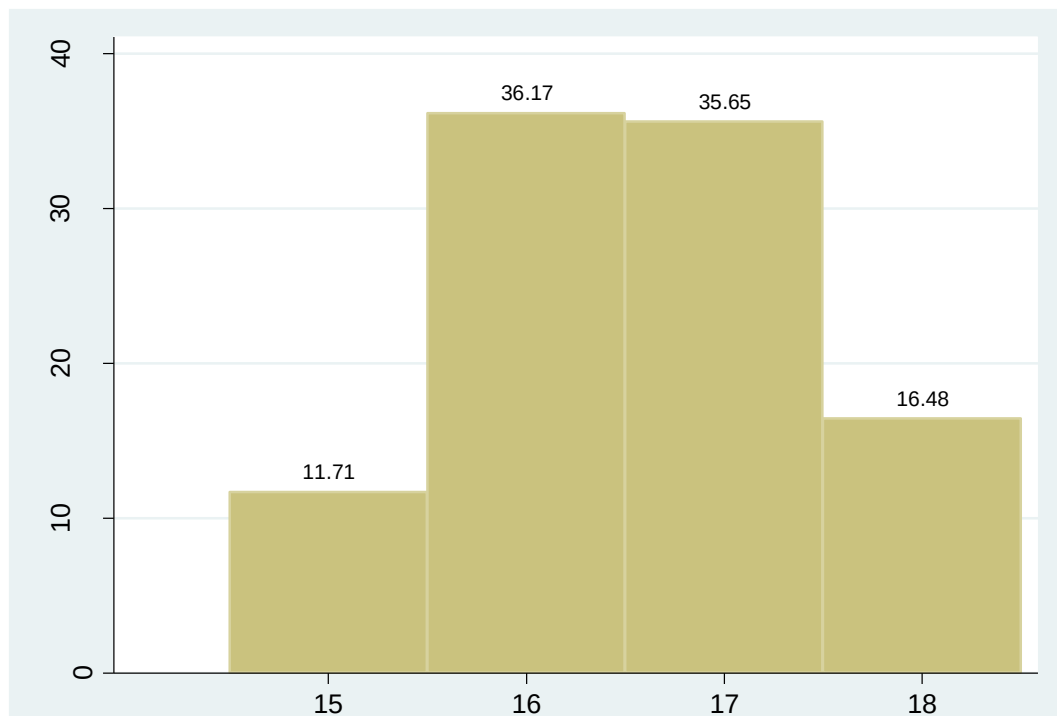
1 学年						
	(人)	(%)	累積比率 (%)			
1年	380	39.3	39.3		平均	1.83
2年	373	38.6	77.9		分散	0.56
3年	214	22.1	100.0		標準偏差	0.77
合計	967	100.0				

ヒストグラム



2 年齢						
	(人)	(%)	累積比率 (%)			
15	113	11.7	11.7		平均	16.57
16	349	36.2	47.9		分散	0.81
17	344	35.7	83.5		標準偏差	0.90
18	159	16.48	100.0			
合計	965	100.0				

ヒストグラム

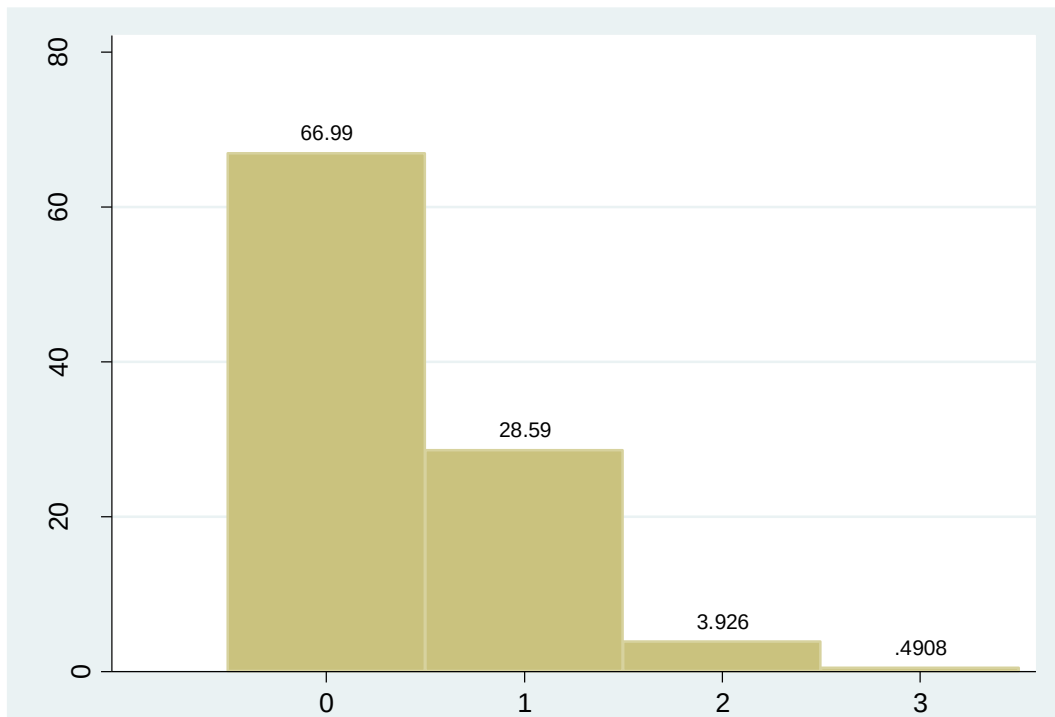


3 性別						
	(人)	(%)	累積比率 (%)			
男性	467	48.2	48.2			
女性	455	47.0	95.2			
N/A	46	4.8	100.0			
合計	968	100.0				

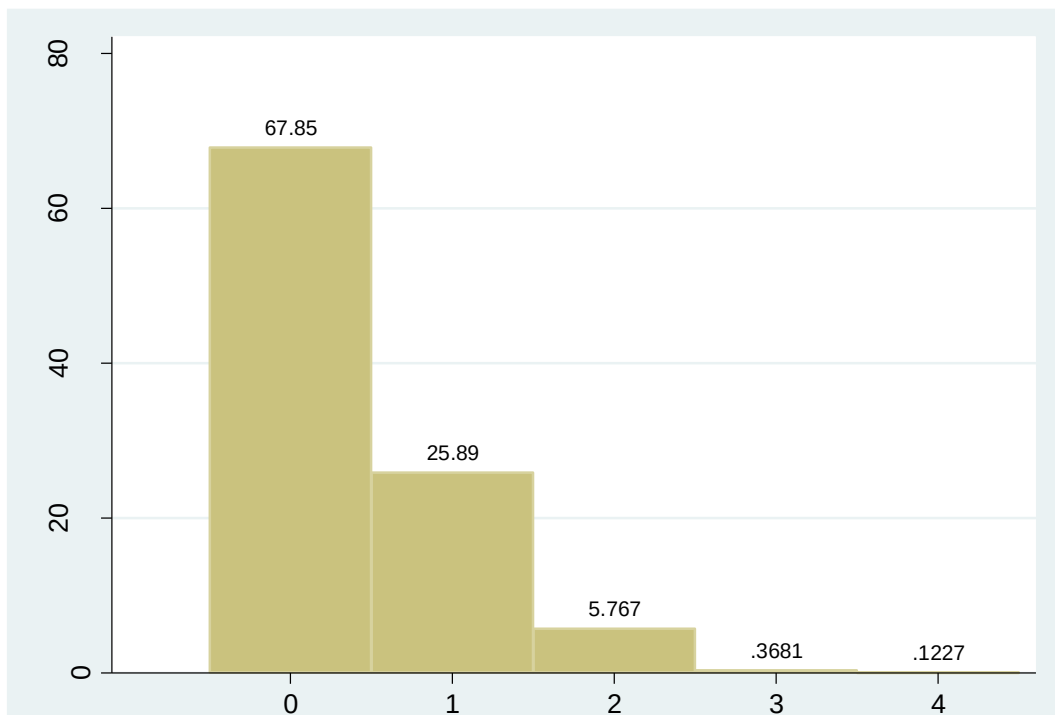
4 兄弟の数								
兄					弟			
	(人)	(%)	累積比率 (%)			(人)	(%)	累積比率 (%)
0	546	67.0	67.0		0	553	67.9	67.9
1	233	28.6	95.6		1	211	25.9	93.7
2	32	3.9	99.5		2	47	5.8	99.5
3	4	0.49	100.0		3	3	0.37	99.9
合計	815	100.0			4	1	0.12	100.0
					合計	815	100.0	
姉					妹			
	(人)	(%)	累積比率 (%)			(人)	(%)	累積比率 (%)
0	580	71.2	71.2		0	542	66.5	66.5
1	205	25.2	96.3		1	227	27.9	94.4
2	27	3.3	99.6		2	41	5.0	99.4
3	2	0.25	99.9		3	4	0.49	99.9
4	1	0.12	100.0		4	0	0.0	99.9
合計	815	100.0			5	1	0.12	100.0
					合計	815	100.0	

5 家族の人数			
	(人)	(%)	累積比率 (%)
1	1	0.1	0.1
2	14	1.7	1.9
3	81	10.0	11.9
4	262	32.47	44.4
5	254	31.5	75.8
6	116	14.37	90.2
7	54	6.69	96.9
8	15	1.86	98.8
9	5	0.62	99.4
10	3	0.37	99.7
11	2	0.25	100.0
合計	807	100.0	

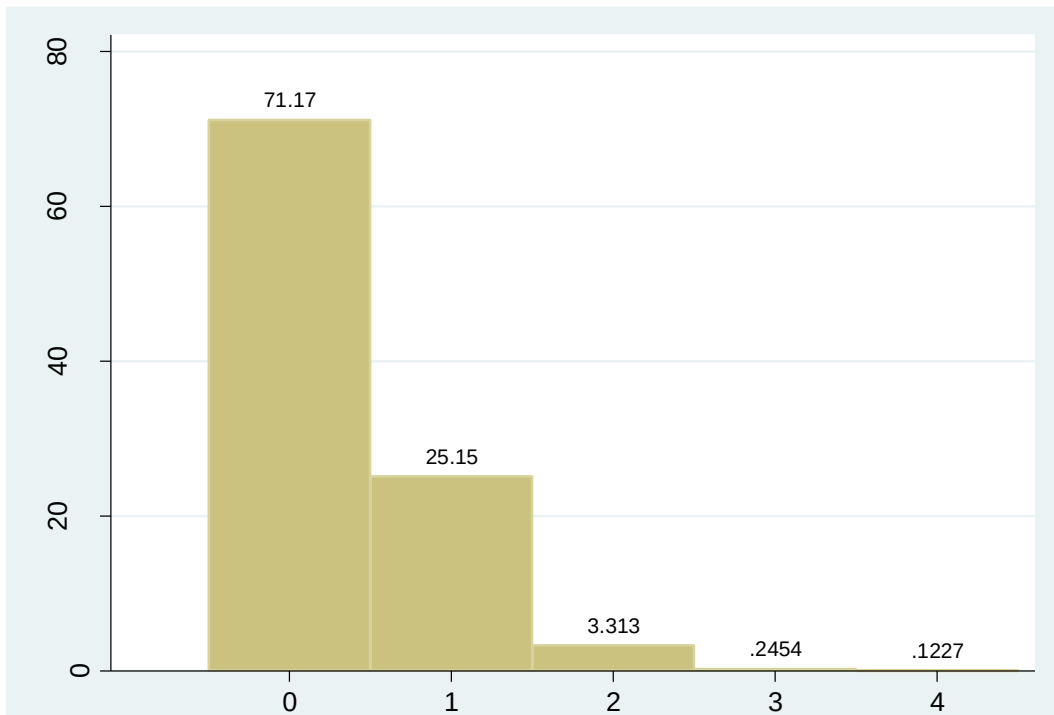
ヒストグラム (兄)



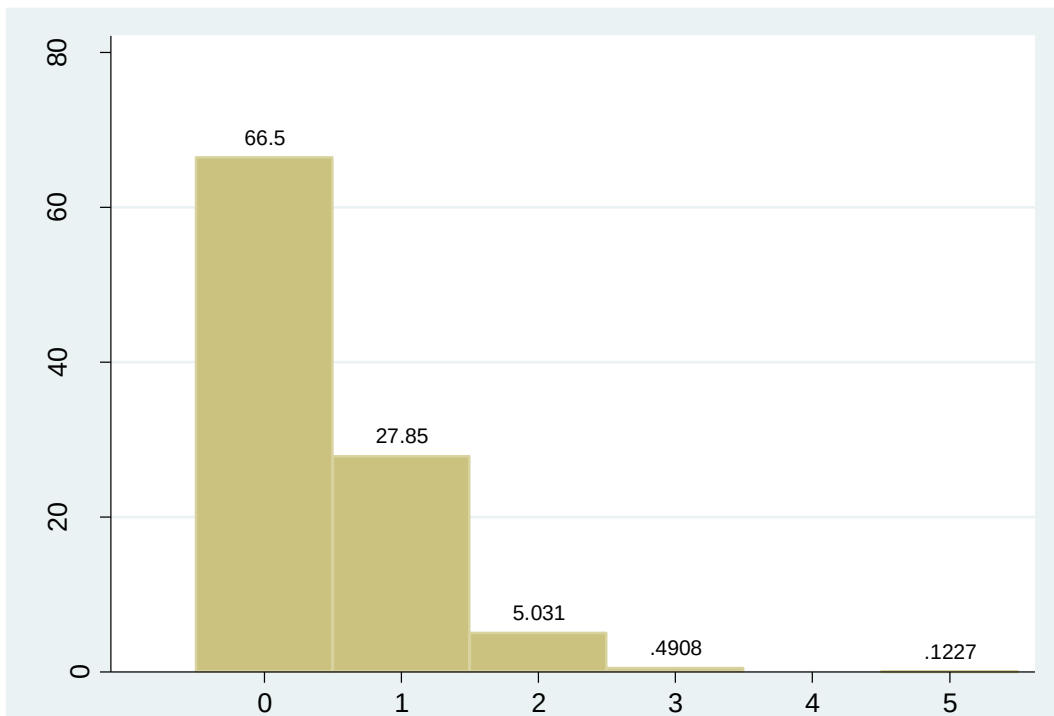
(弟)



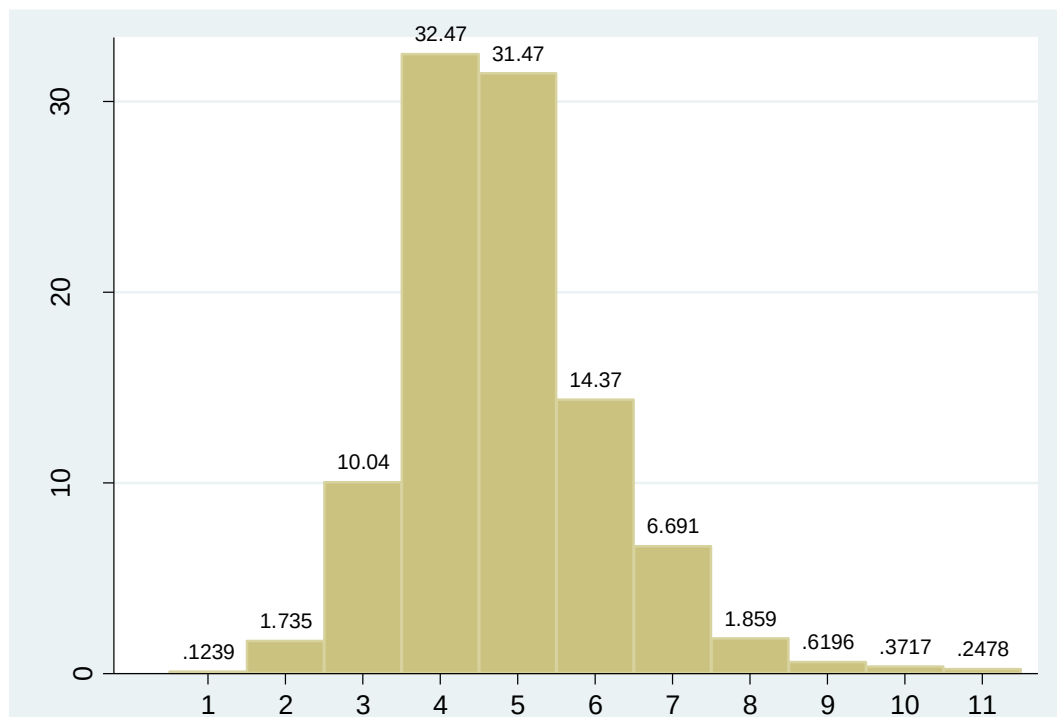
(姉)



(妹)



(家族の人数)



設問 6 は省略

7 出身地（都道府県別）			
	(人)	(%)	累積比率 (%)
兵庫県	739	90.7	90.7
京都府	33	4.0	94.7
大阪府	17	2.1	96.8
その他	26	3.2	100.0
合計	815	100.0	

6 出身地（兵庫県内：市町村別）			
	(人)	(%)	累積比率 (%)
豊岡市	603	74.0	74.0
養父市	30	3.7	77.7
朝来市	30	3.7	81.3
香美町	26	3.2	84.5
神戸市	12	1.5	86.0
その他	36	4.4	90.4
合計	737	100.0	

8 居住地			
	(人)	(%)	累積比率 (%)
豊岡地域	337	59.3	59.3
城崎地域	24	4.2	63.6
竹野地域	15	2.6	66.2
日高地域	104	18.3	84.5
出石地域	12	2.1	86.6
但東地域	27	4.8	91.4
香美町	23	4.0	95.4
朝来市	12	2.1	97.5
養父市	8	1.4	98.9
新温泉町	6	1.1	100.0
合計	568	100.0	

9 評定平均	
平均	3.74
分散	0.36
標準偏差	0.6
データ幅	3
最大値	5
最小値	2
中央値	3.8
サンプル数	634

10 英検			
	(人)	(%)	累積比率 (%)
未受験	354	39.4	39.4
受験したが取得なし	37	4.1	43.5
5級	22	2.4	45.9
4級	58	6.5	52.4
3級	193	21.5	73.9
準2級	154	17.1	91.0
2級	73	8.1	99.1
準1級	7	0.8	99.9
1級	1	0.1	100.0
合計	899	100.0	

設問 11 はサンプル数が少ないため省略

12 文理選択			
	(人)	(%)	累積比率 (%)
文系	322	57.0	57.0
理系	243	43.0	100.0
合計	565	100	

調査票（高校調査）

* /関西学院大学 経済学部 栗田研究会（アンケート所要時間約 20 分）豊岡総合高校

皆さん、こんにちは。関西学院大学経済学部栗田研究会です。

今回、高校生の方々に地元・学生生活・進路・就職などに関するアンケート調査を行っております。

このアンケートにおいては、頂いたご回答はすべて「〇〇という回答が△△パーセント」というように

統計的数字にまとめられ、統計分析の対象となるもので、調査対象者のお名前や学校名等が個別に公になることは絶対にございません。

ご協力よろしくお願いいたします。

【1.地元について】

あなたの地元についての質問です。

以下の質問に対して、

- ① そう思わない ② どちらかといえばそう思わない ③ どちらでもない ④ どちらかといえばそう思う
⑤ そう思う のいずれかに○をつけてください

	質問	①	②	③	④	⑤
1	小学校の時に学校で地元の産業や文化について学習する機会があった					
2	中学校の時に学校で地元の産業や文化について学習する機会があった					
3	高校の時に学校で地元の産業や文化について学習する機会があった					
4	小学校の時に学校の授業や課外活動で地域の人々と関わる機会があった					
5	中学校の時に学校の授業や課外活動で地域の人々と関わる機会があった					
6	高校の時に学校の授業や課外活動で地域の人々と関わる機会があった					
7	小学生の頃によく訪れた場所がある（ex.公園、図書館、駄菓子屋 etc.）					
8	地元には自然に触れることができる場所がある（ex.山、川、湖 etc.）					
9	可能であれば今後も地元に住み続けたい					
10	地元の魅力（おすすめの場所や地元の歴史）を他の人に説明することができる					

【2.学生生活について】

あなたの学生生活についての質問です。

以下の質問に対して、

- ① そう思わない ② どちらかといえばそう思わない ③ どちらでもない
④ どちらかといえばそう思う ⑤ そう思う のいずれかに○をつけてください

	質問	①	②	③	④	⑤
1	朝ごはんを毎日食べている					
2	学校の授業は楽しい					
3	学校には悩みを相談することができる友人がいる					
4	学校の授業に集中している					

5. 1 日何時間寝ていますか？

平日

時間

土日

時間

6. 部活動に所属していますか？

- ① 運動部 ② 文化系の部活 ③ 外部団体（運動系） ④ 外部団体（文化系） ⑤ 所属なし

7. 普段よく使う SNS はどれですか？ (複数選択可能)

① LINE ② Instagram ③ X (Twitter) ④ TikTok ⑤ YouTube ⑥ BeReal ⑦ WhatsApp

8. 1 日に何時間スマートフォンを使用しますか？

平日

時間

土日

時間

9. 塾や予備校に通っていますか？

① 駿台や河合などの大手予備校 ② 東進やマナビスなどの映像授業 ③ 地元の個人経営の塾

④ 地元に複数店舗ある塾 ⑤ 通っていない

10. 1 日の勉強時間（授業時間は含まない）を教えてください

平日

時間

土日

時間

11. お小遣いは 1 か月あたりいくらもらっていますか？

万円

【3.進学について】

あなたの進路についての質問です。

以下の質問に対して、当てはまるものに○をつけてください

1. 高校卒業後の進路について教えてください

① 4 年制大学（国公立） ② 4 年制大学（私立） ③ 短期大学（短大） ④ 専門学校

⑤ 就職 ⑥ その他（ ）

2. 質問 1「高校卒業後の進路について教えてください」で ① または ② または ③ または ④に

○をつけた方に質問です。進学希望先の場所について教えてください (複数選択可能)

① 兵庫県内 ② 兵庫県を除く近畿圏（大阪・京都・奈良・和歌山・三重） ③ 東京

④ その他（ ）

3. 質問 1「高校卒業後の進路について教えてください」で ① または ② または ③ に○をつけた方に

質問です。進学希望の学部について教えてください (複数選択可能)

① 文学部 ② 法学部 ③ 経済学部 ④ 経営学部 ⑤ 商学部 ⑥ 国際学部 ⑦ 外国語学部

⑧ 理学部 ⑨ 工学部 ⑩ 理工学部 ⑪ 薬学部 ⑫ 医学部 ⑬ 看護学部 ⑭ 農学部 ⑮ 情報学部

⑯ その他（ ）

4. 質問1「高校卒業後の進路について教えてください」で④に○をつけた方に質問です。

進学希望の専門学校の種類について教えてください（複数選択可能）

- ① 看護系 ② 福祉系 ③ 保育系 ④ 美容系 ⑤ 調理系 ⑥ 語学系 ⑦ 音楽系 ⑧ デザイン系
⑨ アニメ・マンガ系 ⑩ 公務員系 ⑪ 自動車などの機械系 ⑫ ゲーム・IT系 ⑬ その他（ ）

【4.就職について】

あなたの将来の職業についての質問です。

以下の質問に対して、当てはまるものに○をつけてください

1. 将来、就職先の仕事場として希望する場所はどこですか？

- ① 豊岡市内 ② 兵庫県内（豊岡市内を除く） ③ 大阪 ④ 兵庫・大阪を除く近畿圏 ⑤ 東京
⑥ 海外 ⑦ その他（ ）

2. あなたが30歳の時、年収はどのくらいを希望しますか？

万円

以下の質問に対して、

- ① 当てはまらない ② どちらかといえば当てはまらない ③ どちらでもない ④ どちらかといえば当てはまる
⑤ 当てはまる のいずれかに○をつけてください

	質問	①	②	③	④
3	将来、どんな職業に就きたいか決まっている				
4	将来、海外で働きたい				
5	英語を使って外国人とコミュニケーションをとることが求められる職場で働きたい				
6	仕事を通じて地元に貢献したい				
7	将来、起業・独立したい				
8	公務員（警察官・市役所の職員など）として働きたい				
9	東京で働きたい				
10	地方で働きたい				
11	親と将来の職業について話す				

【5.あなたの性格について】

あなたの性格についての質問です。

以下の質問に対して、① 全くそう思わない ② そう思わない ③ どちらかといえばそう思わない

④ どちらでもない ⑤ どちらかといえばそう思う ⑥ そう思う ⑦ とてもそう思う

のいずれかに直感で○をつけてください

	質問	①	②	③	④	⑤	⑥
1	何か困ったことがあるとそのまま悩んでしまう						

2	誰か（友達や知人など）とよく遊ぶ						
3	周りの大人たちは自分のことを理解してくれないと感じる						
4	その日の振り返りを寝る前に行う						
5	最近自分の中で成長したと思うこと（どんな小さいことでも可）がある						
6	知らない世界の人と話してみたいと思う						
7	日常生活の中で疑問に思うこと（どんな小さいことでも可）がある						
8	私は無口だ						
9	私はいい加減だ						
10	私は不安になりやすい						
11	私は多才（いろいろな才能をもっている）だ						
12	私は短気だ						
13	私はルーズ（だらしない、ずぼらなさま）だ						
14	私は心配性だ						
15	私は進歩的（考え方が他の人よりも進んでいる）だ						
16	私は怒りっぽい						
17	私は社交的（積極的に人とつきあおうとする）だ						
18	私は弱気になりやすい						
19	私は独創的（他にはない全く新しい発想でものを作り出す）だ						
20	私は温和（おとなしくて優しい）だ						
21	私は話好きだ						
22	私は成り行き任せだ						
23	私は頭の回転が速い						
24	私は寛大（心が広い）だ						
25	私は外交的（他の人に対して積極的）だ						
26	私は怠惰（すべきことをなまけて、だらしない）だ						
27	私は緊張しやすい						
28	私は興味が広い						
29	私は自己中心的だ						
30	私は陽気だ						
31	私は計画性がある						
32	私は憂鬱（気持ちが晴れ晴れしないなど）だ						
33	私は好奇心が強い						
34	私は親切だ						
35	私は軽率（物事を深く考えず行動する）だ						
36	私は几帳面だ						
37	毎日の生活に追われ、なかなか自分の時間を作れていないと思う						
38	卒業後に自分が進学したい学校や仕事について先生に相談できる						
39	どんな勉強が自分の夢を実現するのに必要かを知っている						
40	第1志望の進路に進めない時は違う進路を選択できる						
41	自分が興味を持つ仕事をしている人にその仕事についてインタビューできる						
42	自分の良さや個性を他の人に説明することができる						

43	自分の夢をかなえるために他の人があまり選ばない進路を選択できると思う						
44	自分の理想の仕事についてなぜその仕事に就きたいのかを説明することができる						
45	自分が進みたい学校や仕事現場を見に行きたいと思う						
46	自分は積極的に人間関係をつくることができると思う						
47	自分が興味を持つ仕事をいくつか挙げることができる						
48	自分が選んだ仕事は難しく、苦しい仕事であってもよい						
49	一度選んだ仕事に不満なら、仕事を変えたいと思う						
50	自分が活躍できる学校や仕事を選ぶのには時間がかかっても構わない						
51	働くことの意味や目的を説明することができる						
52	自分は友達と支えあいながら仕事ができると思う						
53	自分の夢を実現するために何が大切かわかる						
54	自分の発言が他の人にどのように思われているかがわかる						
55	将来の夢が叶えられないときは計画を修正することができる						
56	自分の性格にあった仕事をいくつか挙げることができる						
57	進路に関する報道（テレビなど）に興味がある						
58	好きな仕事に就くためには距離や場所を考えずにどこへ行ってもいいと思う						
59	就きたい仕事ができない時、どうすればいいか考えることができると思う						

【6.文章問題】

設問の文章を読んだうえで当てはまるものに○をつけてください

1. 以下の文のうち、最も論理的に矛盾していると考えられるものはどれか。

- (A). すべての果物は甘い、レモンは酸っぱい果物であり、甘くない。
- (B). 太郎はサッカーが得意で、花子は太郎よりもサッカーが上手い。しかし、花子はサッカーが好きではない。
- (C). 犬は哺乳類であり、ライオンも哺乳類である。しかし、犬はライオンではない。
- (D). 高橋さんは日本人であり、日本人の多くが日本語を話す。したがって、高橋さんは日本語を話す可能性が高い。

回答 (A) (B) (C) (D)

(会話 A)

ミカン主任:「日本の国際競争力はここ数年で劇的に落ちてきているようだ。実際に、ヨーロッパに本社を置く△△社が発表している国際競争力ランキングでは、日本が5位から20位に低下してしまっている。」

メロン部長:「△△社のランキングは、ヨーロッパの国に有利な基準で評価することでよく知られている。そのため、アジアである日本にとっては不利なランキングであり、信頼できるものではない。だから、日本の国際競争力が低下しているとは言えないよ。」

(会話 B)

マロン社長:「我が社における最大の経営課題は業績不振である。この危機を乗り越えるために、我が社が取るべきアクションを考えてほしい。」

メロン部長:「まずは売上高を向上させるための施策を取る必要があるでしょう。例えば、製品ラインナップの充実や、営業人員の補充などが考えられますよね。」

ミカン主任:「たしかにメロン部長の意見には賛成できますね。まずは、我が社の売上高の要素を分解し、売上向上への効果が最も大きいアクションを選定してみましょう。」

回答

(A) 会話 A: 矛盾していない、会話 B: 矛盾していない (B) 会話 A: 矛盾していない、会話 B: 矛盾している

(C) 会話 A: 矛盾している、会話 B: 矛盾していない (D) 会話 A: 矛盾している、会話 B: 矛盾している

3.

女性の A さんは、服を選ぶのが面倒なので、毎日同じ種類の T シャツを着ています。A さんは不潔なことが嫌いなので、ちゃんと毎日着替えています。

さらに、A さんは洗濯をするのも嫌いなので、毎週日曜日にまとめて服をクリーニング屋にきれいにしてもらっています。またその時、先週の分をまとめて受け取っています。

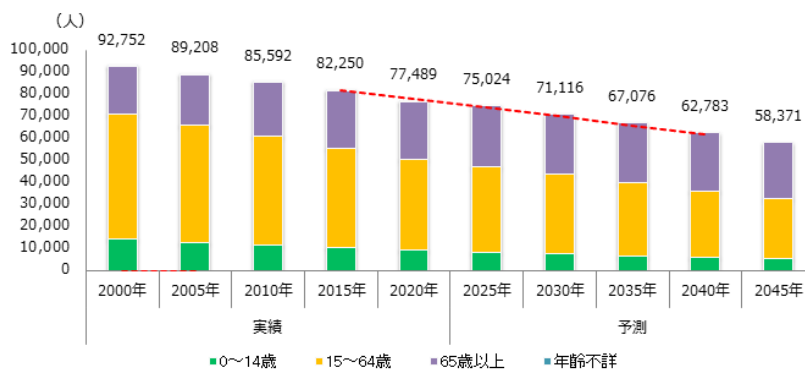
この条件のもとでは、A さんは同じ種類の服を最低でも何枚持っている必要がありますか。

回答 (A) 13 (B) 14 (C) 15 (D) 16

【7.豊岡市について】

下の図は総務省などのデータを基に豊岡市の人口推移が予想されたものです。研究結果によると今後 2020 年から 2045 年までには人口がさらに 24.7%減少し、約 5.8 万人となる見込みです。また、2045 年の豊岡市の平均年齢は、2020 年の 50.7 歳から 4.8 歳上昇し、55.5 歳となる見込みです。以上のことから豊岡市では少子高齢化がさらに進んでいくことがわかります。

豊岡市の人口推移



上記の図や文章を読んだうえで、以下の質問に対して、

- ① そう思わない ② どちらかといえばそう思わない ③ どちらでもない
④ どちらかといえばそう思う ⑤ そう思う

のいずれかに○をつけてください

	質問	①	②	③	④	⑤
1	豊岡市の少子高齢化は深刻である					
2	豊岡市をなんとか活性化（地域おこしなど）させたい					
3	豊岡市に残って働きたい					
4	高校卒業後も引き続き豊岡市に住みたい					

5. 豊岡市を明るい未来に導くために必要なアイデアを1つ提案してください

以下の質問に対して、親・友人・先生に関して

- ① 当てはまらない ② どちらかといえば当てはまらない ③ どちらでもない
④ どちらかといえば当てはまる ⑤ 当てはまる

のいずれかの**数字**を記入してください。(ex.⑤ 当てはまる→数字の5を回答欄に記入)

	質問	親	友人	先生
1	私にとって大切な存在である			
2	私に対して興味を持っていてくれると思う			
3	私のことを理解してくれていると思う			
4	私が元気ではない時に励ますなど、声をかけてくれる			
5	困ったことがあったときには積極的に相談したいと思う			
6	私が何かを成し遂げた時には心からおめでとうといってくれる			

【8.基本項目】

以下の質問に対して当てはまるものに○または数値を記入してください

1. あなたの学年について教えてください

- ① 1年 ② 2年 ③ 3年 ④ 4年 ⑤ 5年

2. あなたの年齢について教えてください

歳

3. あなたの性別について教えてください

- ① 男性 ② 女性 ③ 答えたくない

4. あなたの兄弟姉妹の人数について教えてください

(いない場合は0人と記入してください)

兄 人 弟 人 姉 人 妹 人

5. あなたを含むご家族の人数を教えてください

あなたを含んで

人

6. あなたの学科について教えてください。

① 総合学科 ② 電機応用工学科 ③ 環境建設工学科

7. あなたの出身地について教えてください。(当てはまるものに○をし、市町村名や県名をご記入ください)

① 兵庫県内 () 市 or 町 ② 兵庫県外 () 県 or 府

8. あなたの居住地について教えてください。(豊岡市に在住の方は①～⑥のいずれかに○をしてください)

① 豊岡地域 ② 城崎地域 ③ 竹野地域 ④ 日高地域 ⑤ 出石地域 ⑥ 但東地域

⑦ 兵庫県内(豊岡市を除く) () 市 or 町 ⑧ 兵庫県外 () 県 or 府

9. あなたの前学期の評定平均を下の記入欄に記入してください

評定

10. 英検を取得していますか？

① 未受験 ② 受験したが取得なし ③ 5級 ④ 4級 ⑤ 3級
⑥ 準2級 ⑦ 2級 ⑧ 準1級 ⑨ 1級

11. TOEIC (Listening & Reading)を受験したことがありますか？

受験したことがある人は最終スコアも下の記入欄に記入してください

① 未受験 ② 受験あり

score

12. 文理選択について教えてください

① 文系 ② 理系

質問は以上です！ご協力ありがとうございました



調査票（路上調査）

関西学院大学 経済学部 栗田研究会
就職や地域と居住地域に関する一般アンケート

2023/ /

【地元志向・就職意識についての質問】

Q1. 就職経験はありますか？ [①はい→Q2～Q4 ②いいえ→Q5]

Q2. 就職先の場所について、a.あなたが過去に最終的に最も重視したもの・

b.もししがらみなしに今勤務地を選ぶなら何を最も重視するかを、それぞれ **1つ**選んでください。

[①実家から通える距離内 ②地元 ③関西圏 ④東京・大阪などの大都市

⑤そのほかの特定の地域で就職 ⑥勤務地にこだわりなし] → [a. _____] [b. _____]

Q3. 就職する**以前**（卒業進路を考え始めた時期）の将来の仕事への認識を教えてください。

←①当てはまらない ②あまり当てはまらない ③どちらでもない ④やや当てはまる ⑤あてはまる→

- | | | | | | |
|-------------------|-----|---|---|---|-----|
| a. やりたい仕事が明確だった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| b. 公務員になりたかった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| c. 国際的な仕事をしたかった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| d. 専門性の高い仕事をしたかった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| e. 独立・起業したかった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |

Q4. あなたの就職活動について教えてください。

- | | | | | | |
|-------------------|-----|---|---|---|-----|
| a. 就職活動に意欲的だった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| b. すぐに取り掛かった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| c. できれば働きたくなかった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| d. フリーターもやむを得ない | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| e. 就職活動が不安だった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| f. 親や友人と就活の話をした | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| g. 親に地元就職を進められた | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| h. 親と意見が合わなかった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |
| i. 家族や周りの影響が大きかった | [① | ② | ③ | ④ | ⑤] |

Q5. 大阪や東京などの大都市へのあこがれがある [① ② ③ ④ ⑤]

【生活環境と居住者の生活の評価についての質問】

あなたの街について、**10点満点**で点数を教えてください。 [1:全く良くない — 5:普通 — 10:大変良い]

Q6. 街の清潔さ		Q13. 地域コミュニティの連帯感	
Q7. よく歩く道の日当たり・明るさ		Q14. 街の治安	
Q8. 街並みの美しさ		Q15. 買い物（食品や日用品）の便利さ	
Q9. 街の解放感		Q16. 買い物（服や趣味など）の便利さ	
Q10. 街の歩きやすさ		Q17. 通勤のしやすさ	
Q11. 行政への信頼感		Q18. 幼稚園・保育園の利便性	
Q12. 近隣住民との信頼関係		Q19. 住宅の満足度	

【地域社会との繋がりについての質問】 **1～5で回答してください。**

←①当てはまらない ②あまり当てはまらない ③どちらでもない ④やや当てはまる ⑤あてはまる→

	小学生のとき	中学生のとき	高校生のとき
Q. 地域や文化に関する授業がよくあった	Q20.	Q22.	Q24.

←①当てはまらない ②あまり当てはまらない ③どちらでもない ④やや当てはまる ⑤あてはまる→

- Q26. 高校卒業**以前**、家族友人含め地域とのつながりがあった [① ② ③ ④ ⑤]
Q27. 高校卒業**後**、家族や友人含め地域とのつながりがあった [① ② ③ ④ ⑤]
Q28. 幼少期に自然に触れる経験がよくあった [① ② ③ ④ ⑤]

【その他】

Q29. よく利用する SNS を教えてください。(複数回答可)

[①LINE ②YouTube ③Twitter ④Instagram ⑤Facebook ⑥TikTok ⑦その他 ()]

Q30. SNS を利用する目的を教えてください。(複数回答可)

[①知人とのコミュニケーション ②興味のあることへの情報収集 ③暇つぶし ④自分の情報や作品の発信
⑤災害発生時の情報収集・発信 ⑥新たな交流を広げる ⑦昔の友人を探したい ⑧その他 ()]

Q31. 小学生から高校までで最も印象に残っている修学旅行の場所と内容を教えてください。

[____] 学生 [場所: ____] [内容: ____]

Q32. 中高生時代に、ハマっていた漫画やアニメを教えてください。(自由記述)

[_____]

【あなたの性格について】(1～7の7段階でお答えください)

直感で [←1:全く当てはまらない 4:どちらでもない 7:とても当てはまる→] の数字を教えてください。

Q33. 活発的で外交的だと思う		Q38. 控えめでおとなしいと思う	
Q34. 他人に不安を持ちもめ事を起こしやすい		Q39. 人に気を遣う優しい人だと思う	
Q35. しっかりしていて自分に厳しい		Q40. だらしなくうっかりしていると思う	
Q36. 心配性でうろたえやすいと思う		Q41. 冷静で気分が安定していると思う	
Q37. 新しいことが好きで変わった考えを持つ		Q42. 発想力にかけた平凡な人間だと思う	

Q43. あなたがもし以下の異なる3つの仕事を選ばししたら、どれを選択しますか？

①初任給から平均的な収入をずっともらえる ②初めの2年は低収入だが、その後は高収入である

③初めの4年間はかなり低収入だが、その後はかなり高収入である → [_____]

【基本項目】

Q44. あなたの性別について教えてください。

[①男性 ②女性 ③その他]

Q45. あなたの年齢について教えてください。

[①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥70代 ⑦80代]

Q46. あなたの出身地について教えてください。

[①現在と同じ市町村 ②兵庫県その他の市町村 () 市 ③兵庫県以外 () 県]

Q47. あなたの最終学歴について教えてください。

[①中学校卒 ②高校卒 ③専門学校卒 ④短期大学卒 ⑤大学卒
⑥大学院修了 ⑦その他]

Q48. あなたの収入について教えてください。

[①300万円未満 ②300万～400万円未満 ③400万～500万円未満 ④500万～600万円未満
⑤600万円～700万円未満 ⑥700万～800万円未満 ⑦800万～900万円未満 ⑧900万～1000万円未満
⑨1000万円以上 ⑩わからない・答えたくない]

Q49. あなたの就労状況について教えてください。

[①会社員 ②自営業 ③パート・アルバイト ④公務員 ⑤専業主婦・主夫 ⑥その他
()]

Q50. あなたの婚姻ステータスについて教えてください。

[①未婚 ②既婚 (離別死含む)]

Q51. あなたの居住地を教えてください [① 兵庫県内 ()

市 or 町) ②兵庫県以外 () 県]